

關西建築協會雜誌

第一輯 第十四号

大正七年十二月廿五日

關西建築協會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ眞實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラント希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分ケテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員氏名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラント欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ廣告シ其他會ノ目的ヲ貫徹スルニ必要ナル事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表シ但多額ノ金額ヲ要スル事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表シ但多額ノ金額ヲ要スル事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表スルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ノ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ命ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

第十七條　委員會ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諮詢事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ懇親會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ擔出ス

第二十條　但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ翌後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六箇以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

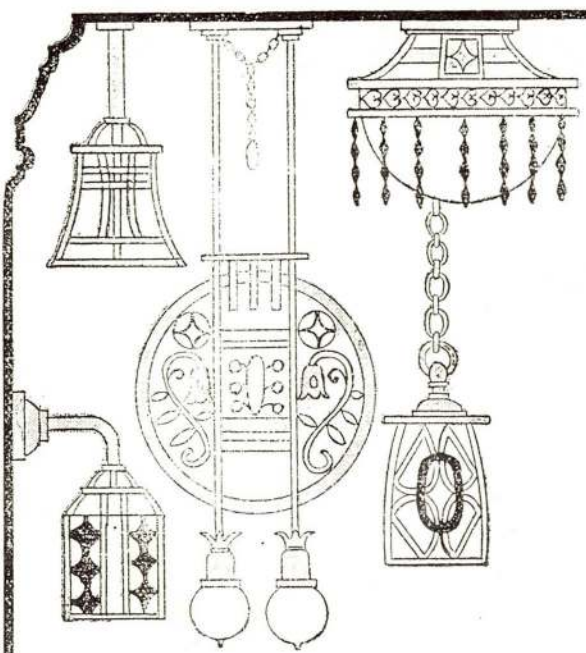
本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

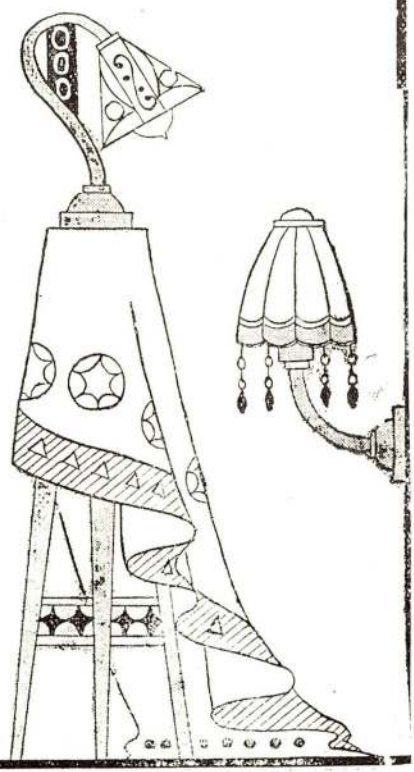


營業要目

電氣部　電燈取付、電線路建設
電燈裝飾器具
電氣諸機械器具材料
電話、電鈴、避雷針

機械部　エレヴエーター（昇降器）
架空索道、諸機械器具
エンドレス運搬軌道
門棚、建築用諸金具

製造輸入販賣
工事請負
測量・製圖・圖案
設計　監督



A&K

合名會社 秋山小林商店

本店　東京市京橋區三十間堀一ノ三
電話京橋長一四七三番

工場　東京市芝區愛宕下町二丁目
東京市芝區櫻田備前町

出張所　大阪市東區今橋五丁目
電話本局長二五九四番
臺北龍匣口庄四四八
電話九五二番

關西建築協會雜誌 第壹輯 第十四號

目次

□ 繪
大阪市中央公會堂觀覽當日の群集(三色版)
大阪市中央公會堂の正面、側面、背面、貴賓室、中食堂、地下食堂
本會第一回大會通俗講演會のその日(一)(二)
本會第一回大會晩餐會のその夜(一)(二)

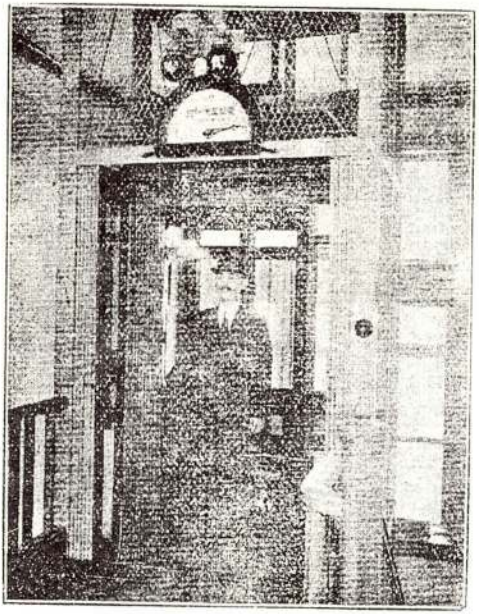
△小住宅問題の勃興 …… 一
△都市住宅問題 …… 大阪市 高級助役 關 一
△建築批評家の出廬を望む …… 會員 秋水生 二
△家相論 …… 會員 葛野壯一郎 五
△都市と建築 …… 會員 都市研究生 一五
□三十年後の大阪(六) …… 一五
△女流の建築觀 …… 一五
□良いと感じたこと …… 松岡病院長 松岡都奈子 談 三六
□肝要な室々の構造 …… 松岡道路氏夫人 女子大學敎授 井上秀子 談 三九

□洋館に住んでよいと思ふことは……藥學博士木村彦衛門氏夫人……木村永子談……四二
△京都古建築觀（四）……特別賛助員……伊藤清造……四六
△計畫と設計……會員……波江悌夫……五六
△戰の跡……會員……野人生……六二
△大阪中央公會堂建築工事に就て……會員……谷民藏……六六
△本會第一回大會記事……八八
△時報……九九
□議院建築意匠設計懸賞募集に關する質疑應答（續）……臨時議院建築局
□建築業協會と建築材料及工手間調査（續）……
△會報……一一〇
△編輯たより……一〇一

附錄

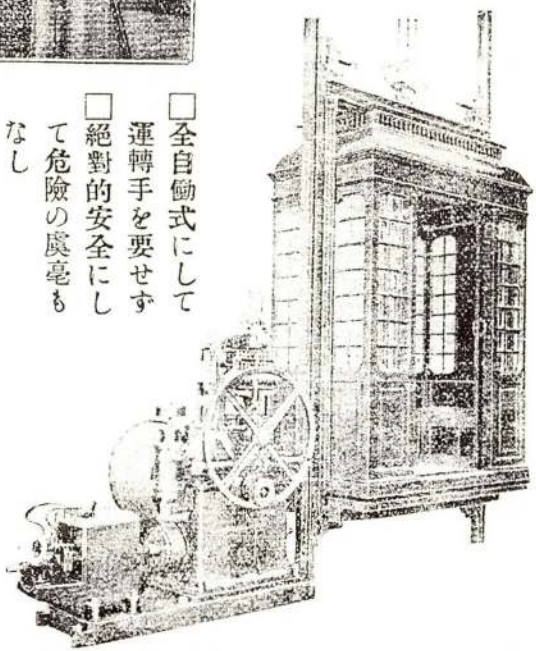
西關建築協會雜誌第壹輯自第一號至第十四號主要總目次……一六頁

東松式
安全自働エレベーター及リフト



エレベーター、リフト、最近の御注文先

○辰野片岡建築事務所○古河鑛業會社○伊藤忠合名會社○岸本製釘會社○三菱株式會社長崎造船所○竹中工務店○大阪市公會堂○大阪倶樂部○山下汽船合名會社○南海鐵道會社○神戸銀行集會所○大阪電氣倶樂部○東洋紡績會社○石原時計店○日本綿花會社○神戸海員集會所○東京淺野スレート會社○大連島久商會○石原赤金鑛山○米井商店○大阪電燈株式會社心齋橋陳列所○大阪窯業株式會社○小橋塚本商店○兵庫縣立農工銀行○大正貯金銀行○大連南滿鐵道病院



□全自働式にして運轉手を要せず
□絶對的安全にして危險の虞毫もなし
□機械堅牢にして破損の憂ひなし
一電力用、水力用、蒸氣用、手働用、
一客用、荷物用、
料理昇降用

大阪市北區南安治川通一丁目

東松工作所

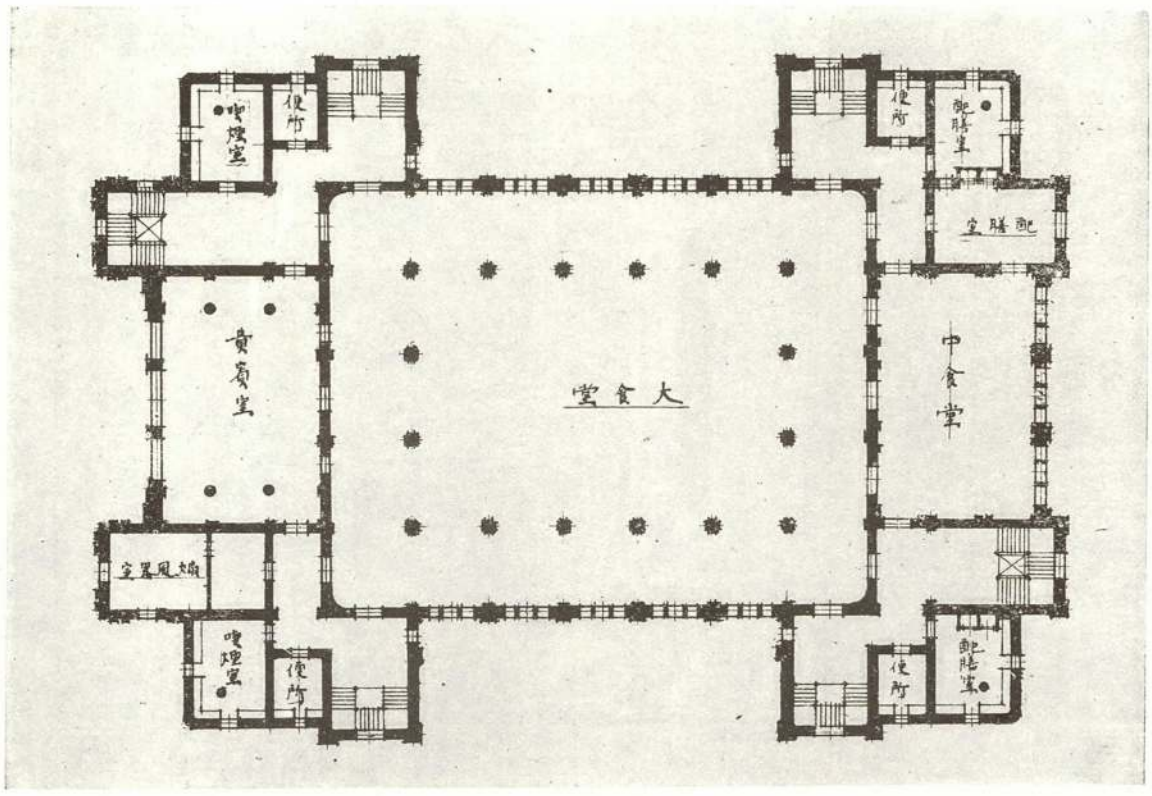
電話西三六九九番

分工場　大阪市西區北境川町一六八番地

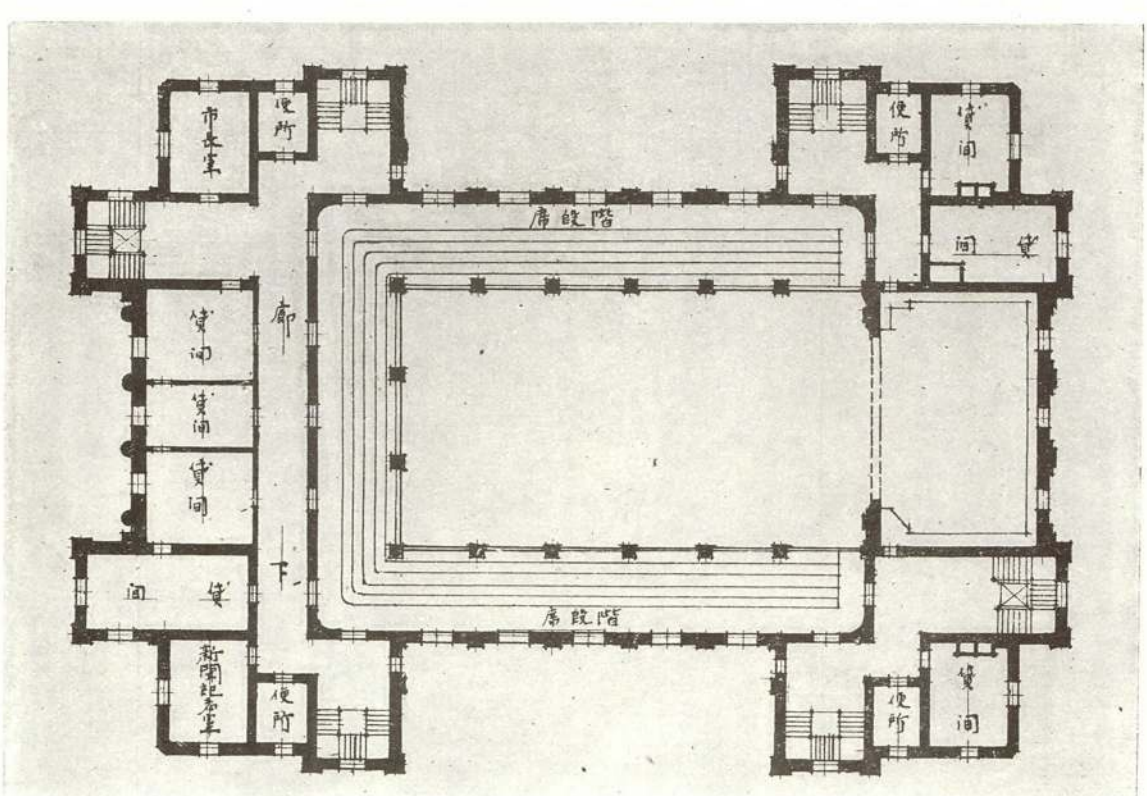


大阪市中央公會堂觀覽當日の群集

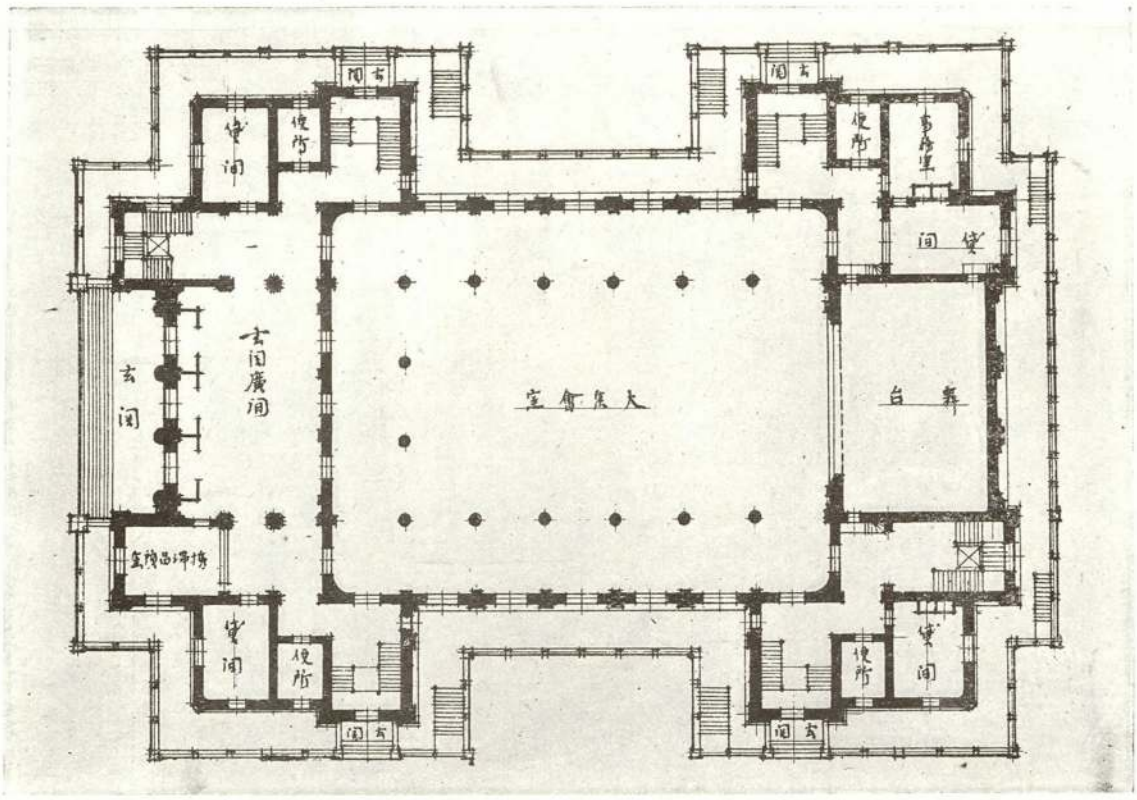
大阪市中央公會堂新築平面圖



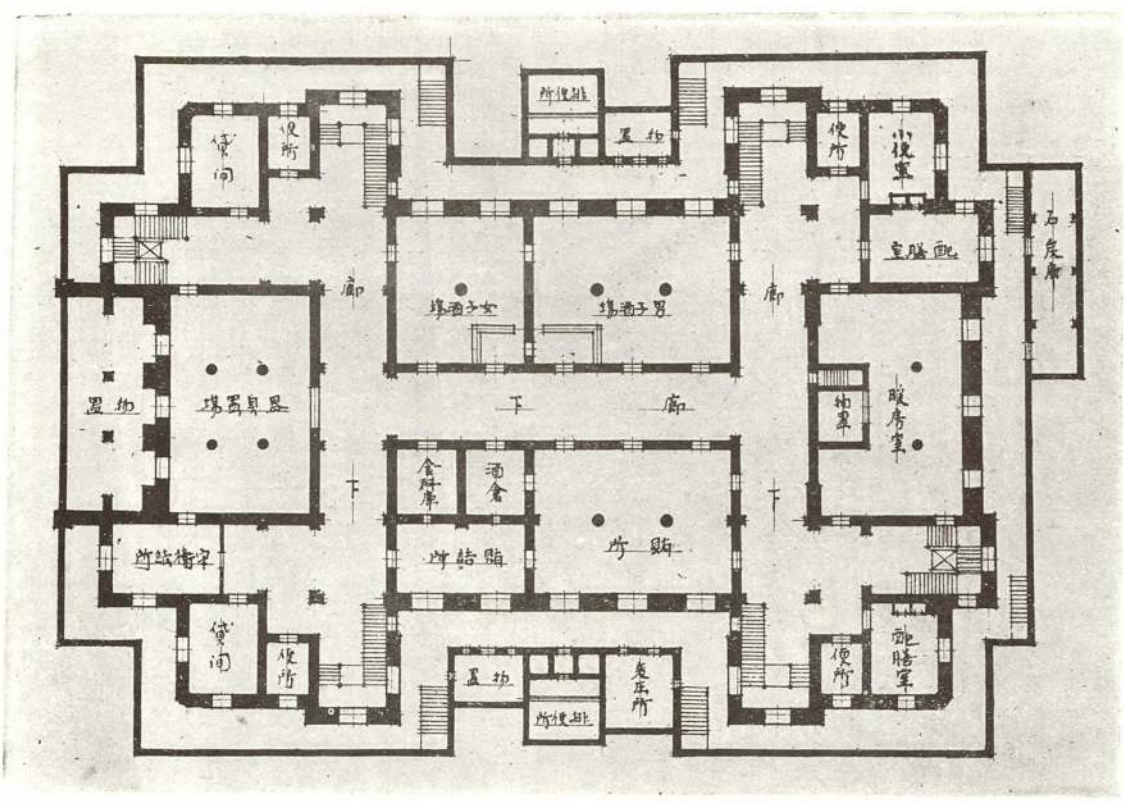
第三階平面圖



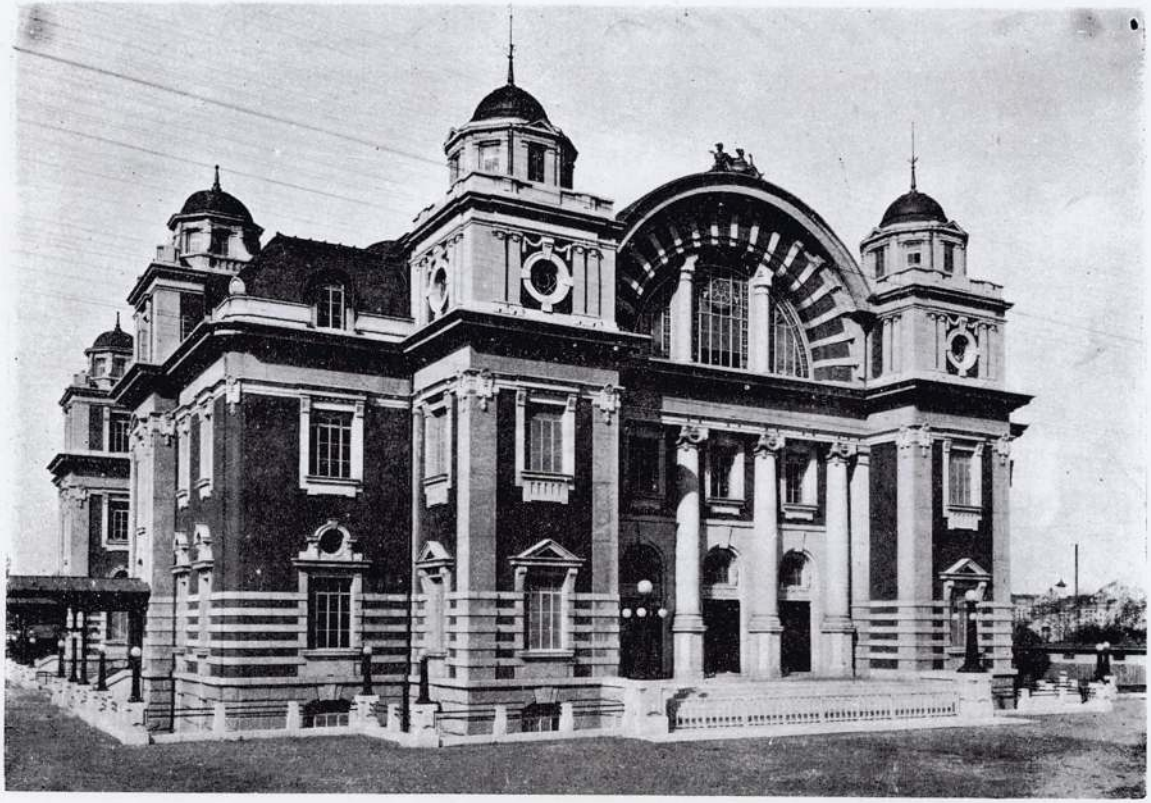
第二階平面圖



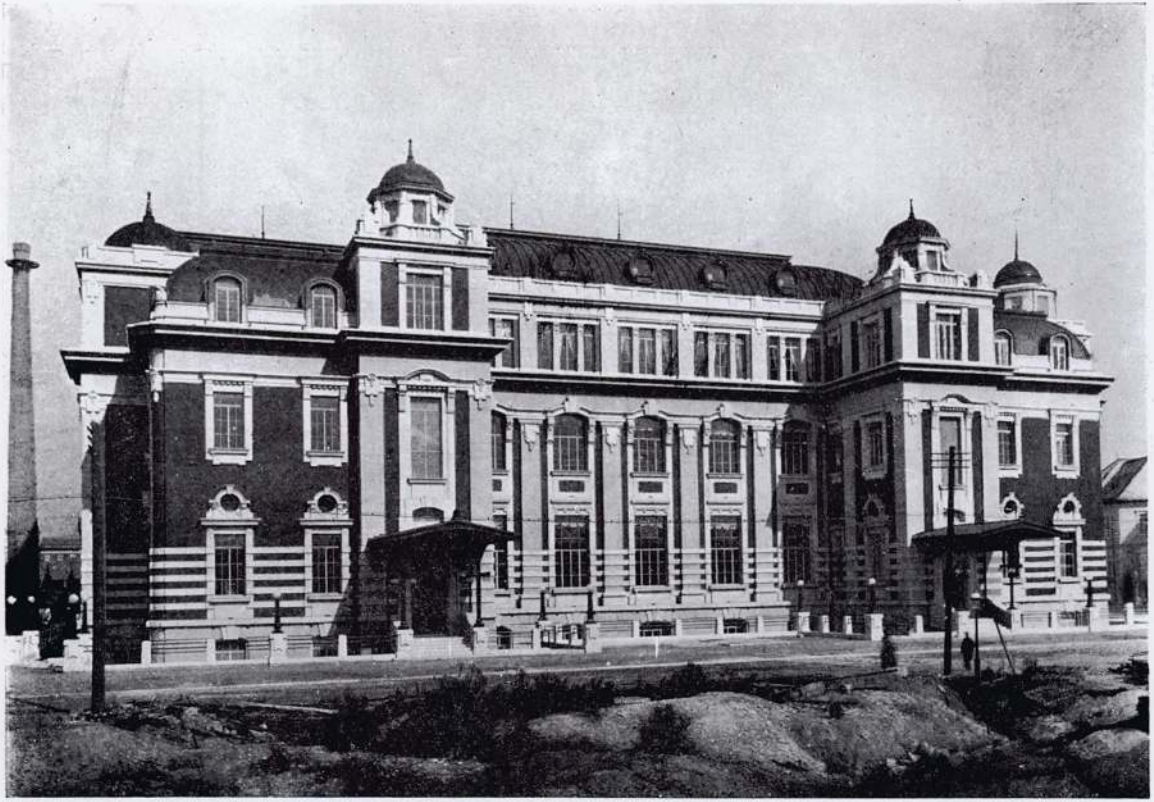
第一階平面圖



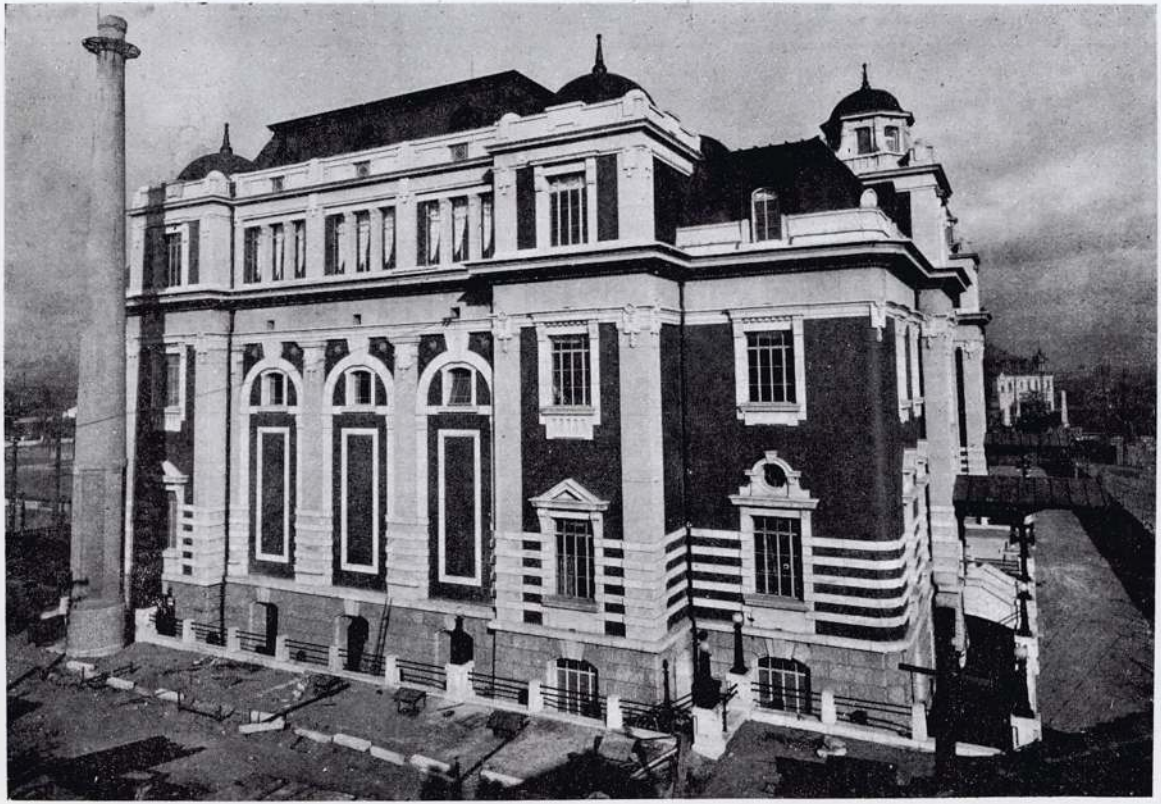
地中階平面圖



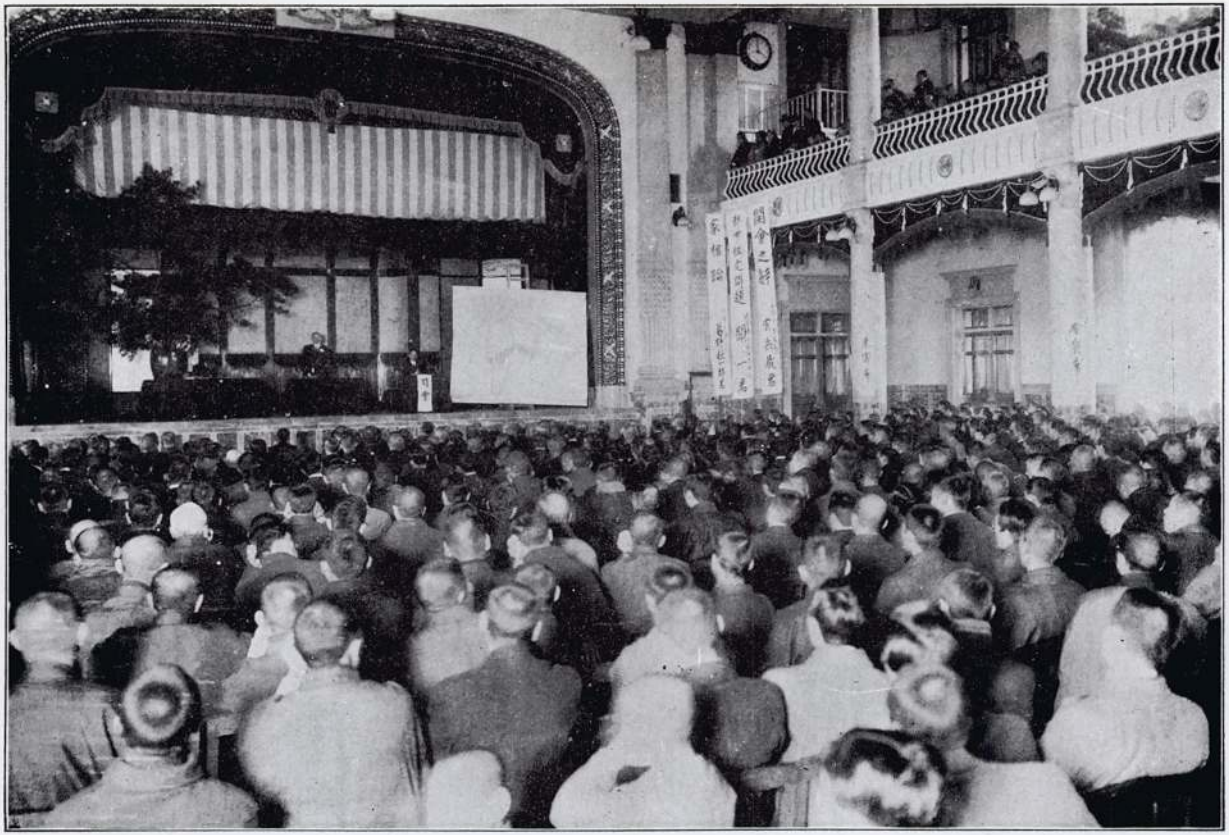
大阪市中央公會堂正面



大阪中央公會堂側面

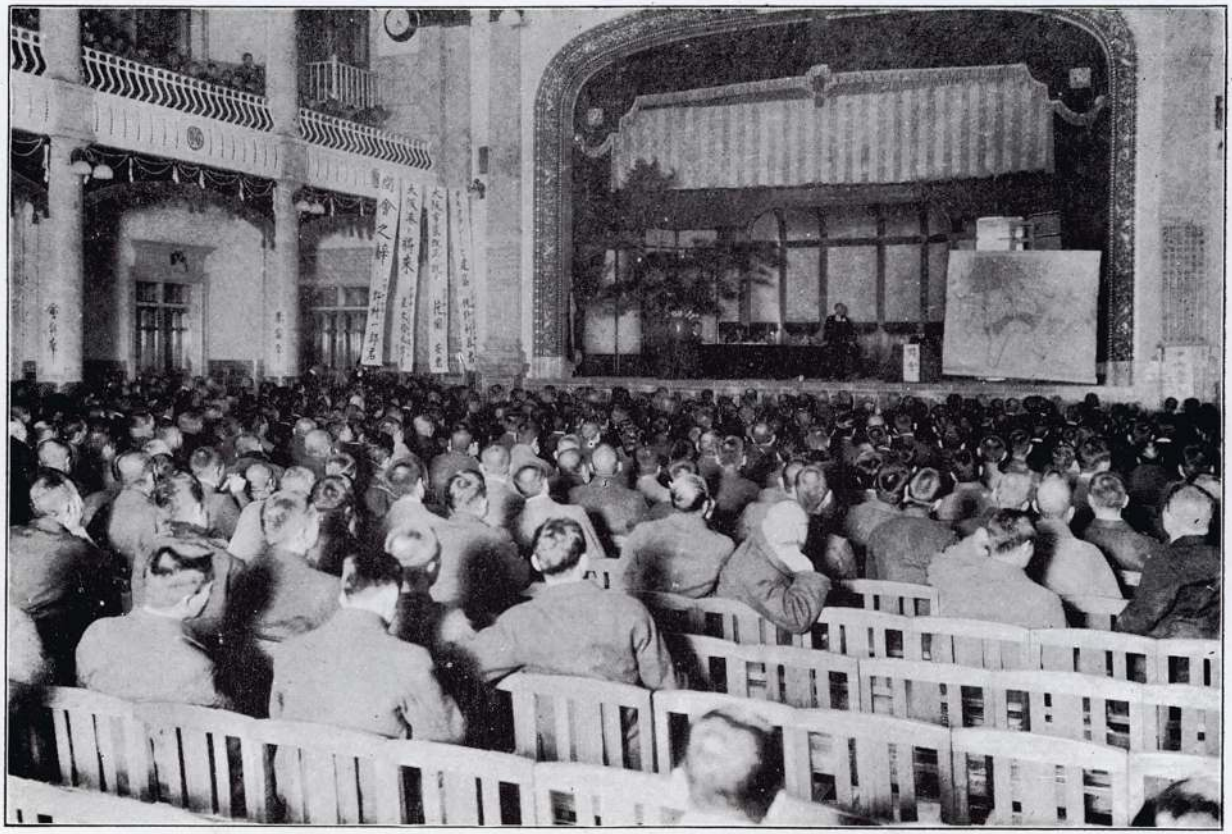


大阪市中央公會堂背面



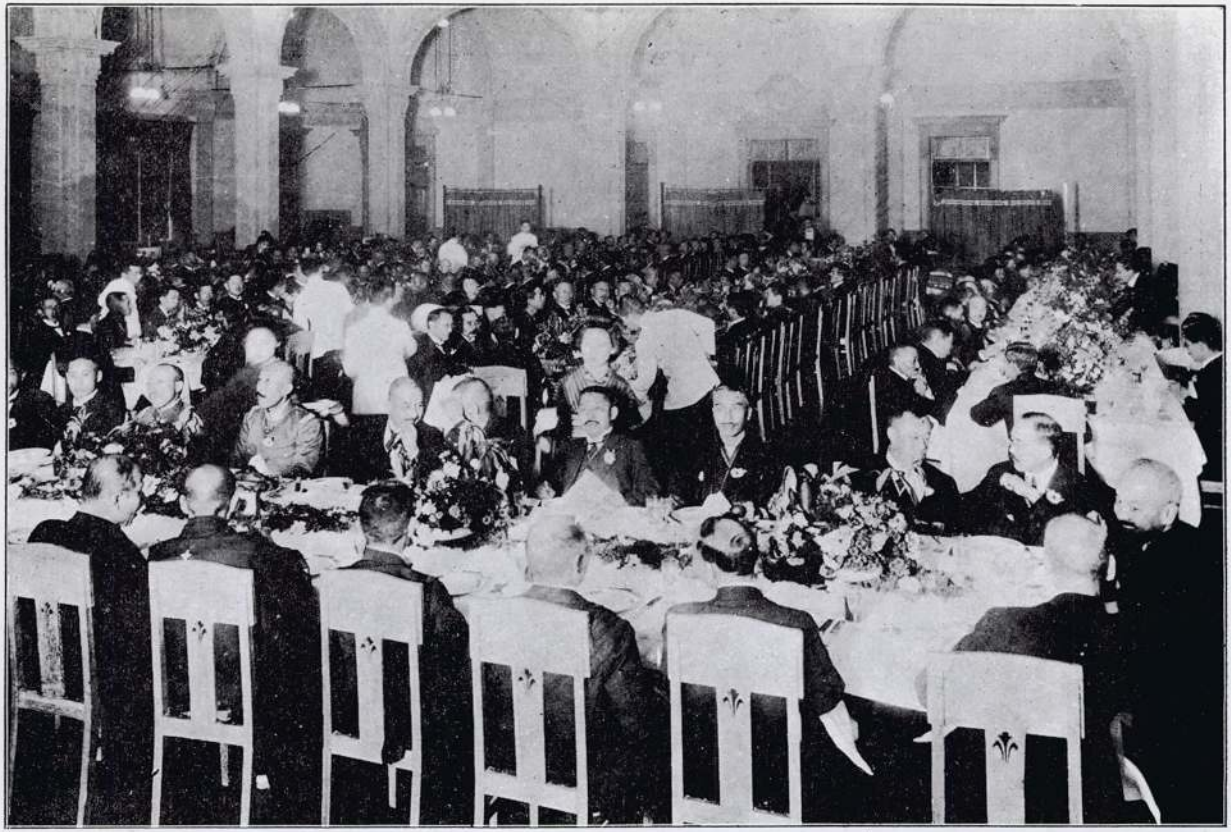
司會席に在るは委員長宗兵藏氏にして演壇に立てるは工學士片岡安氏なり。

本會第一回大會通俗講演會のその日（一）



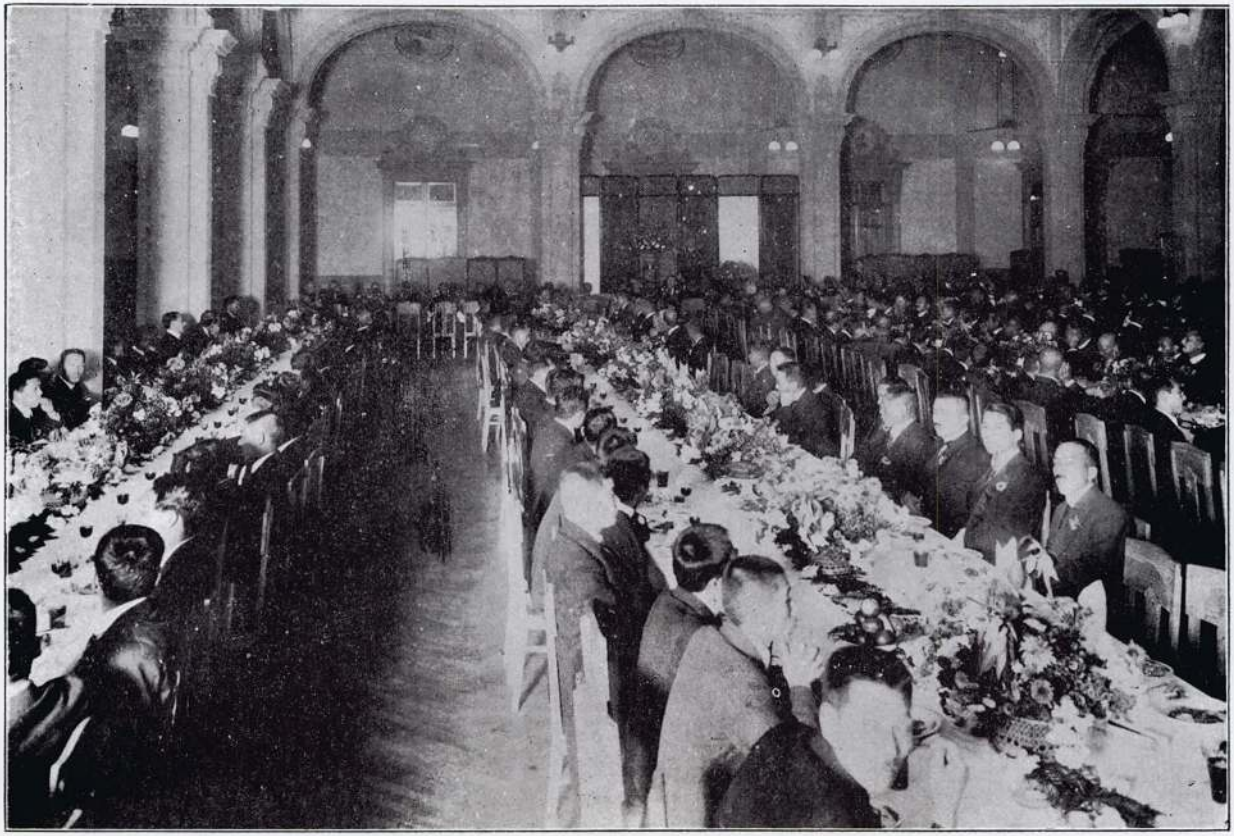
司會席に在るは理事野村一郎氏にして演壇に立てるは工學博士直木倫太郎氏なり。

本會第一回大會通俗講演會のその日（二）



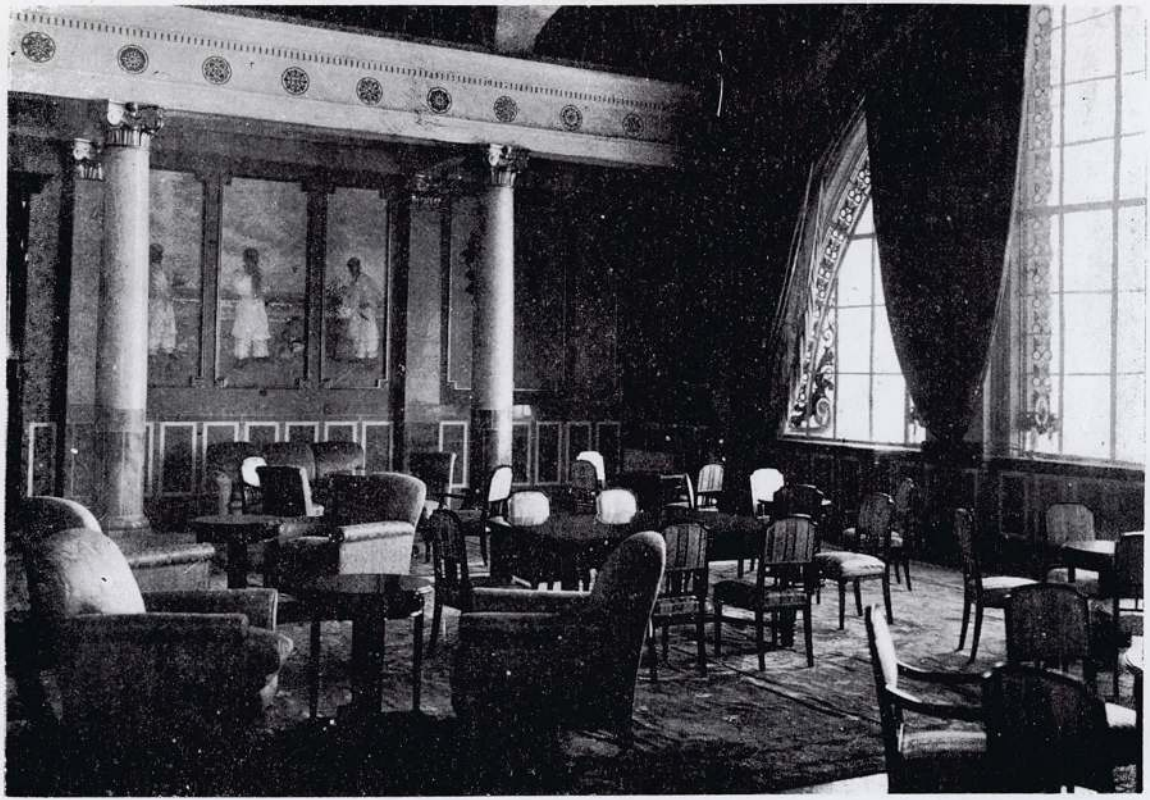
大阪中央公會堂大會食堂に於ける盛宴にして來賓會員を合せて三百餘名と注せらる
寫眞は會場西部より撮りたるもの

本會第一回大會晩餐會のその夜（一）

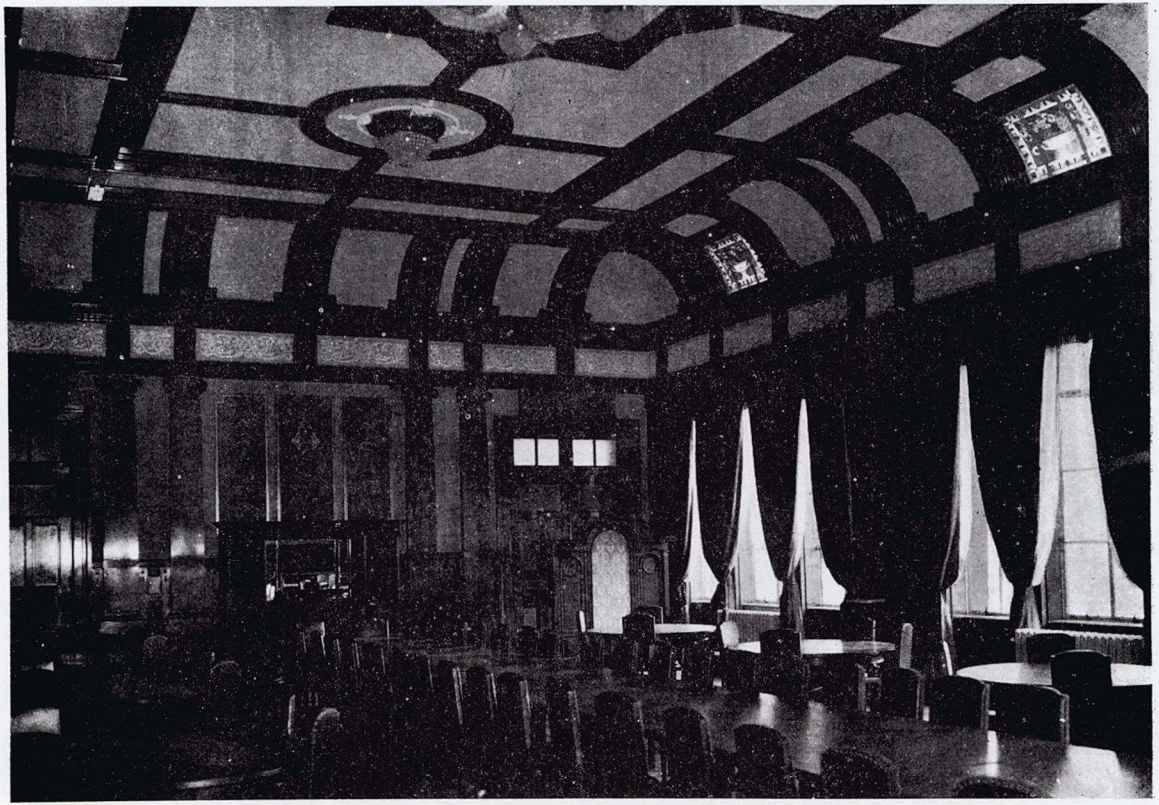


本會第一回大會晩餐會のその夜（二）

宴正に酣なるのとき壇上に立てるは本會理事長片岡安氏なり、會員一同に代りて一場の挨拶をなしつゝあり、寫眞は食堂の東部より撮りたるもの



大阪市中央公會堂三階貴賓室



大阪市中央公會堂三階中食堂



大阪市中央公會堂地中階食堂



小住宅問題の勃興

近時我國の大都市を中心とする救濟事業調査の進捗刮目して見るべきものあるは著しき社會現象の一たるを失はず。住宅問題は二十世紀文明の齎らしたる一大潮流にしてあらゆる社會政策に超越したる社會的要求たる以上、其解決は文明國民の最も眞率に研究すべき事項たらざるを得ず。歐米の各國は各其方法を異にすれども、其解決に向つて國家的努力をなさゝるはなく、殊に英國の如きは二十六年前に發布したる住宅法に準據して極力其施設を奬勵しつゝ來りしが、此次大戰亂後の政策中に於ける一大要項として住宅建設を聲明するを見る。近くは紐育市が一億圓に近き巨資を支出して十數萬の勞働階級に住宅を供給すべく其建設を急ぎつゝあると聞く。我國の爲政家が將さに來らんとする我國の社會改良の叫びに先んじて、小住宅問題の解決を試みんとするは、正さに時運に適合したる方針たるを失はずと雖も、其調査の方法の姑息不徹底にして徒らに議論に流れ、實際に適合せざるやの憾あるは、吾人の窃に心痛に勝へざる處なり。



都市住宅問題

大阪市助役
法學博士　關　一

（於第一回大會）

今日關西建築協會に於きまして此の講演會をお催しになり、其の第一席として私が講演を致すことは誠に光榮と存じます。それと同時に今日の講演會は主として市區改正即ち都市計畫に關係の事柄を目的としてお開きになつたことは、我が大阪市に取りまして非常に重要な意味のあることゝ考へます。

先頃政府に於きましても都市計畫調査會を設けられ、又本年春の議會に於いて東京市區改正條例を京都、大阪其の他の都市にも準用するといふ法案が提出可決せられました。其提出の理由として政府の考へて居られたのは、大阪市の市區改正に法律上の規定を設くることが現時の急務であると認めたからである。

又現在の大阪の狀態を御覽になつて居る諸君に於きましては、此の市區改正が、大阪市民に取つて差當り目下の急務であるといふことを、認めない譯に行かないであらうと思ふのであります。併しながら都市計畫、市區改正事業を實行するに當りましては之には餘程の困難がある　從て餘程の決心を以て行らなければならないことであらうと思ふ。此の困難に打勝ち十分の決心を以て此の大

事業に取り掛るに就きまして、先づ以て此の市區改正事業がどの位に必要であるかといふことに就いて、市民の自覺が第一番の必要條件であらうと考へるのであります。此の意味を以て今日の講演會を開かれましたことは、大阪の市政の一部に干與つて居る自分として特に感謝の意を表したいと考へる次第であります。

さて私の演題は『都市住宅問題』といふことでございますが、無論時間の制限にございますし、又格別調査を致して居る暇がございませぬので、餘り諸君に取つて有益なことは申上げ兼ねると思ひまするが、暫く御清聽を煩はします。

諸君は既に御承知のことゝ考へますが、先頃歐羅巴の西部戰線に關して休戰條約が成り立ちました後引續いて、英國では此の十二月の十五日に議員の總選擧を行ふことになつた、それに就きまして現に總理大臣である所の「ロイドジョージ」氏が自分の主義綱領を發表し、それに關する所の電報が十一月の十六日だつたと思ひますが日本の新聞に載つて居ります、其の中に斯ういふことが言ふてあります。『此の戰爭に依て英國の國家の組織に於いて欠点のあること並に人又は物資に於いても從來英國が之を浪費して居つたといふことは、吾々の自覺しなければならないことである、殊に今回の戰爭に於ける英國の徵兵に關する統計に就いて其の欠点は明かになつて居る』と云ひ、進むで英國に於ては他の何れの交戰國よりも躰育上に於いては不合格者が多數であつたことを示して『其の原因は何であるかと言ふと英國が貧窮であつたといふことではなくして、住宅の欠陷、過度の勞働、飲み過ぎといふやうな点にある』とし之に續いて「ロイドジョージ」氏は曰く『住宅問題は

國家的事業である』と斯ういふことを言つて居る。此の住宅問題が國家的事業であるといふことに就きまして、我國に於いて此の事を十分に理解する者が幾人あるかと私は考へるのであります。現今大阪に於きましては貸家を探しても容易に得られないで困つて居る人が多數にある、則ち家賃が高いといふ許りでなく、近頃の大阪にはどの方面にも殆ど貸家が無いといふ有樣である。併しながら之に就きまして此の問題を國家的事業として解決しなければならないといふことを考へて居る人が果して幾人あるであらう。恐らくは住宅問題といふことは悪い家主を征伐すれば宜しい、家主を攻撃し家主に對して批難を加へることに依つてのみ住宅問題を解決することが出來るといふ風に考へて居る人は大分ある。無論家主も多數のことであるから中には不當に家賃を上げるといふやうな家主もありませう、又悪い差配人等も澤山にあるが、併し悪家主征伐差配人攻撃位のことでは到底住宅問題を解決することが出來ない。例へば家主の中にも悪い者もありませうが、借家人の方も是亦多數であるから必ずしも善良な者ばかりであるとは言へませぬ、中には家賃を拂はない者もある之は誰しも判つて居ることでありますが、家屋の使用の狀態に就ても家屋に對する觀念が不十分である爲に、家の維持保存上といふ點から、家主の方より觀れば隨分困つたものであるといふやうなやり方をする人もあらうと思ふ。それから借家の一部を變じて仕事場等に使つて居る者もありませう、又都市の問題として而も隨分面倒な問題である所の一定の地積に多數の人間が住ひ過ぎるといふやうな原因を爲す所の同居人を澤山置く所謂間貸をするふいふ者もあらうと思ふ、さういふ譯であるから家主ばかりを批難しても住居問題の眞相には觸れて居らない。私は決して家主の辯護をす

る譯ではなく—私自身も今日までズーッと借家人の一人ですから決して家主の辯護をするのではないが、—單純に家主の批難と云ふことに依つてのみ此の問題を解決することは出來ない。又密集住居が惡いからと言ふて其の源因が借家人が間貸をすることにあるとしても、之とて借家人が好んで他人を同居させるのではなくして、生計上已むを得ず間貸をするのである、今少しく同居人の問題に就いて申ますれば、間貸又は素人下宿等は密集住居を惹起する一原因である許でなく道德上の弊害即ち新聞記事等に現れる所の同居人の男女の關係なども之から起ることが少くない。併し此問題も借家人丈を批難して決して解決し得るものではない。

乃ち今日文明諸國に起つて居る住宅問題は家主、借家人の心得違ひを改めると云ふが如き單純なる問題でない、問題の範圍はモット廣く、又近世都市に於ける發達に基いて非常に深い原因を有つて居るのでありまして、個人の力を以て之を矯正することは殆んど絶望である、國家事業として國家も個人も協力して眞面目に其解決に努力せなければならぬ問題である。英國の總理大臣が言つたのは寔に意味のあることである。休戰條約を締結して僅々數日しか經たない時に方り此の語を英國の總理大臣が言つたといふことは、英國民の考への深い所で、又「ロイドジョージ」氏の餘程傑出して居る所ではないかと思ふのであります。

さて、住宅問題は今日に於ては決して都市に限つた問題ではなく、英國では、隨分地方の農民の住宅に就いても大分色々の研究調査が行はれて居り、其の改良に就いても問題があるやうでありますが、併し今日まで住宅問題の中心を爲して居るものは無論都市に於ける住宅問題である。此の都

市住宅問題の起りましたのはツマリ近世都市の發達と共に都市に人口が急激に集まつて來ることが原因であるのは申すまでも無いことで、之に就いても色々統計もございますが、畧しまして、ただ大阪の例を引いて申しますると、大阪は日本全國に於ては最も密集した住居の狀態を示して居るのであります。最近に市役所の商工課で調べた統計に據ると、大正五年に於ては大阪市の宅地千坪に付て人口が二百四十三人となつて居る。東京はどうであるかと言ふと宅地千坪に百八十三人、京都は百四十九人といふやうな割合になつて居る。それのみならず更に少し遡つて大正元年と今日とを比較して見ますと、此の大正元年から五年までの間に大阪市の宅地は十八萬坪しか殖ねて居ない。さうして人口の方は如何程增して居るかと言へば十七萬人增して居る、此の割合から申せば新に大阪市に移住して來る者は一人に付一坪しか貰へない譯である。併し全体から大阪は宅地千坪に付き大正元年には二百十九人居住して居つたが同五年には二百四十三人になつて居る。即ち千坪に三十人餘計住うといふことになつた譯である。斯ういふ統計から將來を推測して見れば現在既に全國に於て非常に密度の高い大阪市は此の勢ひで進んで參つたならば、愈々人口の密度が甚だしく過度になつて參りまして、市民はとても適當の居住を得られぬことになり、是が爲に種々の弊害が起つて來ることは見易いことであらうと思ひます。又人口の殖ねて來るといふことだけで今日の住居問題が起るといふことは言へないと思ひます。今日の如く大都市に人口が集中して來る最も大なる原因は工業の發達と資本主義の段々盛になつて參ります爲に賃金勞働者が殖ねて來たことであつて、之は何所の國に於ても共通の事實である。近世都市なるものゝ起らない以前に於ては多數の人間が自分

の家に住んで居つたのである。處が今日の大都市に於ては外から段々入つて來る者が多いと同時に賃金勞働者が殖ゑた爲に所謂借家住居が非常に殖ゑて來た。此事實に就て日本の都市に十分なる統計を調べて居りませぬが、東京、大阪等に於ては人口の八九割までは借家住居であると思ひます。伯林の如きは千分の九百十八までは借家住居である。さて、親の代から住まつて居る自分の所有家屋に住居する者を一年に二度も三度も引移る借家住居の者との住居に對する觀念は全く違ふことは申す迄もありません。今日の俸給又は賃銀に衣食する階級の生計費問題に重大な關係を持つて居るのは家賃である、從て多少井戸水が惡くとも、排水が不良でも、安い家賃の住居を希望します、大都市の近郊に移住する者の中には此階級に屬するものが多數であらうと思はれます。借家住の增加が住宅問題の骨子であることは明白である。又資本主義發達の結果今日の經濟上の生存競爭の烈しいことから此の大都市の市民の中には生存競爭に敗れて社會の最下層に陷る者も澤山に出來て、無宿者さへも少なからざる狀態を現出することがある。尙都會に新に移住して來た者の中には衞生思想が欠乏して居る爲に全く田舍同樣な生活狀態を續けて居りまして近隣の者に迷惑を蒙らしめ、惹ひて全市の衞生狀態を惡くする場合も少くない。是等の新參者中には金儲けのあるまでは成るべく家賃の安い所へ住うといふやうな者もありませうし、又見込通りの職業を得られぬ者もあり、一度職業を得た輩も大都市に於ける激烈なる社會の生存競爭に敗れて充分の生活費を得られぬことなり是等の生存競爭の失敗者が集合して所謂貧民窟なるものが發生して來るといふことは已むを得ないことである。

ソコデ大都市に於ては過度に密集して住居する部分が出來て來て衛生上から打ち棄てゝ置けない所の困つた家屋を生じ市民道德上或は風紀上から申しましても、到底其の儘に棄てゝ置けないことになり、歐米各國に於ては數十年前から其矯正策に腐心して居る次第である。故に此の問題は決して個人各自の問題では無い。家主が家賃を少し安く貸すか高く貸すといふ問題では無くして市民全体の衛生狀態に關係を持ちますことゝ思ひます。又危險思想の如きも決して田舍に起らずして大都會の特産物とも認むべきものであつて其發生の一原因は矢張り住居問題に關係する所が多いと申して差支ない、ソコデ私は住居問題の發生原因であるとか或はそれからどういふ欠陷が起つて來るかといふ點に就いて尙申し述べたいことは甚だ多いのでありますが時間の都合上それは略しまして、此の住居の改良即ち如何にして住居問題から起つて來る弊害を除くことが出來るかといふことに就いてお話しやうと思ひます。

只今申します住居政策は大別して見ると二の方面があります則ち第一に衛生上其他から見て市民の住居に不適當なる家屋又は家屋の集團が既に存在して居る時は之を除去することである。第二にはさういふことの起らないやうに豫防をする即ち豫めさういふやうな狀態が起つて來ないやうな方法を採る。此の二つが今日の大都市に於ては何れも必要になつて來た。第一の不良の家屋を除去するといふての必要は無くして將來に對して豫防をすれば宜いといふ時代であれば結構であるが、少くとも現今の文明都市に於てはさういふ氣樂な時代では無くして、どうしても既に多數に存在する不良なる住居の狀態を何とかして除かなければならぬといふ問題が眼の前に迫つて居るやうな有樣

である。

更に住居政策を他の方面から説明しますれば文明都市の理想としては、第一は少くとも市民の住居に關しては人間らしき住居に住ませることにしなければならぬ。之は所謂住居の質の問題である之と同時に第二に如何に立派な衛生上其他から見て完全なる住居を拵へましても其の家賃が非常に高いものであつては、之も亦實際役に立たないのでありますから、如何にもして家の數を殖やし即ち數量を增加し相當の直段で以て下層階級……此の言葉は惡いかも知れませぬがツマリ少額所得の者までも衛生上缺點なく充實せる市民生活をなし得る家屋を住居とすることが出來るやうにする。是が文明都市の住居問題に關する理想であらうと思ひます、即ち質を良くし量を多くして文明市民として住居に對する慾望の最小限度を滿たし得ることにするのが住居問題の最終の目的であらうと思ふ。其の手段は先づ惡いものは取り去り、適當な家屋を增加する此の二つの方法を採らなければならぬ。

さて此の不良なる家屋を除いて行くにはどうしたら宜しいかと申しますと、之はどうも或る程度までは警察力に依ることが必要である、都市に於て健康に適しない所に不健康なる家屋人間の住居に不適當なる家屋を貸して家賃を取るといふことは一つの犯罪行爲として取締つて宜からうと思ふ恰も腐つたラムチを賣るのを取締ると同じやうに、人体に及ぼす結果は一時的か永久的かの違ひがあるかも知れませぬが、腐敗したラムチの如き衛生上有害なるものを金錢の代價を受取りて賣るといふことが不可ならば、人間の住居に適當しない所の家屋を貸してそれから借家賃を取るといふこ

とは、之は今日の文明都市の狀態から申しますれば、一つの犯罪行爲として之を取締つて行くことは必要であらうと思ふ。さういふやうな方法に依りまして左樣な不良狀態にある家は貸すことを許さず又更に場合によりましては是等の家屋の取毀ちを命ずるといふ權能を府縣とか自治体が持つといふ風にするやうな法律が必要であらうと思ひます。併しながら問題が單に一軒の家屋に關することでありますれば未だ〳〵問題は簡單でありますけれども、大都市に於て斯ういふ家屋の集團が出來て來る。即ち貧民窟なるものゝ處分は實に中々面倒で且困難な事業である。之に就きましては倫敦の如きは莫大なる金をかけまして是等の家屋の存在する地域に就て土地と其の上に存在して居る所の家屋全部を收用して其の跡の全体の區劃を正しくし、或は又新しい家屋を建築しまして主として勞働者に貸すやうな家屋の建築を盛にやつて居る所の方法であります。市區改正事業と住居問題とは此點に於て密接の關係があります。それからモ一つは不良なる家屋を取除くばかりでなく、此の住居狀態に就いて干渉することが場合に依つて起つて來るのであります、先程も申します通り住居問題の一部は家屋其のものが惡いばかりでなく、其の家屋の使用狀態が惡い爲に起ることがある例へば一軒の家一つの部屋に非常に澤山な人が住うといふことになれば家屋其のものが惡いのでは無くとも、過度密集住居の狀態が發生して來るのである。是等に就いて今日歐羅巴の諸國に於ては住居法といふものを制定して居りますが、此の住居法の制定といふことが必要であります。此住居法には地下室とか屋根裏を住居として使用することを禁じ且つ一つの部屋に人間の住居する數を制限することをせなければならぬ、是等の法律を實行するに就いては工場法に於て工場監督官がある

やうに住居問題に就いても矢張り同じやうに監督の制度を設けて是等の弊害を除去して行くことを必要として居ります、之は日本に於ても近き將來に於ては此の邊まで考へを及ぼすことは必要であらうと思ふのであります。

それから次には積極的の政策として如何にして住居を增加するかといふ問題でございます、此問題は住居問題の眼目でありまするが、私の與へられた時間も殆んど經過して居りますから以下別項に就いてのことを列擧的に述べて他日の機會を待たうと思ひます。サテ今日の如く住居の欠乏する原因は何であるか、換言すれば今日の如く家賃の騰貴する原因に就ては隨分複雜な議論の發生する餘地がある、即ち家賃の騰貴と宅地の騰貴との關係に就て學者の議論は一定せぬが、兎に角家賃の騰貴を防くには或程度に宅地の供給を增加する必要がある、從つて宅地政策、土地政策は如何にするかといふ問題に立ち至つて來なければならぬ、此の土地政策に就いては土地の投機的賣買を禁止する爲めに色々の方法を講ずる必要があります。又土地の騰貴から生じて來る場合に土地所有者の收得する差益は之を公共的團体の手に收め、之に依つて住居問題の解決の財源とする議論もございます。又大都市に於てはモー一層市外との聯絡を完全にする爲に交通機關を發達させて市の地域を廣く致しまして、土地の値段が無暗に騰貴することを防ぐといふことも必要である。之に就いては大阪の如きも今日の普通路面を駛つて居る電車以外に更に高速度の交通機關——地下線なり或は高架線を造つて今少し遠くからして日々市内の中央部に來て終始仕事をするやうにする方法を講ずるのは、餘り遠くない將來に於て實行をしなければならぬと考へて居ります。土地に就いての政策は此

の位に致して置きまして、更に一歩を進めて今度は家屋其のものに就いて割合に小さな住居で大多數のものが住居し得らるゝやうな健康な住居を如何にして拵へるかといふことを考へなければならぬ、之に就いては從來の方法としては家主が營利的に家を作るといふ以外には殆んど手を着けなかつたのでありますから、到底之れでは滿足が出來ないと思ふ。即ち家主の營利的に建てる家以外に色々な組織で住宅を增加する必要が起つて來るのであります。其の第一は工場主或は其の他の雇主が使用人の爲に住居を拵へる方法で、英國では「ボルンビル」、「ポートサンライス」、など理想的の田園都市を打ち建てゝ、其所に自分の工場の使用人を住まはせたといふ實例がある、之れからして所謂田園都市運動といふ可成り大きな運動が起つて來た。日本に於ても是等のことを是非やらなければならぬと思ふのであります。其の次は公益團体或は慈善家が一種の財團を拵へまして其の財團の手で以て家を建てることが必要であらうと思ふ。倫敦の例を申せば英國に於ては「ピーボーデー」といふ人が大分な金を投じまして財團を拵へ、二萬二千人の人を容れ得る所の貸家を造つて居るといふ實例がある。モー一つは「オクテビヤヒル」といふ篤志家があつて、此人は元女敎師であるが非常に住居問題に興味を有ちまして段々金を集めて古い家を買ひそれを修繕して貸渡し、單に家を貸す許りでなく借家人の職業を周旋したり、又借家料を取立てる爲に自分なり又は女の助手が借家を巡回する際に家屋の保存維持に關する注意を與へて借家人敎育といふことをやつた譯である。謂はばさういふ風に住つて毀しては不可ない、斯ういふ風にすれば非常に利益であるといふことを敎へて歩くといふ方法を以て住居問題に大に貢獻したといふ事實がある。斯う公益團体若くは慈善團

体に依りて住居問題を解決することは日本に於ても大に必要であり又最近公益事業に寄附の盛になると共に卒先此種の計畫に出資する富豪もあることゝ信じます。第三には英國等に於ては勞働者が非常に發達して居りますから、彼等は自分達で組合を設けて「ビルデングソサイテイ」を拵へ金を集めて家を建てゝ月々一定の料金を支拂ひ段々と自分の所有にする方法を立てゝ居るが之も中々大きな數に上つて居りますが、其の數字のお話をすることは畧して置きます。

最後に公共團体が貸家を建てるといふことでありますが之も大に必要であらうと思ひます、又倫敦の例を引くやうでありますが戰爭の始まります前の千九百十三年三月の終りに調べた所に據りますと、倫敦カウンチーカウンシル所有の家屋―に住んで居る人數が五萬五千人、其借家料が二百二十萬圓に上り其の他に當時計畫中の家屋には一萬二千人程を住ませる筈で、其資金三千四百萬圓年額二百二十萬圓の家賃を得る筈である。公共團体が斯ういふ事業に段々仕事をして行くといふことは大阪市に於ても幾分手を着け始めたのでありますが、愈々着手するとなると色々實際上の問題が起つて參ります。是等の點は社會の識者のお敎へを仰ぎたいと考へて居ります。斯ういふやうな營利的に貸家を拵へる以外に公益團体とか雇主とか或は公共團体が是等の貸家を建てると致しましても、家を造ることは容易ならぬ金が要ることであります。其の財源を如何にするかといふことを考へなければなりませぬ。此の問題に就いて自耳義に於ては貯金局が勞働者から集めた所の貯金から低利資金を借り出す方法を講じて居る。之は日本でも考ふべき問題であつて五億以上の貯金を擁して居る政府は少くも其四分の一又は五分の一を住居問題又は其の根本たるべき市區改正事業に融通

して低利に使用せしむることは難事でないと思ふ、獨逸に於ては勞働者老癈保險一年を老つたり癈疾となつた者を目的として居る所の保險は割合長期の貯金で準備資金が多いから此の金を以て住宅改良に依つて居ります。之は勞働者の住宅を解決する上に非常な効果があつた。是等は我國に於ても餘程考へまして、模範とすべき事柄が大分歐羅巴諸國にあるやうでございます、私は是非日本に於きましても是等の方法に依つて少くとも低利資金を以て住居問題を解決するといふ所まで朝野の識者が贊成し、速に實行に着手せられんことを望んで已まない次第である。之に依つて最初申しました如く住居問題は國家の事業國家の問題である、此國家問題たることを政府當局者も理解し、市民一般も亦其の他慈善家や有識者が理解致すといふことに依つて初めて住居問題なるものが幾分進んで行くことになるであらうと考へて居る次第であります。

時間がございませぬので甚だ粗雜な講演を申上げましたが、大躰極く列擧的に申上げだので定めしお判り難うございましたでせうが之で御免を蒙ります。「拍手」（完）

◈丁抹を訪問◈

丁抹は歐洲の北端に位せる蕞爾たる一小國にして面積人口共に我九州に及ばざること遠し。加ふるに土地痩瘠にして氣候亦農業に好適なりと謂ふべからず。而も年々二億圓の農産物を海外に輸出し一國財政の充實地方民力の豐富稀に見るの盛況を致せるもの畢竟政府の土地に對する注意の厚きに依ると雖も亦實に農民の一般に勤勉にして共同一致の美風に富めるに由らずんばあらず。

今や歐洲各國は齊しく農村住民の減退を憂へ住宅問題、救民問題、浮浪者問題、勞動問題、生活問題等に關し其心を惱ましつゝある間に獨り丁抹にありては農村の繁榮年と共に著しきを加へ路に乞食浮浪の徒なく最下級の勞働者に至るまで何れも將來希望を囑し以て其堵に安んじつゝあり。是に於てか世の爲政家は齎しく其成功せる所以を究めんとし踵を接して丁抹を訪問するに至れり。（丁抹の田園生活——內務省地方局）



建築批評家の出蘆を望む

會員　秋水生

(一)

我建築界に批評家の寥々たる有樣は誠に寂しさの極みである。否事實皆無であるといふても差支へない現狀は寧ろ憤慨に値するものがある樣である。此点について私は前號誌上の波江氏の所論に贊成するものである、畢竟建築の社會的位置の頗る貧弱なるが爲であつて、建築趣味の普及尙ほ到らざる爲であることを痛切に感じない譯には行かぬ樣である。從つて私は本誌に「建築と趣味」「京都古建築觀」「東大寺建築史」又は「建築史ローマンス」等の豊富なる材料を提供しつゝある諸氏の勞を多とせざるを得ないものである。固より前途は頗る遼遠である。國民が「建築」を理解し、「建築」を愛撫し、「建築」を含味し、進んで「建築」を批評するに至るまでは、どうしても建築家自らが先頭に立つて其道程を開拓せねばなるまいかと思ふ。此の意味に於て建築家自身が筆を執つて立ち時に新建築物の論評に觸れ或は演壇に絶叫するの体度を是認すると共に、此等の人々の言論に多少至らぬ點がありとするも、建築界は喜んで其努力を歡迎する丈の餘裕があつて然るべしと思ふ。

然るに實際上の効果は什うであるかといふに建築家の建築觀は兎角局部々々の所論に囚はれ或は其好む所に遍し、其對照物の妙所を指摘し得ないで却つて惡罵冷評に陷り、缺點を擧ぐる

に汲々として長所を宣揚するの度量に缺けるといふ様な結果からして、兎角樂屋落の滑稽に終つてしまふ爲めに、いつの間にか當初の目的を忘却して同士打の醜態を暴露するといふのは甚だ遺憾なことである様に思ふ。

從つて昨今の建築界は全く此等特志の建築家の跡を斷つて寂寥に寂寥を加へて行きつゝあるのである。乍然是には數多の原因がある。建築家が同士打に終る様な批評に飽いた爲めもある建築家が批評を敢行するの体度に徹底し得ない爲もある。建築家が實務に追はれて他を省みる餘裕のない事實上からも來てゐる。建築家が二様の立場に立つことの却つて面白くない結果に陷る爲めもある。所詮は今日の建築界が尙ほ批評家の必要を痛切に感じない程度に彷徨して居る爲であるとも謂ひ得られる様である。さりながら吾國に於て永く持續し來つた建築形式論の大潮が近來建築構造論の勃興並びに非藝術論の突發に歸因する時潮の横波に相遇して混亂紛雜の極遂に建築批評家の船を覆へした様な結果が其主要なる原因である様に思はれる。

何となれば從來の建築家の批評は主として建築形式論の時潮に掉ざし其唯一の梶によつて其船を進めつゝあつた様である。從つて形式論の流れに沿ふ處の波瀾には何等の狼狽もなく、何等の苦痛もなく梶を執つて船をやり得た様であつたが、一度建築構造論の横波の到來によつて未だ經驗せざる波瀾萬丈を觀たる結果、遂に無謀に船を進み得られぬ破目となつて、心ある船頭は風靜かなる港に船を舶して風を待つて居るの外なきに立到つたものゝ如しと判斷して差支へない様である。

いはゞ建築界自身の動搖から、前途を開拓するに必要なる建築批評家を載せたる船を其港から出さしめない様にしてしまつたのである。斯界の寂寥は畢竟自から求めたのであつて、決して自然の成行とは思はれない。しかも更らに斯界に不幸なことは專門批評家の前途を封鎖してしまつた事である。

(二)

建築家にして批評家の立場に筆を執る人及び演壇に立つ特志家は、畢竟建築家といふ境涯から一時離れて批評家の領域に馬を立てた特志家であるから、建築家であるからといふ前提は不問に附する丈の餘裕を殘さなければならぬ、又一度批評家の位置に自からを露出した人々は建築家といふ境遇から超越した建築觀によつて飽くまで堂々と高く大きく論評すべきである。

然るに實際は什うであるか被告も原告も共に大きな絹を作つて平氣で批評もするといふ弊に陷つて居るから、批評が批評とならずに罵評となり冷評となり、低く建築界に接觸して高く批評界の地歩を築くことが出來なかつた。

例へば或建築家が批評家の立場に於て論評を試みる、すると多くの建築家は直ぐにお前は建築家ではないか、建築家ならばお前のいふ樣な建築を立てゝ觀よと喰つてかゝる。それから批評を敢行する建築家は俺ならあんな馬鹿なことをしない、あれは失敗だといふ。あんな格好は決して美觀にはならぬ寧ろ惡感を催さしめる、あれで滿足して居る氣がしれぬといふ。畢竟批評家の立場を忘れて唯冷罵を與へてゐるに過ぎない。そこで決極は兩者共對等の地盤に立つて居るから喧嘩に終つてしまふのである。

そこで或論者は建築家で終ればよい批評家に立つ必要がないといふ、それも一理である、批評家のない今の建築界が混亂に終つてゐるは要するに指導者がない爲である。批評家は實際と高く離れて公平の觀察を下して指導者となるべきものである、其指導者の居らぬ現在の狀況では、たとへ現實を高く離れ得ないにしても同じ建築家の特志家が其理想を說いて前途に光明を投げることは大に必要なことである。

處が前にも述べた樣に同士打の犬も喰はぬ樣な喧嘩に陷つて終局、云ふ丈野暮だよ、聞く丈逢着だといふことになつて、御互に口を緘してしまふ。そして其結果は果して何者をか得られるであろうか、畢竟空漠な寂寥がひしひし建築界を包圍することになつたのである。

建築家の特志批評家の沈默は或は止むを得な

いとしても、現在の建築界は專門の批評家をも封鎖してしまつたのは確かに不幸であらねばならぬ。

私は世の篤志の批評家殊に文科出身の人々が進んで建築批評に筆を染められたのに對して感謝の辭に窮するものである。そして其努力が建築界に多大なる貢獻を寄與せられた事も大に特筆すべき事績であるに相違ないと思ふ、乍然此等の特志家が既に筆を洗ふて建築界から遠ざかつた形勢を順致したのは一面此等批評家諸氏の自から兵を修められたの相違ないとしても反面に現在の建築界が敬遠主義を執つたのに歸因せぬとは斷言は出來ない事であろうと思ふ。そして其主なる原因は建築形式議論の大潮が建築構造論の横流に接觸して混々たる濁流となり波瀾澎湃として今尙混亂の儘放置してあるが爲めに船を出すの便なきが爲でなくして何であろう。

されど此等の批評家が我建築界の大波瀾を觀て手を束ねられつゝあるは大なる遺憾であらねばならぬ、批評壇上は斯くの如き實世界の波瀾に高く超越して大勢を達觀し得らるべき巖頭に永久に光を放つべき燈明臺でなければならぬ。然らずんば進んで滔々たる波浪を平然と乘り切るべき大船を浮べて其船首に設くべきものではなからうか。時に輕船を飛ばして一指南を圖るの勇斷を敢行するの羅針盤でなければなるまいではないか。

所詮多くの批評家が眼を白ふして斯界の現狀を觀過せらるゝのは、過去の建築界に手を燒かれたものではあるまいか、高く自らを持して急かず動せず風浪到來の最好機に乘じて巖頭に攀ぢ、左手に救難浮標を提げ、右手をかざして其任務を敢行するの時を待つの篤志家が出現しないのは過去に於て進んで自からを波浪に投じ相共に溺れ込まんとせられた爲ではあるまいか。

實にや斯界の一波一浪は彼も一時此も一時である。彼の一上一下、此の一高一低は大海の表面の現象に過ぎない。或は滔々たる黒潮の殺到せるが爲であるに過ぎない。建築の大海は其表面の波瀾、其内部の暗流の去來に係らず、洋々

茫々として限りなき天空を宿してゐるのである批評壇上の勇者は須らく斯界の本來の面目を摑みて其形骸に觸れず、深く根幹を洗ふて枝葉に囚れず、廣く大局を洞察して小局に係らず、飽くまで無差別觀に徹底して、差別觀に立還へる底の高く大きな壇階に自らを養はねばならぬ。或は右し或は左する建築界の時潮に掉させども一路遠く彼岸に到達する迄は決して眼を白うして船を艇る譯のものでないと思ふ、此点に就いては宴に篤志批評家の自省に待たねばならぬ。そして此等の篤志家の開拓すべき領域は廣茫として限りなき無邊の天涯に連なつて居るのである、實に茫洋たる斯界の前途を開拓するの篤志批評家の出蘆を望むこと炎天の雲霓も啻ならざるは私ばかりの願ひではなかろうと信ずるものである。

(三)

總じて批評壇上に立つことは頗る至難な仕事の一つである。乍然誰しも一個の批評眼を備へてゐる以上は批評そのものにむづかしい事はない。從つて誰でも出來る仕事の一つである。物の善惡、質の良否、形の美醜に關する判定は夫々に各人が毎日の仕事の一つである。從つて他人の行爲、技術、或は作品に關して批判する事は日常の茶飯事と心得て各人の敢行して居る所である、此の意味に於て藝術の一たる建築に關する批評家は世間到る處に散在して居るのである。されば建築に關する批評に就いても黑人の批評よりも純なる素人の批評が却つて屢々正鵠を穿ち深刻に適切なることが多い樣である。蓋し直感から浸潤する印象は純なる人程濃厚である爲である。此の點は又屢々中年の人々より幼年者の觀察に銳利なるものがある所以である。唯此等の純なる感情から溢る評語は寸にして人を刺すの力があつても、頗る漠然として居つて散漫に流れ易く、捕へ處がない爲めに所謂素人評として輕視され蔑視されてしまふのである。

物を視ての直覺から出立するにせよ、せざるにせよ進んで微に入り細を穿ちて一糸亂れざる理論を整理して公平正確なる判斷を確立して聽

者を說服せしむるの批評に在つては、什うしても黑人の批評眼に待たねばならぬ。斯くして所謂黑人の批評家は過去に感得したる幾多の經驗と自から敎養したる豊富圓滿なる趣味によつて冷靜なる判定を下し公平なる立論に據つて人の腹中に充分なる諒得を與へる處の人でなければならぬ、そこで批評家の仕事は中々に至難である事になる。

若し批評家にしてその地歩を確立し得ないならば、其多くの批評は作家を心服せしめ得ないのみならず、其論旨も徹底しなければ、評語も濫に流れ、弊に陷り、急所を衝く事を得ずして細部に拘泥し、結局何等の價値を見出し得ない忘評となるのである。愼しむべきは此の忘評である。所謂堂に入らずんば價値ある高邁なる批評は出來ない事であるのである。

乍然世人の心服を得んにせよ、自ら一隻眼を備得して居る批評家に在つては斯界に貢献する處は蓋し多大であらねばならぬ、所謂千萬人と雖吾往かん程の理想を把持して居る批評家は斯界の最も尊重すべき師表である。乍然世の多くの批評家が所謂樹を數へて林を忘れ、波を觀て海を遺する程度に墮するが爲めに、其多くの貴重なる批評が何等の効果を擧げ得ずして冷笑に葬られ去るのは大なる遺憾であるのみならず、評者夫自身にとりても殘念な次第であろう。

我建築界に大なる批評家の寥々たるは、同じ藝術の一門に在る建築が一般に理解せられぬ爲でもあるが、又最も困難なる仕事の一である爲でもある樣である。蓋し今日迄の建築の批評家が作家自身の自得してゐる缺點をのみ擧ぐるに墮ち作家の把持せる所感以上に高く大なる適評を與へ得ない爲である。所詮作家の理想、作家の自得を超越して其急所を執へ得ない爲である作家と同じ樣なる段階から、作家の百も承知の評語をなげ込んだ處で、作家は何等の痛痒も感じないのである、評者は宜敷しく其前門に兵を進めると同時に後門に奇襲を加へるの快擧を決行したならば、忽ち屈服するに相違ないのである。同し戰略で戰を開く相手はたとへ强敵であ

るにしても、いつかは破られるに相違ない。兵は正を以て合ひ、奇を以て戰ふの原則からいふても、同一の武器で戰つて常に勝ち得べき筈はないのであぁ、況んや作者は多年百戰の古强者である以上は、建築の批評家は自個を識ると共に敵を知らねばならないのである。

(四)

今の多くの建築家が此等篤志の批評家に對する注文が澤山擧げられてゐる。其多くの注文の中で最も重要な事項は次の樣なものである。

第一批評家は作品に對して親切がなければならぬといふことである。これは如何なる方面の藝界に於ても同樣であらう。親切な觀察を下さずして決して徹底したる理解のあるべき樣がない。視れども視ずとは心茲に非らざる爲である眞に愛する心が徹して初めて表から裏まで洞察することが出來るものだとは西哲の導破した處であつて亦東洋の聖人も同じ心を述べてゐる。表面をのみ觀て萬事終れりとするのは所謂親切氣に缺けてゐる爲めである。同じ事柄を述べるにしても批評家としては單に善い惡いで御茶を濁すべきでない、善いなら善いで、善いに相違ない丈の立派な說明を與ふべきである、單に善惡を指摘する丈ならば特別の人を待たいでも澤山に人はある筈である。何處迄も親切なる評語を行屆かせる點に篤志家の任務が存立してゐる樣である。

第二は批評家は作品に對して敬意を表すべきであるといふことである。作品の良否、善惡、美醜の差別はあるにしても、作者の苦衷努力事業に對して一語を下すに際しては須らしく相當の敬意を拂ふ丈の用意があつて然るべきであろう。惡ならば惡で、惡い作物を提供して實際の事實を敎へて居ると見ることは出來るのである美醜といひ善惡といふも要するに程度の問題であつて絕對の事實ではない筈である。惡の作物が存在するが爲めに美の作物も發見せられるのである。換言すれば美醜に係らず事實を提供して居る作者の努力に對しては相當の敬意はあつて然るべきである。作者が批評家に對する感謝

は元より批評の善惡に拘はず捧くるに躊躇する處なかるべきと同じである。殊に惡評を投下するに際しては猶更批評家の注意を要する事であると思ふ。惡に觸れざるは未だし、惡を識つて爲さざるが眞の聖者であると聞く、美を求むるの士は亦醜の醜なる所以を究めなければなるまい。

第三に批評家は作家の心理を理解して欲しいといふ事である。換言すれば作家の心理を洞察する丈の明かなければならぬ事である。これは元より然るべき注文である。作家の主張、作家の主旨、作家の目的が何邊に存するや否やを識らずして輕卒に評語の下され樣はない筈である凡ての作品は要するに作家の思想、感情、意圖の結晶したものである。從つて作品は作家夫自身の心理を倖現してゐるのである。若し作品の体現してゐる心理の反映を理解することが出來なかつたなら、それは批評家として既に一歩をあやまつた事になるに相違ない樣である。茲に於て多くの藝界の批評家を斯道の專門家から求めんとするの注文に一理の現存してゐることを認めない譯には行かぬ樣である。斯道の專門家は夫自身作家であるのであるから篤志の批評家よりも深く作者の心理に理解を與へ得るからである。乍然專門家出身の批評家が此の特別の便宜があるにしてもそれは批評家としての全部ではない。作家に同情するの餘り批評眼を曇らする憂はないとは申されぬ事である。從つて篤志批評家が作家の立場を悉細に研究する事の注文とは別途の問題であらねばならぬ。蓋し同情に生きんとするの批評家は屢々大局を逸して局部に囚れる樣な怖るべき素固を俱有してゐるからである。

第四に批評家は少なくとも一隻眼を把持して居らねばならぬ。附燒刃は決して眞の切れ味を持つて居らぬ。たとへ批評家の評語が常規に外れて居つても眞理を摑んで投ぐる其力は何物をかを振動せしむる丈の響があるに相違ない。これや畢竟批評家の動かぬ價値であらねばならぬ評語の妙味は其圓滿なる外裝にない。完全に見

ゆる外形にない様である。批評家其人の人格の露はれとして一種の光を放つ處に說明すべからざる境地がある様に思はれる。美醜に對する定義、善惡に對する標準、正邪に關する判斷を振りかざして大聲怒號を投下しても、作家の心靈に透徹するの眞の力は批評家の心理の奥殿から迸しる靈の光によりて傳へらるゝ様である。

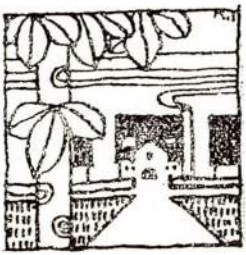
第五に批評家は周到の觀察を下さねばならぬといふ事である。物の表裏。作品の內容外觀に徹底して欲しいといふ事である、建築批評家が兎角建築物の外形外裝に重きを措き其內容の如何を省みざる如き、殊に建築に在つては計畫の骨子たる平面圖より觀察の歩を進めて、大局を執へ。其外容より透視して內容の含蓄に徹底するの用意に周到でなかつたならば、什うして最後の斷案が下されやう。表裏といひ、內外といふ畢竟相對的の稱號に過ぎない、兩端を叩いて初めて物の長さを識り、兩極を踏んで初めて量の大さを視るに相違ない、駿河の富士を觀た丈で什うして富嶽の全部を識つたと謂ひ得やう。

因より歌人は居ながらにして名所を知り千里の馬は遂に大伯樂に遇はずんば其眞價を發揚することが出來ない事は勿論である。

以上の外まだ多くの注文がある様であるが、數へればいくらでも數へられるし一括すれば又二三箇條に節することは出來る。私は以上の五つを數へて篤志家の參考に資したのである。

◉萬人の師◉

能をつかんとする人、よくせざらん程は、懃ひに人に知られじ。內々よく習ひ得てさし出でたらんこそいと心にくからめと常に云ふめれど、斯く云ふ人一藝も習ひ得る事なし。未だ堅固片帆なるふり、上手の中に交りて、譏り笑はるゝにも恥ぢず、つれなく過ぎて嗜む人、天性その骨無けれども、道に泥まず妄にせずして、年を送れば、堪能の嗜まざるよりは終に上手の位に至り、德長け人に許されて、竝びなき名を得る事なり。天下の物の上手といへども、始めは不堪の聞えもあり、無下の瑕瑾もありき。されども其人、道の掟正しく、これを重くして放埒せざれば、世の博士にて萬人の師となる事、諸道變るべからず。（つれ〳〵草）



家相論

會員　葛野壯一郎
（於第一回大會）

現今の世の中に在つて、家相術……方位の吉凶……此家は鬼門に障りが有るから如何だとか……鬼門が張出して居るから病人が絶ねないので有るとか……門の開方が悪いから家が繁昌しないので有るとか……土藏、浴室、段梯子、厠竈の位置据方……或は各室壁類の善悪吉凶と云つた様な事について、所謂易者とか家相鑑定家の門をたゝき、其吉凶判斷に待つて建物の設計を決定するといふのが、割合に多いので有ります、斯様な方法に據る人々は全然無智無學の人等計りで有るかと申しますると決して左様では無くて、寧ろ智識階級、上中流社會に意外に多い事實を認めるので有ります。勿論是等多數の人々は、全然家相を信ずると云ふのではなくてたゞ何とは無しに人にすゝめらるゝか、或は古くから世間に傳へられて居る說に對しては、何等か眞理が有るので有らうと云つた位のところで、とにかく世間で悪いといふ事を無理に行ふにも當るまいといふ、至極御目出度い人達が最多いかの様に見受けらるゝので有ります。思ふに此事實は、吾邦人の建築智識……殊に住宅に關する觀念が頗る幼稚で不徹底で、たしかなる理想確信を持つて居らないと言ふ事を證明するものでは有るまいかと考へらるゝので有ります。お金が出來た……家を建てると云つた場合に、さて何ンな家を建築するのが其平素の理想生活

に照して最適するや否や……殆んど何等據るところが無い……また是に對する吾々技術者の態度も亦頗る徹底せざるものが有るといふ樣な事が、一面に於て舊家相術をして相不變流行せしむる起因となるもので有ると私は考へるので有ります。此意味に於きまして吾々建築技術者は是を單なる流行として眺めて暮す譯には行かない……是を事實に徵して建築上社會指導の任務を全する事に努力しなければならないので有ります。

私は家相の吉凶可否といふ事は有ると說く者で有ります。是は現代の建築技術者として、甚だ矛盾するところが有るかの樣に聞ゆるかも知れないので有りますが、かく申したからとて元より其れで全然舊式の家相術を凡て是認して居る者といふ事にはならないので有ります。出發点が異つて居る……判斷の根本基礎を異にするので有りますが、併し人間世活の幸福……此爲には是非とも完備せる住居……文明的家相圓滿の建築を要すると主張する点に於て、ヤハリ一種の家相吉凶論者で有るので有ります。是は單に私一人計では無い……現代に於ける建築家は皆其學ぶところにより、斯の如き理想の下に等しく其業務を勵ンで居らるゝ事だらうと私は信ずるので有ります。

建築は互に各相異ッたる多くの部分を持て居る建築の種々相。是が家相で有ります。其は恰ど人間お互の顏が互に趣を異にすると同樣で有ります。此僅か六八寸を出ざる顏面内に於て眉と目と鼻と口の至極簡單な造作の配列如何により美しいやら醜いのやら、善惡樣々な人相の變化が生れて來て居るので有ります。此公會堂の如き大建築に在りましては、高さ一寸の高低といへば殆んど目にも附かない……例令ば此ホールの天井が高三十五尺とか聞いて居りますが、今假に是れが一寸延て三十五尺一寸となつたからとて、別段特に目立つ程の事は無いので有りますが、若し是れがお互の顏面内に於て、此鼻が現在より一寸高低が出來たとすれば其は非常な大事件で有ります。昨日迄の美人も今日は直ち

に不具者扱を受けなければならない事になるので有ります。人相個々の相異はかくの如く微妙なもので有りますが、建築の種々相即ち家相の互に相異し、其によつて種々なる影響結果を生ずる事實も、亦頗る是に類する点が有ると私は信ずるので有ります。建物の大きい事、少さい事、廣い事、狹い事、高い低い凸張つたり凹込んだり、圓かつたり四角だつたり、其外形が戸毎に種々外觀姿を異にするが如く、また内部に在つても各室の配列構造設備の變化は實に無限で有ります。よく似て居る……全然同一の設計で有ると致しましても……精細に是を觀察致しますると、其住む人の意志により生活習慣により色々の變化を生じて來るので有ります。極卑近な例を申上ぐれば、爰に一ツの臺所を想像すると致しましても、甲の家も乙の家も共に同一の廣さで同樣東向に設けられて有つたとしても、其竈の位置据方が甲乙互に反對の隅に向方を異にしたとしますれば、其他の勝手元の凡ての配置、使用取扱方にも非常な相異を生じて來なければならない道理で有ります。或は又一ツの客室に於きまして其出入口の位置如何により、非常な使用上の相異が生じて來る……是等の点は少しく眞面目に、自己の建築を考へらるゝ方には容易に心付かるゝ事實で有ります。僅か一出入口、一竈の開方据方如何といふが如き細末の事實でさへも、其使用上種々なる變化相異を生ずる事實から致しまして、其間取、配置構造、さては外形姿の如き、建築の個々互に相異する種々相即ち家相の如何が、其日常生活の上に如何に偉大なる支配力を持つて居るかといふ事は容易に認めらるゝ事實で有り、且ツ又此意味に於て、人間生活の圓滿幸福なる解決が、よく是に相應する内外完備せる建物を最必要な條件とする事もまた明白で有るので有ります。

舊式の家相術に於きましても、其求むるところは建築の完備で有ります。

『家相の德は人をして安きに居らしむる術で有る』とか或はまた他の學派の人の說にある處の『其相法は陰陽に本づき、理に順つて自ら足ら

しむる道で有る』とか、建物を生活の必要品として、至極眞面目に考ふる事に於ては、別段異論の有る可きものでは無いので有ります。隨分と世の中には建築を弄ぶ御連中が有ります。恰うど女が美くしい衣服を着て唯一の誇とするが如く、無暗と家に金をかけて悦んで居るが如きは、昔の家相家の最誡しむるところで、今日から申しても亦同樣で有ります。要はたゞ吾々は觀察するところの基礎、立脚点を異にするにあるので、舊家相術の説くところは易とか五行の相生相尅と云つた樣な、陰陽順逆の論を根本思想とする以外には、多くは俗傳俗説で有りまして、是を一言に評すれば現代に於ける舊家相術の應用は、此公會堂の如き堂々たる大建築を照すに古い行燈か燭蠟の火を持てせんとする如き類で有ります。

元來家相術が現在の如く一般世間に流行し出したのは、吾々の調査する處に依ると漸く元祿以來の事で、德川時代に於ける一般周易の流行に伴ふ自然の結果で有ります。元より古く上代に在つても吉凶觀相の術の行はれた事は、歷史上にも明白な事實で有りますが、そは主として宮中或は上流社會一部の事で、戰國時代以後次第に民間に流布し、德川時代後半期に於て民間一般の流行となると同時に色々の説が盛んに唱道せられ、家相鑑定等といふ獨立の專門家が世間に營業すると云つた樣な奇觀を呈した次第で有ります。勿論其等の人々の説くところの内では、相當な識見を有した人も無いでは有りませんが。是を舊時代に於ける『一建築觀』或は『住宅運命觀』と云つた樣な觀方からは、一つの趣味有る研究で有るのみならず、幕末に於ける極單なる政府の階級制度が、一般國民思想を如何に委縮せしめ、あれも運だ是も運だと、立つにも坐るにも運命といふ都合のよい諦め主義に導いたかといふ一ツの證據としても亦興味ある研究問題で有るので有ります。併し是を大正の今日國力と共に正に大ひに面目を一新せんとする吾現代建築にまで、應用せんとするが如きは、其是非元より論ずる迄も無く明らかな事で有り

ます。

一々委しく申上る時間が無いので有りまするが一例と致まして、最普通に忌まゝしところの鬼門の説に付て一言申上れば、是にも色々の説が有るので有りますが勿論皆俗説で有ります。此方位に當つて鬼星の住む石室が有り、其傍に鬼門と題して居る……夕方には其處に青火が燃ゆるとか、または東海に度朔と稱する山が有つて、そこに大きな桃の木が有る……其東北の枝を鬼門と稱へ萬鬼出入の門とするとか、凡てがお伽話の類で有ります。陰陽五行説の方から致しまするど、此方位は木火土金水の内で土に屬するとする。其れで有るから此部分に水氣のある厠とか浴室とか流場等を置くのは、土と水とは中の悪い相剋の間柄で有るから不可ないとする。また土藏の如きを此部分に設けるのは土の上に土を持つて來るので、土氣が強くなつて宜く無いとする。また別に鬼門は鬼の門には非して貴き門即ち貴門で有る……朝日が東の山上に顯る前寅の刻に當つて一天紅を呈するものは此方位で有るから、貴門として是を恐れつゝしむのだと説明して居るので有ります。舊家相術の説明は凡てが此ンな風の行方で、私共から致しましては其何れにも依る可きでは有りませんが兎に角此方位は八方の内では殊に日當の凶い……一戸の家の中でも最乾かない温度の低い部位で有ります。左樣いふ樣なところから多少便所浴室流場といつた樣なものを配置し、また濕氣を嫌ふ土藏の如きを置くには、特に構造其他に就て注意を要するといふ事になるので有ります。

要するに吾々は生活上の必要によつて家を求めるので有ります。從つて其建築は現在に於ける吾々の必要を最都合よく滿足せしむるもので無ければならぬので有ります。吾々は安全を求むるもので有ります、從つて建築は最安全なもので有らねばならぬので有ります。吾々はある愉快を家によつて求むるので有ります。從つて其建築は出來るだけ愉快な美くしいもので有らねばならぬので有ります。吾々は健康を求むるもので有ります。從つて其建築は最衛生的のも

ので有らねばならぬので有ります。また吾々は一定の限り有る金を持つて家を求むるもので有ります。從つて其建築は最經濟的のもので有らねばならぬので有ります。現代の建築技術者即ち私の云ふ文明的家相家は、建築と生活、建築と安全、建築と愉快、建築と健康、建築と經濟其求むるところにより最新の學術經驗によりて敷地と建物の調和、材料と構造の一致、各種の設備裝飾に至るまで縱に橫に、平面的に立面的に、よく研究を盡して其求に應ずるを以て本務とし、また一面に於て斯の如くして完成せる家が眞に現代的家相圓滿の家で、其內に生活する事によつて便利に安全に愉快に健康に經濟的に人世の幸福を全し福利を增進する次第で有るので有ります。

長く淸聽を煩しました是で私の講演は終ります。拍手（完）

✣ ✣ ✣ ✣ ✣ ✣

□寄大工戀□

○ 濱邊里人

たてまへに札をいれても落ちぬ君は、
枕に塵のつもりちがひか。

○ 絲瓜皮也

くる〳〵と卷きをさめたる墨壺の、
いさもうれしき君が玉章。

○ 澤邊橫行

墨壺のいと一筋に思へども、
うらむぞ君がまがりがねなる。



都市と建築

都市研究生

三十年後の大阪（六）

八　衛生設備と市民の健康狀態（下）

住居の改善が都市民の健康狀態を左右すること又著しきものあるのは、敢て上水、下水の力に讓らぬのである。近時數次唱へらるゝ非衛生的家屋と言ふ熟字に依つて其大体の意味が言ひ現はさるゝのであつて、之を具体的に又科學的に言ひ現はし又は說明するは可なり厄介な事柄であるけれども、茲には一と通り其事柄の眞相を明かにして置きたい。

陰鬱なる、狹隘なる、そして汚穢物に滿ちたる細民住宅に於ける其不愉快なる情況は、彼等の健康保全に有害なるは、直覺的に誰にでも了解出來るのであつて、之を衛生生理學より論ずるも、其理由を明了に指摘し得るのである、乍併如何なる程度に之を改善すべきやは、可なり六ケ敷き問題であつて、之を科學的に具体的に說明するには十分の研究を要するのである。倫敦に於て今より三十幾年か以前にロートン卿は友人等と細民部落のその汚き慘めな生活狀態を視察して、歸來惻隱の情禁じ難く、巨資を投してロートン・ビルヂングと稱する實費宿泊所を

建設したことや、ピーボヂー氏が其遺産五百萬圓を細民長家建設に寄附したことは、如何に倫敦の細民部落改造の機運を早めたかを想像する毎に、現代の都市家屋政策なるものは、學理より又救濟事業の方面より出發せるのではなく、むしろ博愛慈善の人道主義より漸次其萠芽をなしたのであることを推斷せしめるのである。

家屋の內外が不潔にして、日光の射入少く、通氣の鹽梅あしき場合には、如何なる住者も其不愉快を感せざるものはないのであるが、唯其不愉快を除去する爲めに努力するのは、所謂富者にして始めて可能なれども、一般市民の其日の活動に追はれて居るものでは所詮其改善を考究するの餘裕はないのである。故に其改善が住者の不愉快のみに止まるものとすれば、かゝる境遇を氣の毒に感ずる位で問題は比較的單純なれども、事實は中々そうは行かないのである。即ち斯る家屋の住民は其健康狀態漸次不良となり、傳染病流行の際は其病源地となるのみならず、各種の病毒瀰蔓し、年中其病毒を都市全般に蔓延せしめる傾向を生ずるに至つては、都市行政に局に當るものは、決して之を氣の毒に感じた儘にさし置くべきものでないことは明かである。

即ち之を具体的に又科學的に見て其理由を考究し如何にせば其改良を徹底し得るやの問題に到達せざるを得ないのである。然らば如何なる家屋の狀態を以て健康に適恰するものとするや之れ蓋し都市住民に取つては最重要の問題でなくてはならぬ。之を從來の經驗より推斷するに**日光の射入及空氣の流通**を十分にし、なるべく**餘裕ある室**內に生活するを以て最も好ましき方法とするのであるが、さて此の原則を細民住宅はもとより一般市民の住宅に適用することの困難は可なり甚大であると共に、其程度の輕重大小は技術上難解の問題として殘るのである。のみならず此の改善策の適用が行政上幾多の難關を經べきものであり、財政上又一般經濟上にも甚大の關係あるを考ふる時は、都市住民の住宅問題は科學上にも亦都市經營の上にも中々重大

なる事柄であると見なければならぬ。

乍併都市民の健康狀態を向上せしめることの重大なるに鑑みたならば、此難問題も科學上に財政上に簡明適切なる解決に達し得ないとしても、兎に角或る程度の改善方法を勵行せねばならぬのである。英國に於て初め慈善的行爲より出發せる住宅經營が、理論は之を後廻しとして其結果の甚だ良好なるに驚き、遂に一千八百九十年の勞働階級住宅法の制定となつたような次第である。その法律は本誌に於て伊藤法學士が數次之を敷衍された通りであつて、其運用の結果に就ても吾人は數次之を例証に引き出したのである。兎に角英京倫敦市は其細民部落の地帶を漸次掃蕩して新築の住宅を經營したことに依つて、其衛生狀態を向上したことは、近代社會政策の一大成効であると言はれて居る。固より人口八百萬以上の大都市に對して住宅法の精神が全部に行き渡るには尚今後數十年を要するであろうと思はるゝけれども、現に倫敦市の死亡率が最近三十年間に千人に付二十人見斗より漸次遞減し、今は其指數十四人以下にまで低められ、世界の大都市中倫敦以上の健康都市はないようになつたことは、驚くべき事實であつて、其主要なる原因が家屋政策即ち住宅公營であると言ふに至つては、都市研究者に取つては實に天來の福音の如く響くのである。固より下水道の完備その他都市全体の組織が改善さるゝことゝ相待ち其好果を擧ぐるのであるは勿論であるけれども、其改築部落の衛生狀態が一擧にして最低の地位より最良の狀態に達する事實を見る時は、住宅改善が招徠する其効果の顯著なるは殆んど想像以上のものあるを知らねばならぬ。本誌に於て數次之を例擧した事實であるから讀者の已に知らるゝところであるならんも順序として茲に其一例を擧ぐれば。

英國國民住宅改良協會報告(千九百七年度)の一節

摸範住宅を新設したる部落にては、其改築以前の時死亡率千人に付き四十人以上に達せしものも、新築經營以來其死亡率は激減

して十三人となれり……。

右の報告を見る時は英京倫敦市が全体として其衛生狀態を向上した中に就て、細民部落が殊に著しく改良されたことを見得るのである。殊に今や世界の文明都市は一として住宅改良政策を實施せざるはなく、或は社會政策として又經濟政策として、或は又防貧救濟の應急策として之が徹底を期しつゝあるのも、全く上述の如き事實が統計的に例証するからである。其科學的說明や、具体的立案は此の短篇に於ては詳述するの餘裕がないのを遺憾とする。

現時我大阪市の衞生狀態は如何、又將來に亘り如何なる有樣に向上するやを考ふるに、吾人は其狀態に對して餘り樂觀し得ないのである。大阪市の死亡率は

明治二十三年より二十七年まで（五ケ年平均）
千人に付き　貳拾四人七分八厘
明治二十九年より
仝　三十三年まで平均……二二・七八
明治三十四年より
仝　三十八年まで平均……二一・一三
明治三十九年より
仝　四十三年まで平均……一九・六九
明治四十四年より
大正二年まで平均……一六・六二

にして今日まで逐年其衞生狀態は改良されたのであるから、此比例にて今後も漸次改良さるゝであろうと思ふならば、そは恐るべき誤算でなくてはならぬ。現に大正五年の死亡率が十八人一分五厘なるを見れば、其誤りを直ちに發見し得るのである。我大阪市の上水工事が出來上つたのは明治二十七年にして、それ以後著しく市民一般の衞生狀態を改善したのは事實であつてその以後區分的下水道の施工さるゝに從ひ多少づゝ其死亡率を減したようであるが、一方市の發展に伴ひ其衞生狀態を低劣ならしむる傾向著しきものあり、旁々衞生行政の努力により多少奏効をなしつゝある程度よりもその低下の傾向の方が強大なるやに思はれるのである。論より証據は凡て其統計に現はれて吾人をして恐怖せ

しめつゝあるを奈何ともする譯にゆかない。況して近年の肺結核患者の驚くべき增加は、たとへ東京や京都程に甚しからざるも、大勢に於て市民を日々脅迫せんとする狀況にあるを知る時は、今後の都市衛生施設を徹底的に斷行せねばならぬことを感ぜしめるのである。結核療養所は今や國法の保護により、漸く其出發点を見出し、市外に一箇の施設をなすに至りしも、我大阪市に取ては固より九牛の一毛にも値せざるものであるから、我市民は全國の都市に率先して此回創設されたる結核療養所の規模を數倍に擴張し、更に全等以上の規模の療養所を十數ケ所に建設するの覺悟がなくてはならぬ。

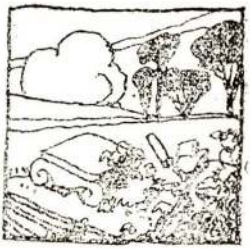
之を陸軍々醫部の報告に見るに、我大阪の壯丁の徵兵入營者は其三分の一は乙種の体格のものであつて、全國一般の徵兵入營者は甲種の体格のものを抽籤法により撰擇するに比すれば、其市民の健康程度が十分に推定出來るのである經濟活動の中樞たるべき壯年が其体質劣弱にして短命に終ることは、豈にそれ彼等の不幸のみではない。國家に與ふる損害の如何に大なるべきやを考へたならば、我大阪市の經營上の責任又重大なるを知らねばならぬのである。

結論　今後吾人が計畫すべき我大阪市の衛生設備は、第一に給水を全市民及接續町村の住民に行き渡らしめること、第二に下水工事を完全に施工して汚水の徹底的處理をなすこと、第三に住宅政策を實施して住居狀態の改善を計ることを三大方針として其經營に努力すべきである固より箇人の衛生思想を開發せしむるの手段は十分に講究せねばならぬから、其の爲めに衛生展覽會や常設博物館の必要もあり、各區の衛生組合を有力ならしめて、區分的に其狀態改善の手段を講ずるの必要もあらんと思はれる。又結核療養所の床數を增加して、細民に對しては强制收容を敢てするまでに到達するを理想とする其他塵芥處理の方法を改善し、市場、屠場、或は一般食料製造場の設備を統一管理し、市民のあらゆる生活實体に十分接觸して之が改善に當らねばならぬのである。此等の施設を徹底的に

斷行するには其財政上の計數可なり大なるものあらんと思はれるが今後我都市民の健康向上の重大なる意味を理解したならば什うしても其方針に向つて財政計畫を樹てねばならぬのである斯くして勇猛に其計畫を斷行しつゝ進むならば、我大阪市の健康狀態は急激に向上するは明白なる事實であるべく、其死亡率が人口一千人に對して十三人位の程度に達し、世界文明都市中屈指の健康地となるには恐らく今後三十年を要せざるべしと思はれる。（此章了）

◆俄大工は都の讐◆

昔、都の町を清水の西門より見れば、民家建ち續きて果も無く、諸木茂りて三階藏の白壁夕日映ろひ、皆內證はともあれ藏は長者の花といへり。次第に下京迄も繁昌して野末も今は人家となりぬ。其比七條通に米商賣して萬事手廣く近年に分限其町の一人なり。面屋は以前の儘にして裏に屋敷を何程か建て出し、後には空地も無く隣町の堺目に火の用心のために三間に五間の二階藏を普請して、窓には銅の火蓋針金の網を張り軒に命綱までも懸けて物の見事に仕舞ひしに、隣町の家主よりきつと使を立てけるは、此方の地の上へ藏二尺四五寸も出過ぎ候やうに相見え候。自由御普請と附屆けに驚き町並を見合せば、三尺ばかり建出すに紛れなし。何れも寄り合ひ沙汰するに今の亭主が橫道にはあらず。これ親仁の慾心と死なれし人を誹譏ぬ。其頃までは此邊の裏は野畠にして堺目の吟味もなく生垣を人の地まで仕出されしなり。此度檢めずして藏を建つる事町中までも越度なりと、隣町各々樫み詰言致しけるは、あの藏修理の時分に罷り成り候にゝ更め引き込まずべし、其內地入用の義出來候はゞ何時によらず相渡さゞ申すべし。此方にも當分は畠に致し置かるゝ事なれば、一年に銀五十目宛地賃出させ申すべしと、さまん〳〵あつかひけれども、なか〳〵堪忍致さず。永々の地盜人此度世の見せしめになすべしと、有德なる身代を見懸け大分金銀取るべき覺悟にてむつかしく懸れば、いよ〳〵難儀に思ひ銀二貫目にいろ〳〵詫びても肯かざれば、是非なく打捨て置きしに言ひ懸りて止め難く、右の段々繪圖に造りて御前へ申上ぐれば、兩方召し出だされ、作事仕る方へ曲者と仰され、仕置にも申し付くべきものなれども、親が仕業用ゐ何心もなく普請仕る由先づ町人の不念もあり、譬へ地尻田畠にても其屋敷ばかり町並外れて出づべき仔細無し。今日の中に高繩引きて其藏を切り入るべし。相手の申す所道理なり。埃の義は是非なし、あの者が作物些少も損れざる樣に仕れと仰せ付けられ、俄に大工日用を數百人屋ひ二時ばかりに打毀ち、軒端を世間より內端に切り入る。さりとは物哀れに亭主が惜むべき心底思ひ遣られ、これを見る人汨を洒ぐ堪忍せざる相手を深く憎みぬ。其後藏引き込ましたる段々御前へ申上ぐれば、此度萬事入用の勘定を仕立て參れとの仰せ、帳面造つて銀高八百七十四匁二分と申し上ぐる時に此入用唯今請取り藏切りたる者に相渡すべし。御意さあたつて迷惑仕る段申し上ぐれば、已れ都の費といふ惡人なり、仔細は此普請築地石垣の時も見に渡る事を。から木たに時も謂はずして、屋根を葺き上塗までもしまはせ、間もなくこれを毀たす事またあるまじき曲者なり。手前に銀子用意なくば家屋敷賣り拂へとの仰せ出だされ、其日入札にして一貫二百目に賣り立て此內八百七十四匁二分相渡し、殘る三百餘も町內の借銀に引取られ、やう〳〵殘る銀七匁三分數四ッ女房が珠數袋に入れて、久しく住み馴れし町內を立ち退きけるとなり。（本朝櫻陰比事——西鶴）



女流の住宅觀

◈良いと感じたこと

松岡病院長
松岡道治氏夫人
松岡都奈子談

私は自分の考へを、多少なりとも加味して建てた家といふものは、京都に一軒持つて居るだけでございますから、建築の事に就いては大した經驗は持つて居りません。尤も、家に就いては、此處はかう、彼處は如何といふ考案は持つて居りますが、建築などは、經濟といふ点も考へなければなりませんから、なかなか自分の考へて居るやうな家は出來まいと思つて居ります

併し、著類ですと、少しのお金で自分の好きな物が出來ますが、其代りにいつも、或る程度までは世間とのつり合ひを取つてゆかなければなりません。例へば非常に都合のよい改良服のやうなものが有つて、それを自分が著度いと思つても、それが世間に行き渡つて居ないものですと、自分丈がそんなものを著て居ては、世間の物笑ひになります。が、家ですと、自分の力で出來得る事でありましたら、どんな變つた建築法で有つても、世間に對して如何でもないと思ひます。世間の人々も又、それに對して、かれこれ申さないだらうと思ひます。ですから、自分が自分の住ひを建てる時には、かうも彼うもといろいろ考へて居りますが、さてそれを實行仕樣といふ段になりますと、思はぬ故障が出たり、其考へ方が間違つて居たりして、理想を實現することは六ケしいと思ひます。

私の經驗から申しますと、一番經濟的なのは

借家住ひだと思ひます。自分の家と定まれば、自分の氣の向くやうに仕樣と思ひますから、始終庭に木をいれたり、ところところを直したりして、始終手をかけますから、家賃位は直ぐ出て仕舞ひます。それが借家住ひですと、手をかけてもつまらないと思ふのと、他人の家をさう勝手にいぢられない爲めに、氣にいらない處が有つても『まア借家だから』と思つて辛棒をしますから、毎月家賃を出しても、結局經濟になると云つた調子でございます。のですから、生じい自分の家を建てるよりは、借家住ひも悪くないと思つて居ります。

私が大阪へ參りまして、大阪流の細長い家を見ました時に、何て不衛生的な家でせうと思ひました。ごこの家も、玄關の次ぎは茶の間、其次ぎがお坐敷で、一方には玄關から勝手口まで土間が續いて、椽側も少なければ部室の間ごりなども、さつぱり工夫をしてありません。家の最も大なる目的は、衛生的でなければなるまいと思ひます。其次ぎは便利とか作法とか裝飾趣味とかいふものも加味しなければならないのに大阪流の建て方は、そんなことは全々考へて居ないやうに思はれます。併し何かしらん得る處がある爲めにあんな家を建てるのでせうと思つてよく注意をして見ましたところが、成程非常に便利なことを發見しました。それは主婦が居ながらにして台處の監督が出來ること、物賣などが來ても、坐つて居て品物を見ることが出來ることなどでございます。大阪流の家は、茶の間の次ぎが直ぐ勝手元に通じるやうになつてますから、臺處の事は、主婦が茶の間に居ても、隅から隅まで見わます。それが東京流に台處と女中部室とを離して仕舞へば、茶の間から台處の樣子がさつぱり判りません、それに勝手元まで出で行くのも一寸面倒になりますから、勝手元の方が遂お留守になり勝ちでございます。やはり大阪の方は經濟的方面に就いては、注意が行届いたものだと思つて感心をして居ります。

私が東京で拜見したお家で、大變によい思ひつきだと思つたことが二つ三つございます。

或るお家の茶の間に通されました時に、奥様がうしろの押入をお明けになりますと、其押入の中に小さい棚が澤山拵らへてありました。そして其棚には、薬品やお茶道具やお菓子器などを、順よく列べて、誰にでも直ぐ判るやうにしてありました。これは大變に便利だと思ひました。物の置き場所が一定して居るといふことは日常の生活にどの位便利であるか知れません。子供が一寸ころんだ時、アルコールを持つてお出でと云つて、ハイと直ぐ持つて來るのと、サアどこでございますといちいち探すのとで、大變な相違であります。

世の中が斯樣忙しくなつて來ては、凡て簡單に判りやすくするといふことが必要だと思ひます。それには、物事を、此茶の間の押入に棚を作つて列べるやうにし度いものだと存じます。これも押入の改良でございます。一体昔からの習慣で、押入を作るには、うしろを壁にして作るのが普通でございますが彼うしますと押入の中が暗くなつて、掃除の時など誠に不便なものです。それに夜具を仕舞つて置く押入などは、いつも掃除が不届きなのと、夜具の末だほとばりのあるうちに疊んで仕舞う爲めに、押入の中が一種の臭氣のあるものです。これは衛生上に悪いばかりでなく、考へると氣持のよいことではありません。

私の知つて居る方は、此不便と不衛生とを妨ぐ爲めに、押入のうしろを壁にしないで、戸にして、兩方から明け立ての出來るやうに工夫をしお作りになりましたが、大變に都合がよいといふことでございます。も一つは、上と下とによく風呂場や便所などにつける、明ける時には板が二枚に重なつて一方が明いてしめる時には一寸押せば一枚づつになつてしまる、廣い格子のやうな戸をしめてありましたが、あれなどもよいと思ひました。一寸お布團を風にあてやうと思ふ時には、そこを明けて置けば、態々出さなくとも濟みます。

子供や老人の爲めに、坐敷から椽側に出る時椽側が少し低いと、そこで一つとんと降りるの

が工合が悪いと云つて、椽側の高さをしきゐと同じ高さにしてあるのを見ましたが、これなども一寸したことでいい思ひつきだと思ひました夜暗い時に、よくしきゐにつまづいたりするものですから、老人や子供のあるお家などでは、こんな小さい注意でも、其爲めにどんなに都合がいいか知れません。私共では、椽側に御座をしいて、椅子卓子を置いて居りますが冬は暖かで、夏は涼しくてよい居間になります。

◆肝要な室々の構造

女子大學教授 井上秀子談

私は住宅についての理想といふほどの物は持つてゐませんが、思ひ出した儘に、住宅で大切な部分といふやうなお話をして見ませう。

無論どの室にしても皆大切でありますが、主人の書齋と、主婦の室と、子供の室とお臺所とそれに物置。これだけは特に大切でございませう。主人は一家の中心であるばかりでなく、主人の活動の源泉ともならなくてはなりませんから、殊に今後の中流以上の階級の家庭では、此の書齋に注意を拂はなくてはなりません。事務所を持つとか、出勤先があるとかいふ人でも、どうもそこでは心が落ちつかなくてゆつくりと讀書をするとか、或は思索に耽るとかいふことは出來難いものでありますから、何うしても居宅に於て、そのための一室を備へて置く必要があります。所で、貸家などは論外としましても普通新築される住宅でも、この書齋が甚しく實用とは掛け離れてゐるやうでございます。客間や應接室へは注意を拂つても、こゝだけはどうでもよいといふ風な家屋をよく見受けます。

申すまでもなく、書齋は採光と通風との工合をよく考へなくてはなりません。夕日の強くさ

し込むやうな二階などは無論駄目でせう。殊にお務めの人は夕方から歸つて書齋に入るのですが猶更です。そこで東南に面した、庭に樹木が鬱蒼と茂つて、射し來る光線も暖かく和かくて餘り明るくない位な程度を可とし、道路とは相當な距離があつて、道行く人の聲や豆腐賣り、納豆賣りの呼び聲も聞えないといふのは理想的でせう。無論西洋風にして、天井を高く、小さい長方形の窓を幾つかあけて、上部へ換氣窓を添へて、そこから自由に空氣の新陳代謝を行ふことはよろしいのです。それから書齋の床板は餘程堅固にして置きませんと、重い書物を澤山に置きますと、忽ち下に落ちてしまひます。出來ることなら、書物棚を隣室へ設けて、下をすつかりコンクリートか何かで固めまして、そこだけは立派な小圖書館にして置けば、書物の保存上にも檢索上にも結構です。中には高價な書物を應接室や甚しきは玄關先に飾りつけてある家を見ますが、あれは徒らに學を衒ふやうな氣がしまして感心されません。それに常に研究をしてゐるやうな人がどうして大切な辭書などを書齋外へ置いて滿足されませうか。書齋についでは兒童室でありますか、子供には兒童室といふやうな小さいものを限つて與へることは考へ物でせう。出來るだけ自由に快活に飛び廻らせる意味からしても、又た部の空氣に觸れしめる點からしても、体育運動の目的から見ても、兒童は成るべく戸外に置くのがよろしいと思ひます。そして十三四歳以下の子供のためには、どんなに亂暴をしても差支のない一室をあてがつて、そこへは事によると庭から跣足の儘に上つてもかまはないことにして置きます。尤も庭の大部分を玉川砂利か、きれいな砂か、或は芝植にして置きますれば、ちよつと濡れ雜巾で拭いて上れば差支はない譯でございます。そして室内遊戲をする時とか、雨天の際とかにはこゝへ來て遊ぶといふ風にして置きます。勿論裝飾も何も要りません。たゞ危險でないやうにさへしてありますれば、どたんばたんと相撲を取らうが何しようが一切制限をしないことにするので

す。

その代り、勉強室といふものは別に設けなくてはいけません。これはなるべく一家の子供を大學生も中學生も幼稚園へ行くやうなのも、兄弟姉妹を一室に置きまして、そこだけの自治制にするがよろしいのです。尤も幼い子供ばかりならば、母親なり祖母なり、適當な人が監督者となりまして。勉強の指導やなどをしてやらなくてはなりません。さうでなく三人以上も兄弟があり、兄さんは相當な年齢だといふ位でありましたら一切子供仲間に自治制を布きまして、それだけで何事もするやうにします。そして親達は餘り干渉をしないがよろしいと思ひます。但しこの室は、いくらか教育級にしまして、壁に地圖だの掛圖だのを掛けるとか、參考書を澤山置くことか、ピアノかオルガンのやうなものを置いて、子供達の娯樂品もあり、教材もあるといふ風にしなくてはなりません。そして勉強室では、晝間は十分明るいやうに、窓を多くつけ、夜は電燈のなるべく燭光の強いものを數多くつけなくてはなりません。眼を惡くすることは腦を疲勞させて、神經衰弱などの原因になります。

主婦の室については、何よりもお臺所の便利と、子供等の勉強室に近いやうに心がけます。兎に角主婦は一家の參謀總長でありますから凡ての室へ便利がよくなくてはなりません。同時にお客樣などに見られる場所に居ることも時に取つてはよろしくありません。そして、主婦室は時とすると產室になることを忘れてはなりません。別に產室の設けてある家ならば別ですけれど、さうでなかつたら、一室を區切つて屏風でも立てれば、早速產褥が設けられ、產後は嬰兒の寢かし場ともなるやうな設備をしなくてはなりません。それには、西洋建築ならば扉を區切りますから文句はありませんが、日本室だと隣室との間へは、開き扉を建てるか、襖を建てるかしなくてはいけません。要するに、それだけの室を孤立させて置いて、それで各室へ便利なやうにといふ、むつかしい注文があるわけで

す。

それからお臺所については、既に多くの人によつて研究されてゐますから、申しませんが、日本の家には物置きが不足であります。土藏のある家や、大きい物置きの建つてゐる家庭は別として、普通には押入だの床下だのが物置代りに使はれてゐるわけであります。私は押入の取り方なども今少し工夫があらうと思ひます。例へば普通二段のを三段として、天井まで通してつけるとか、内部の構造を改良するとか色々あらうと思ひますが、更に床下と天井裏とを、うまく利用する工夫が欲しいものです。つまり西洋風に、天井裏と地下室とを利用するのです。さうしたらば物置きの場所は今よりもずつと多く出來まして、且つ便利になるでせうと思ひます。併し、多くの貴重品！寶物などをお持ちの方は是非、倉庫といふほどでなくとも、家の一部へでも、コンクリートで四方を固めた一室を設けるか、金庫の大きいのを備へつけるかした方が安全です。たとひ中へ一萬圓の品を入れて置くのに、三千圓や五千圓の費用をかけても貯藏所の安全を圖ることは得策であらうと存じます

◆洋舘に住んでよいと思ふことは

藥學博士
木村彥衛門氏夫人
木村永子談

私共は洋舘の中に西洋風の生活をして居ります。主人は永らく獨逸に居りましたし、私も例へ一寸でも外國の空氣にふれて、洋風の生活をした經驗がありますので、便利だとこそ思ひますが、不都合だと感じたことはございません

洋舘に住んでよいと思ふことは、來客の時の便利のよいことでございます。お茶やお菓子を運ぶ女中が、いちいち摺り足で三つ指をついて居た日には、お互に窮屈で碌にお話も出來ません、女中の方にしても、さぞ氣骨の折れること

だらうと存じます。これから世の中が忙しくなるに從つて、用談は應接室で一寸腰かけて濟し本を讀むにも、手紙をかくにも、椅子で濟すといふことは、時代に適應したと存じます。

私共では、今の家を建築いたします時に、主人の希望で各部室に暖房の設備をいたしました今迄のやうに、火鉢や炬燵では、ほんの手先きや上皮ばかり温まつて、身体を充分あたためることが出來ません。廣い部室に一つや二つの火鉢を置いた位では、部室を全部温める譯にも參りませんし、それに寒いと思つて火を澤山起して部室を閉め切つて置きますと、上せて顔ばかり熱くなつて頭痛がいたしますが、反對に身体の方はザワザワと寒氣がして、不用意に其儘外へ出たりすると直ぐ風邪を引きます。

外から温めやうがないと、内から温めやうなどと、云つて熱い物を澤山たべて胃をこわしたりします。昔の人は、寒さ暑さには、それに耐へ得る丈夫な身体を作るがよいと云つて、防寒に對する設備などは全然考へませんでしたが、そんなことをして、あア寒いと思つていつもいぢけてばかり居るよりは、利器が有るなら其利器を活用して、神身共に、もつと有益な方に使うのがよいでせう。本を讀むにしても仕事をするにしても、温い部室でゆつくりするのと、寒い部室で火鉢にかぢりつきながらするのでは、其能率に於て大變な違でせうと思ひます。

日本では暖房は余り見ませんが、外國では、少し寒い國では皆設備をして居るさうです。暖房がありますと、第一火鉢を運んだり火を起したりする世話がありません。作るのに一寸お金がかゝりますが、それとても、著物一枚に何百圓といふ大金をかけることを思へば何でもないことでせう。平素は石炭を炊きますから、炭や瓦斯よりは經濟だらうと思ひます。此頃は石炭が高くなりましたが、二三年前までは、一萬斤四十四五圓でしたから、誠に重寶でございました一萬斤も炊けば、どんなに廣く温まるでせう。それにお湯は絶へず沸いて居て、風呂にもお勝手にも不自由なく使へます。

暖房は裝飾をすればお金もかゝりますが、ざつとすればそんなにかゝらないと思ひます。私共では此暖房がある爲めに、火鉢に火を起したり火鉢の掃除をしたりする手數が省けた上に、家の中が溫かいので冬もほんとうに樂でございます。子供部室には是非必要なことと思ひます

主人は物事に對して嫌な感じを起さないやうといふことをやかましく申します。例へば、便所が日本風に溜めて置くのですと、はいつた時に臭氣で嫌な氣がしますし、まめに汲み取りに來てくれないと、始終それが氣になつて、何かの拍子に其話などが出ますと、誠に嫌な感じを起すものですから、凡てそんなことのないやうにと、便所も西洋風にいちいち水で流すやうに致しました。部室に附いた道具や裝飾品も。間に合せ物といふことを大變嫌います。

主人は音樂が好きでございますし、宅でお世話をして居る子供達にも音樂を習はせて居りますので、二階に音樂室を設けました。ピアノを彈く部室と、ヴアイオリンを彈く部室と、それに演說をする時や、音樂會には舞臺の代用にもなるやうな場所を一つ作りました。主人や私共の寢室は二階で、寢室に、主人の洋服をいれる戸棚や、こまかい物をいれる箪笥を備へて置きまして、主人は朝起きると直く、部室の中に有る洗面所で顏を洗つて、其場で着換もして仕舞ひます。お湯も水もスキッチをひねれば出ますから、汲んで渡す世話がありません。私もこゝで濟しますから女中達の手も省けます。掃除は板場はから拭きばかりでございます。最初新築仕立てのうちは、くるみの實を布に包んでそれで振きました艶を出さうと思ひますと、塵物なども此くるみの實で拭くのが一番よく利きます。廊下をくるみて拭きますと、余り艶が出過ぎてつるつるすべつて困りますから、糠で拭きます糠を煎つてそれを木綿の袋にいれて用ひます。敷物は、ごんごんたたいて日光に干します。部室の隅は、日本室のやうに掃き出す譯に參りませんから、昇汞水を極く薄くといてそれで拭きます。應接室や主人の書齋、音樂室などは寄木

や板張りにしましたが、食堂にはコルクをしいて其上に敷き物をしきました。板張りですと、瀬戸物を落した時に直ぐこわれて仕舞ひますがコルクは軟かいものですから、其心配がなく、それに大變足障が柔かくてよいと思ひます。私共ばかりですと、日本座敷は必要もございませんが、親類に老人がありまして、さういふ人達は椅子卓子を嫌いますから、其人達がいらした時の用意に、日本座敷を三間作りました。此座敷は、ふだんは誰も參りません、只毎日掃除をするだけで、私の家では重荷にして居りますがやはり今の時代では、全然洋風といふことは出來ないことでございます。凡ての点に二重生活をしなければならない不便さを、いつまで續けなければならないことでせうと、いつもこぼして居ります。

私共が新しく試みたものは、暖房裝置と、音樂室を設けたことでございますが、暖房の方は成功と申してもよい丈の便利を感じて居りますが音樂室は、部室には別に欠点もありませんが天上に作つた電燈の場所に少し不滿な点があります。家といふものは、いくら建て直しても、もうこれで充分といふことのないものだと申しますから、まアよいかげんな處であきらめて置きませうと考へて居ります。

○　讀人しらず

久しう訪はざりける人の思ひ出でゝ今宵までこむ門さゝでありまてと申して御座りければ

八重葎　さしてし門をいまさらに
何にくやしく　あけて待ちけむ

○　讀人しらず

播磨の國に高潟といふ所に面白き家もちて侍りけるを京にて母がおもひにて久しう罷らで彼の高潟に侍る人にいひつかしける

物思ふと　行きてもみれば　高潟の
蜑のとまやは　朽ちやしぬらむ

（後　撰　集）



京都古建築觀（四）

特別賛助員　伊藤清造

四、醍醐寺

概說＝山城國宇治郡醍醐村大字醍醐に在る深雪山と號して眞言宗の古寺である、伽藍は笠取山上と山麓にあつて俗に上醍醐、下醍醐といつてゐる。延喜七年に聖寶尊師（理源大師）が醍醐天皇の勅願に依つて創建したものであるが、後に非常に頽廢したのを鳥羽天皇の保安三年に再建に着手して保安五年に落成したのが、上醍醐の藥師堂であるといふ、その後諸堂が荒廢してをつたのを豐臣秀吉が復觀したといふ、ともかく秀吉とは大なる關係を有つてゐる。

此邊一帶に非常に詩味に富んだ所であつて、吾人は嘗て雨の降る日、上醍醐へ上つたことがあるが、忠吟の歌もそゞろに思ひ浮んで來た

雨ふれば笠取山のもみぢ葉は
　ゆきかふ人のそでさへそてる

この醍醐山は古は笠取山といつてをつたのであるが、理源大師が此の山へ初めて上つた時、老翁が獨り谷の水を嘗めて醍醐の味があるといつて賞味してをつたので寺號を醍醐寺と名づけ次いで山の名に呼ばれるようになつたと傳へてゐる。

建築＝藤原初期の古いものから、鎌倉、桃山時代等のものを含んでゐる、一概に鎌倉時代と云ふけれ共、賴朝を中心として所謂鎌倉武士の風骨と、依然舊習を保持しようとした京都の風

韻と決して同日に論ずべきものでないことを常に考へる必要がある、流鏑馬犬追物が盛んに行はれて居つた關東の思想は、藤末の衰亂に否直接には平家の擾亂に大なる革命を與へたものであらうが、義仲の入京にすらうろたへて、鎌倉へ討伐の命を發した京畿の公達とこれを取圍んだ總べての思想とが決して我が文明史に大なる革命を與へよう筈がない、否眞實に觀察するならば最も悲哀に滿ちた時代であつたらうと思はれる、承久の役の眞相はこの間の消息を傳へて餘す所がないでないか、京畿地方の鎌倉期の造形美術も又この氣分を脫出することが出來なかつたのである、これは主として建築繪畫の方面であつて、彫刻では反つて反對の現象を呈したかの觀があるのは奇とすべきである

五重塔姿

此塔の建築年代に關しては、村上天皇の勅に依つて中務卿代明親王が建立せられたので、承平六年左大臣藤原忠平卿等が資を投じて心柱を引き、天曆五年に竣功したと傳へてゐる、此年は西曆九百五十一年で實に鳳凰堂に先つこと百年であるが今は樣式手法上確かなものとされてゐる、明治三十年いち早く特別保護建造物に編入され、明治三十一年大脩繕の工を竣つてゐる

塔は方三間で、石壇上に立ち、頂上に相輪を載せてゐる、內部は中心柱に板を張り、壁部と共に繪畫を以つて說相曼荼羅を描出し、長押天井等には極彩色で寶相華文樣を描いてある折上組入天井である、四方共に中ま一間に唐戶を附け、其他は欞子窓が開いてゐる、各層共に勾欄を附け最上層の屋蓋には露盤覆鉢をのせ、九輪水煙、寶珠をのせてゐる所は何等異りはない、斗組は各層共に三手先で支輪軒天井を付けてゐる。

細雨霏々として晴れず、亭々たる古松鬱々として晩翠を含める夕、柔かい弱い光りを包んだ醍醐の林には、千年の古塔が魔の樣に立つてゐる、初層から二層へ、二層から三層へと移つてゆく線律の漸層は無限の快感を以つて迫つてくる、長く長く延びた松の並木の中に、高く強く

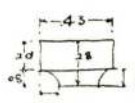
突つ立つた古塔の姿態は暗い雨にほかされた還境と、悪魔の様な天空とに反抗して絶大の氣脈を表見してゐる、美學に所謂怪美の概念は當然かゝる所に潜んでゐるべきである、一重、二重三重と次第々々に暗い輪廓に消ねんとする所、細雨淋しく軒にかゝる所、吾人はこの塔の眞價は決して白晝炎天下にみるべき底のものでないことを深く深く感じたのである。

頃日百度の炎暑を侵して、こゝへこの塔を眺めに行つた、吾人は餘韻ある松籟の響きと、強い強い木の間に洩れる夏の光りとを以つてして此の古塔を只美くしいといふもの以外に何等胸底に迫られる強い印象を得ることが出來なかつた、黄金の域にまで達した奈良朝藝術が平安京へ移され、之れと同時に密敎の神秘觀にひどく影響されて、俊嚴な一種神秘的色彩を帶びて來た藤原の藝術に單なる美觀のをみ體現したとてそれを以て直ちに藤原時代の藝術的零圍氣に接したと思つたら大なる誤りである。

細部に就いて觀察してみると、先づ内部に寶相華文様に依つて美くしく裝飾されてゐるが、是等は皆藤原の繪畵をして貴重なるものである中心柱の佛像は、北面のものを以つて最も優れてゐるとされてゐる、又比較的よく保存されてゐる、柱、長押等の寶相華文様は、調和のよい縹繝彩色になつてゐる、文様は黒い太い線と、白い珠絞とに依つて連絡されてゐる、この手法は藤原時代以前には見られない様である、柱、組物、長押等に極彩色で裝飾するようになつた藤原時代からの創作であらうと思ふ、鳳凰堂には勿論この手法が應用されてゐる、佛像其他寶相華文様等は非常に巧みに出來てゐるが、鳳凰堂のそれよりは遙かに強い心持ちを以つてゐる臺輪下端に書かれた文様中に新らしい手法のもの、要するに後世の補作と思惟される部分が四方で八ツある、これは一見して氣の附くことで線や色彩が全々違つてゐる、上に文様の構圖も材料も違つてゐる、文様の材料は菊花であつて菊花に就いては已に奈良朝時代の、物に見えてゐるが、果して文様として用ひられたかどうか

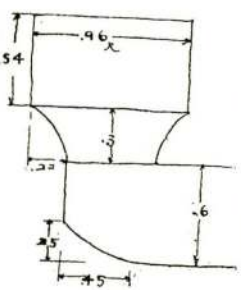
は勿論頗る怪しいもので恐らく藤原末期ではなからうかと思ふ、而し吾人は不幸にこの時代の實例を寡聞で一つも知らない、鎌倉時代に入つては吾人は多くの例證を擧げる自由を持つてゐる、先づ鏡背の文樣でも花菊雙雀鏡（高橋氏所藏）長方扇面菊水鏡（佐藤氏所藏）其他多くの實例がある、又他の工藝品には德川侯藏の長生殿蒔繪手箱の蓋の蒔繪に菊花がある、これは長生殿裏春秋富　不老門前日月遲の詩の意を蒔繪とした此時代初葉の優秀な作である、又足利を通じて桃山の兩時代は殆んど全盛かの觀がある、かくして吾人は極めて危險ではあるがやゝ根據ある立脚地から、醍醐寺五重塔內部台輪下端の文樣の一部を以つて、或は鎌倉以後の補工ではなからうかと思ふのであるが勿論尙多くの研究の餘地を有するものとして後日の研究に讓りたいと思ふ

次に構造の細部に就いて見ると、斗は後世のものと著しく異つてゐる、即ち殆んど正方形に近いものである、そしてそのしやくりは曲線といふよりも寧ろ直線に近いものである、法隆寺金堂や藥師寺東塔等のそれに較べるならば著しく違つてゐるが唐招提寺や當麻寺東塔のそれに較べるならば著しく類似した比例を以つてゐる



山城深草　多寶塔の斗

即ち非常に雄大な氣分に富んでゐる、これに比べると鳳凰堂のもの等は遙かに優美なものである、かくの如く斗の成が高い爲めに組物が非常に雄大となり仰々しくなつて軒先は恰も組物のみかの感がある、是の斗の比例は後世には著しく貧弱となつて足利期の如きは實に平たい矩形となつて終つてゐる。

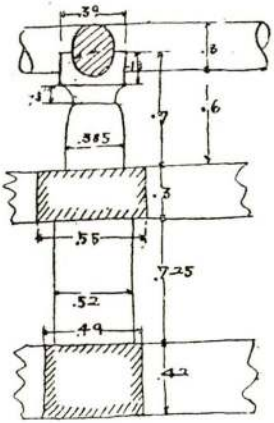


五重塔及肘木

又肘木の曲線も鳳凰堂のものゝ如く流暢でなく、惡く言へば生硬であるが、善く言へば力のある立派なものである、尾垂は多少の曲線を持つてゐることは鳳凰堂のそれと似てゐるがその鼻は垂直に切られてゐる、

軒の支輪の曲線も鳳凰堂のものとよく似た美くしい曲線である。

更らに樋を見ると少しの反轉もなく直線的のものである、而し後世建築の如く裝飾的に用ひられた化粧樋ではない、これはこの時代以前のものは總べてこの五重塔に限らずに構造上の主要の要素をなしてをつたので、藥師寺東塔、室生寺五重塔、鳳凰堂等皆是である、然し是れは後世建築では全く裝飾的に用ひたに過ぎない、安樂寺八角四重塔の如きはその例とすることが出來る、この事實は建築構造史の發達を記錄すべき面白い問題である、此の五重塔にあつては地樋は深く內へ入つて上層の柱を支承してゐる。



醍醐寺五重塔勾欄

勾欄は次に記したような寸法であつて法界寺阿彌陀堂のそれとよく似た比例を以つてゐるが明らかにこれよりは古い手法を窺ふことが出來る、一般に此時代の勾欄は笠木と平桁との距離が大きく、平桁は笠木と地覆との中間にあるように思はれる、この爲めに勾欄の釣合は一應安定の感を強してゐる。

さてこの塔の立面圖に就いて考へてゐると後世建築の塔の如く一層一層と重つた最後に九輪をのせて恰もこの九輪がある爲めに塔はこれが最上であるといつたような感じのあるに反して一層々々と高くなつてゆく所に一種の線律が響いて必然的に頂上に達してゐるが爲めに安定であるとか、形がよいとか云ふような美學上の條件に滿足を與へてゐるのみならずに塔婆としての第一義にも徹底してゐる譯である、塔婆は頂上の寶珠に佛舍利を入れたもので、こゝが塔婆の主要なる部分であつて下部の建造物は此れが臺たるに過ぎない、況んや初層內部に佛像を安置して美くしく裝飾した後世塔婆の如きものは第末義と言はねばならない、而して此の塔の九

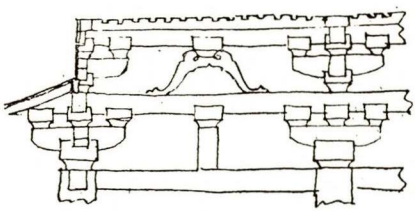
輪が全長の百分の三十四・三あるといふ事實は美觀上からも塔の本義からも極めて大切な事である、後世建築の塔婆の九輪が全長の百分の十八乃至十九位なのに比べると如何に此の塔の設計者が非凡であつたかを知ることが出來る。

要するに此塔は我邦有數の古塔である、形の上に於いて又意味の上に於いて。

藥師堂

鳥羽天皇の保安三年に再建に着して同五年に竣工したので、保安五年は即ち天治元年で西紀千百二十四年に當る、鳳凰寺に後れること七十四年、下醍醐の五重塔に後れること實に百七十四年である、この時代は京都では白河法皇の院政が行はれその弊は後の保元平治の亂の因をなし藤末も次第々々に亂雜な世になつて來たのである、一方平氏の起つて來るのと、藤末の勢力の失墜するのと共に京都は可成りごたつきかけて來て、一種の暗流が上下に流れて居たのである。

俗界から遠く離れた笠取山上に宗教の假面に包まれて隱れたこの藝術も、このやせこけかけた時代の思潮には到底打ち勝つことは出來なかつた、この建築が表現する全美の裏面に閃く一轉機はやがて賴朝に天下を奪はしめた大素因である。



藥師堂內陣纂股

此の建築は五間四面單層入母屋檜皮葺のもので石壇上に立つてゐる、明治三十四年に特建に編入され、同四十一年に古社寺保存會の手に依つて修繕されてゐる

外部は圓柱の上に平三斗をのせてゐるが、內陣は二手組物である、頭貫と一の通り肘木との間には斗束を用ひその上には本蟇股をのせてゐる、棰には反轉があり全体は丹塗りである、外陣は化粧屋根裏を表してゐるが內陣は組入天井となつてゐる、母屋は深く入り合掌を見てゐる。

正面柱間眞々は十尺で左右は各九尺である、そして正面三間を唐戸として左右に櫺子窓を作つてゐる、内陣を三間二面とし蔀戸で仕切つてゐる。

どこまで澄みきつたコバルトの空と、深い深い神秘を語る翠葉と、檜皮の褐色と、柱の丹色と何等の楷調であろう、藤原末期の物哀れな風雲を包んで、遠く高く此の山上に据ゑられた靜美は、數百年の古から沈々として獨り昏默を續けてゐる、輕い美くしい棰や、軒の反轉も何となしに物を思はすような深い暗い影を宿してゐる、清く明るく澄みきつた山上の嵐氣に榮ねに榮ねた此の藝術は懷かしくゆかしくまでに、うら若い美くしさに滿ちてゐるが、その深い深い底には一種の悲哀の情緒をそゝつてゐる。

更に細部に就いて見ると、棰は法界寺阿彌陀堂のそれ以上に輕快な反轉を見せて、如何にも軒先が輕く出來てゐる、肛梁はその斷面は上邊は下邊よりも大である、これはこの藤原時代の特徴であつて、日野法界寺、宇治平等院其他にも石山寺本堂等に見ることが出來る、それは力學上荷重を受けるに有利な点が多い、又虹梁は極めて美くしい曲線をなしてゐる、一体虹梁は日本建築に獨特のものであつて、飛鳥時代には一般に未だ用ひられなかつたようであるが、白鳳時代から用ひられたらしく藥師寺東塔には見ることが出來る、これは直線的のものである、天平期には多く使用され唐招提寺金堂、東大寺法華堂等のものは美くしい曲線をしてゐるし、又斷面もこの藥師堂のものと同樣である。

内陣の墓股は頗ぶる美くしいもので、日本三墓股の一に算へられてゐる、力の強い線が氣勢よく張つて上部の荷重を輕く支承してゐる、墓股は後世建築にあつては單一なる取り付け裝飾として構造上何等の役目をして居ないものが極めて多い、而し天平期から藤原期にかけて墓股は決して簡單な裝飾に用ひられたものではない又更に墓股に對して論ずるに當つては、その曲線の強いとか弱いとか又は股間が大であるとか小であるとか机上へ持ち出した時に行はれるよ

うな枯渇した問題以上に重要な事項はその蟇股の如何に空間を占有してゐるか即ち蟇股の用ひらるべき空間に如何に適合されてゐるかといふ問題である、今此の藥師堂に就いて考へて見るならば、第一の通り肘木上に斗がのりこれから肘木が出て、更に斗がのつて上の桁を受けてゐるがこれが柱の上毎にあつて一つの Symmetrical space を作つてゐるがこの Symmetrical space に蟇股が如何に適合されてゐるかといふことは第一に考ふべき問題であらうと思ふ、これが此の場合には二段に出來て居つて、下の空間には斗束を用ひ、上の空間には蟇股を用ひて變化を求めて居るが、唐招提寺金堂内部のように何處も斗束を用ふるといふことになればこれは嚴肅な、端正な表現に於いて秀れてゐても、蕭洒な婉やかな表現には乏しいと思はれる、こゝの点が平安朝の思想と、天平の思想との岐路でもあろう、そして今この点からして藥師堂の蟇股を見るのにその空間を巧みに充滿させて寸分の隙を見せて居ない概がある。

次ぎに肘木の曲線を見るのに、下醍醐の五重塔に比べると著しく軟かくなつてゐる、この肘木とこの蟇股とで裝飾された藥師堂内部は一言して言へば、あつさりとして美くしく、本尊定朝作の藥師座像の衣紋まで一種單純化されて見ゐるのである。

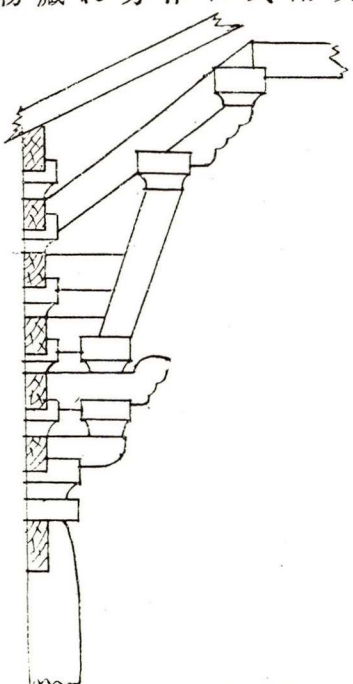
經藏

宇多天皇の寛平六年に遣唐使が廢止されてから、我邦の文物は全く外國との交渉を立ち、藝術史上では此れを第一次同化時代と稱してゐるが、この間に釀成された建築樣式を稱して和樣といつてゐる、これが後鳥羽天皇の建久三年となり、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、天下の政權を掌握するようになつて、支那との交通が亦盛んになつてきた、この時代では已に唐が亡んで南宋の世である、當時支那へ留學してをつた高僧が歸朝し、新たに禪宗を傳へ、こゝへ日蓮法然、親鸞等の高僧も輩出して新流派を作り、佛敎は盛大を極めたが特に禪宗は幕府の庇護を受けて、京都には建仁、東福、天龍、妙心 萬

壽の名寺の五山を始め、鎌倉にも禪刹五山が造營せられ、これと共に輸入せられたのは所謂唐樣建築であつて、從來の樣式と異つたものを盛んに作つた、又一方にあつては俊乘坊重源等の勸進によつて、南都東大寺大佛殿等が再建されこの爲めに別に一樣式を將來した、これが所謂天竺樣であつて、この時代に於いての建築は百般に通じてこの三つの流派が行はれ、次いではこれ等を折衷して伊東博士の所謂觀心寺樣を初め、尙更らに複雜した樣式を生ずるようになつたのである、京都には禪刹五山を始め南禪寺等の大伽藍が作られ唐樣建築は非常に盛んであつた一方には和樣建築は依然として多く用ひられておつた形跡が明かである、醍醐寺經藏は京都に於ける天竺樣建築の唯一の遺物である、明治三十一年に特別保護建造物に指定され同四十三年に修繕されてゐる。

三間二面單層四注柿葺であつて、前一間に庇を附け、棧唐戸を配してゐる、構造は所謂天竺樣であつて非常に自由に出來てゐる、斗には皿斗があり、肘木は差し肘木であるがその意匠は實に自由自在である、庇の出は可成り多く一種奇怪な驚奇な表現を以つてゐる、恰度山中で育つた木曾義仲が典儀式禮の多い京都で、野人禮に習はず底の振舞をしたのと似通つてゐる。

五大力堂



醍醐五大力堂内部組物圖

慶長十一年に作られたもので、明治三十二年に特建に編入されてゐる、五間四面入母屋單層本瓦葺の堂で棧唐戸を配し、內部に須彌檀を設けてゐる、此の須彌壇勾欄の平桁、笠木、地覆

等に使用された金具の毛彫りは純粋の桃山期のものであつて、あの特徴が遺憾なく溢れてゐる三寶院書院に使用された金具に是れと全く同一のものがあり、文様集成にも載せられてゐる、軒の組物は一種異様のもので、荷重を受けるのに特殊の抜巧を用ひてゐる。

金堂

鎌倉時代のものであつて、慶長三年に紀州湯淺からこゝへ移建したもので、單層入母屋本瓦葺で、前に向拜を附け、擬寶珠勾欄の廻縁を以つてゐるが此の向拜は恐らく慶長三年に移建した際に添加したものかと思はれる、形は決して好いものでなく、前の向拜は著しく目さはりである。

千年の古塔默として立つ松林に、この金堂のみは俗惡な姿態を以つて平然として立つてゐる物哀れな沈靜を語りつゝ、時しも松籟颯々として響く時、亂れて飛ぶ群雀も涙を掩ふまでに哀れなものに思はれる。

◈狂詩二題

鄰可譚

○京者笑二大阪一

神社神閣不レ足レ見　芝居網船氣張行
最二負役者一番附列　世二話開帳一身上傾
皆因二食倒一煮賣夥　只好二頭勝一喧嘩爭
出レ錢常呑小便水　對レ人猶誇魚與レ城

○大阪者笑レ京

勘定綿密人情疎　物不レ入事無上譽
漫尋二近附一倒二茶屋一　或賴二手筋一乾二芝居一
小便替物爲二汁實一　紙屑直賣買二干魚一
堪レ笑客人埒レ返節　頻進二支度一看是虛



計畫と設計

會員　波江悌夫

（一）

私は「計畫」と「設計」との別について聊か自分の愚見を述べて置きたいと思ひます。それは必ずしも無駄なことでないといふ事を此頃深く感じたからであります。元より私の様な若輩が殊更らに斯ういふ論義立をしてゐらさうな顔をした處で、そんな事はとうの昔に解決のついて居る問題であつて「計畫」は即ち「計畫」ではないか、又「設計」は畢竟「設計」ちあないかといはれるかもしれませんが兎角此二つの名詞は混同されて用ひられて居る様であるから特に思ひ切つて駄言を並べる次第であります。

御承知でもありませうが、東京の工科大學建築科の學生を中心にした「木葉會」といふ會合があります。毎月本會の様に例會を開いて意見の交換をやり、意志の疎通を謀り、延ひて學藝の研究に資するといふ方針で、廣く卒業生の方々をも網羅して居るので、時々趣味ある講演や、面白い討論會が催されます。丁度私等の幹事をして居りました時分に當時新たに工學博士の榮譽を蒙ち得られました恩師關野氏が、特に私等のために討論題として撰擇せられました主題は確か「設計と計畫との譯語の適否」とかいふのでありました、其晩折悪しく博士に御差支へが起つて欠席せられましたのでさう〳〵此討論會は御流れとなつてしまいました。それはおかしいぢあないかといふ御尋れが起るに相違ありません、博士が欠席したからとて、立派な題目を討議しなかつたのは共意を得んとの御質問は當然起るのでありますが、何にせい若い連中の事でありますから、折角の好題目を物にしやうといふ考へも付かなかつたし、又私共の中に其晩迄に充分ド準備する様な特志家もなかつた様な譯で、兎も角鑑賢の出題者の御差支へをよい理由として雜談會で御茶を濁してしまいました。其後博士は支那方面へ旅行をせられる様になり私共も學事に追はれて、いつの間にか立派なこの討論題は暗から暗に葬られてしまいました。

もうかれこれ十年の昔となつて居ります。當時博士の御考へとしては、『什うも「計畫」と「設計」との譯語が其原意を適切に說

明して居らん樣であるし、又屢混同して用ひられて居る樣でもあるから一つ研究して見てに什うか』との御主意であつた樣に記憶して居ります。其後私共の頭には『流會の一件が申譯ない』といふ一つの凝りが宿りましてだん〳〵重くなつて行きます。博士が支那から御歸りになつても、何と申上げ樣もないので博士から御催促のある迄は甚だ横着を極め込んで居りましたが頭の隅の凝りは益々倍加して行きます。これではならぬといふのでそれから後は此の凝を解くのに私かに骨を折り始めました一つは申譯のため、今一つは自分の苦痛を柔げる爲めに。

此頃になつて漸く此の解決が私丈には付きましたのでやつと安心をいたしまして茲に改めて申述べる次第であります。そしてそれが自分を救ふのみならず、同僚の頭の凝りをも癒する結果にもなろうかと考へました次第であります。

（二）

「計畫」といふ譯語は英語の planning といふ名詞に與へたものであるとして差支へない樣に思はれます。Townplanning を「都市計畫」と譯して現在盛んに識者の稱導する處から觀ても確かであります。

それから「設計」なる譯語は主として英語の Design なる名詞に與へられて居る樣であり別に又「意匠」或は「圖案」等の語を與へられて居る樣でありますが譯語の適否は其字義の内容の如何に關係し、又一般に使用されつゝある慣習より打算しなければ一概に論ずる譯には行かぬ事と思はれます。從つて私は現在使用されつゝある此の二名詞の内容を考慮して原語に含有せらるゝ意義と對照した上に於て初めて最後の斷定を下したいと思ふのであります。因より譯語が原意に素直に適應する場合は甚だ少ないのでありまして殊に吾國の樣に一々漢字を借用しなければならぬ國柄に在つては原語は寧ろ原語の儘使用することの至當である樣にも考へる結果、常に國語改良の問題に迄立到ることを痛切に感じない譯には行きません。

尤も今日吾國に用ひられつゝある種々の熟語は漢字隆盛の時代から引續いて明治の前半期に大低出來上つたものださうで、和製のものが甚だ多いのでありますから、いはゞ漢字を借用はしてゐるものゝ、熟字、熟語は頗る日本化されて居ります、從つて適當な譯語に在つては誠に申分のない意義を含蓄して居るものも甚だ多いのであります。

然らば本問題に於ては什うであるか。今此の二名詞の漢字を比較して見まするに兩者に「計」の字を保持して居るが爲めに頗る混淆の原因をしては居らぬかと考へます。「計畫」に在つては「計」を上位に置き「設計」に在つては「計」を下位にするが爲めに上下の位置によつて夫れ丈の差違を認め得るや否やといふ事になりますが、私の見まする處では「計」は兩者の骨子をなしては居るが上下の位置は單に語呂の如何に依つて居ると思ふのであります。要するに「計畫」に在つては「畫」に重要な意義を含み「設計」にあつては「設」に多大な解譯を蓄へて居るのではないかと思います。乍然二字を以て一個の名詞とした場合には多く其兩個の文字の意義を綜合して初めて眞の味を出さしむる樣になつ

て居ります。從つて別々に詮義立をすることの可否は問題となりませう。「建築」に於ても「樣式」に於ても「仕樣」「施工」「構造」「計算」等の重要なる名詞か夫々に同格なる形式の下に工夫されて居る樣であります。殊に此等の名詞が多く動詞から轉用されて居る關係上其個々の文字に苦勞するの必要はないかと考へられますが、中には二個文字中其一に主要なる意義を蓄へ他は之れが從に過ぎぬものもある樣であります。

「設計」並びに「計畫」が共通なる「計」の字を有する丈に私は「計」の一字を從と考ふる事によつて其意義を却つて明瞭ならしめるだらうと思ふのであります。從つて私は「畫」と「設」との關係比較並びに字義の含蓄につき相當の解譯を下して置くことの決して不必要でないといふことを充分述べて見たいと思ふものであります。

(二)

尤も「計畫」にしても「設計」にしても英語の到來せぬ以前から我國に用ひられて居る名詞であると私は信じて居りますが、其意義の內容の相異は全く planning と Design との差別と同樣である樣に思はれます。唯私は此等英語の語源を詮鑿する迄の研究を積んで居りませんから、茲には自分の信じて居る範圍で講究をして見たいのであります。

planning なる名詞は plan が出て居ります。從つて plan なる名詞は一般に「計畫」「計企或は「企劃」なる譯語を與へて居る樣でありますが、又狹意に解譯すれば「平面」或は「區劃」「形象」などの譯語によつて廣く工藝技術上の水平面圖を指して居ります蓋し plan なる名詞は「畫」或は「劃」なる漢字と殆んど同樣の意義を持つて居る樣であります。空間を劃する事は工藝技術上の骨子でありまして總ての技術上の作品は plan が基をなしますされば planning といふ事は狹い意味に於ては「區畫すること」則ち「plan を作成すること」であつて畢竟動詞から出た名詞であります。そこで「計畫」なる名詞と全く同じ意味を含蓄して居るが爲めに頗る適譯であると信ずるものであります。殊に「計畫」なる廣義の意味にも平面圖を骨子として出立するの道程が含まれて居ることは甚だ面白い事實でありまして意義頗る深長である樣に思はれます。

Design なる名詞は技術を完成するの意味を俱有して居り工藝技術を完結するの動作から起つて名詞となつた樣に思はれます從つて實際上の問題、俱体的の設備を完結するの意義を含んで居るが爲めに、不完全ながら「設」なる漢字は亦よく其主旨を說明して居るように考へます。殊に技術上の實際的計算を遂げ、微密なる算數の上に實行の案を設立完成するといふ意義に於て「設計」の二字が如何にも簡にして要を得てゐると思ひます。

然らば「計畫」と「設計」との差別は什うなるのか、是れが私の特に進んで申述べたい處であつて、本文を思ひ立つた主要なる題目であります。既に申述べた樣な意義を俱有して居る此二名詞が自からにして其根本から異なつた動作を体現して居るのであります。前者は則ち技術上の根底を決定せんとするの動作を說明したもので、後者は則ち此の根底の確立によつて其意圖を成就するの動作を指摘したものであると思ひます。換言すれば

「計畫」は根本的基礎案の工夫努力を確立せんとするの作業にして「設計」は其確立せる基礎案を更らに俱体的作品に仕上げんとするの案を打出する作業であると思ひます。約言すれば前者は平面圖の完成を主眼とし、後者に立面圖の成就を目的として居る樣であります。

或は又怎うも謂へやうかと思ひます。「計畫」とは技術上の大方針を決定せんとするの意圖を指し、「設計」とは其大方針に基いて其意圖を完結するの成案であると。今更らに言葉を換へ見まするに前者は大局を執へんとするの努力であり後者は進んで其實行を策するの工夫であると謂ひ得るかと思ひます。

（四）

話は變りますが軍事上に「作戰計畫」なる言葉があります。これは「作戰」に關する「計畫」であつて戰時に際し大本營に於ける最も重大なる仕事の一つであります。然も此の「作戰計畫」の「計畫」は前に述べました工藝技術上の「計畫」と全く同じ意義を包含して居るのでありまして「作戰」に關する大方針を決定することであります。因より此の大方針を確定するが爲めにはあらゆる俱体的調査を遂げた上に立案するのであつて、各方面の事項を考慮按配して大局を執へ、以て「作戰」の成就に遺憾ならしめんとするの根本策を確立する大仕事であります。若し此の「計畫」にして一歩を誤まらんか作戰上の支障は惹いて重大なる結果を齎らします。故に「作戰計畫」に參與する武官には一國の傑出せる智嚢を擧げて網羅するのでありまして其主腦者は一國の重望を負ふ所の參謀總長が任に當るのであります。

從つて「作戰」なる言葉は工藝技術上の「設計」に相等する樣に思はれます。よく「設計計畫」と連結する場合もある通り「作戰」とは「設計」に比敵する名詞であると判斷して差支へない樣であります。「作戰」とは則ち野戰の動作でありまして「計畫」の實行を意味します。大本營より派遣せられる軍司令官は其幕僚を從へまして「作戰」の實施を斷行するのが任務であります。從つて其「作戰」は何處迄も大本營の「計畫」に基かなければならぬ義務があるのでありまして軍司令官は大本營の意圖を成就する爲めに孤身の勇を奮ひ、其幕僚は其意圖の完成に滿腔の智嚢をしぼるのであります。

若し軍司令官にして大本營の「計畫」に外れたる「作戰」を爲す場合は大本營は必ず注意を與へ警告を發して其反省を求めますが、其「作戰」が大本營の意圖を成就する爲めに如何なる手段を廻らすとも、決して大本營からは干渉をせぬ樣であります。此の軍事上の「計畫」と「作戰」との關係並びに其交涉連絡の有樣は移して以て技術上の參考となること寡に多大であることを感じて居りますので他山の石として申述べた次第であります

又軍事上に「戰略」と「戰術」との別があります。「略」は又「軍略」とも申しますが、彼の有名なる「六韜三略」の略から來て居る樣でありまして、「一般方略」の略にも關係して居ります。此の「略」は「計畫」の運用を說明したものであつて「機略」の二字は「應變」の妙を語るものであります。「畫」は固定的或は靜的の意を有て居ります。從つて「計略」の熟語は自から生れて來るのでありまして「作戰」に關しては「戰略」を骨子としなければならぬ

様であります畢竟「略」の變化は遂に「術」を産むのであつて、一般工藝技術上では「計畫」を決定する處の「略」は則ち「平面圖」に比敵する樣に思はれます。「基本計畫」にして確立すれば幾多の平面圖が案出される如くに「略」は「計畫」の如何によつて千變万化の妙を体現するのであります。

蓋し「略」成つて後に「術」の妙用を識るが爲めに、「術」の妙は平面圖の確立後に現はれて來るに相違ないのであります「術」は、工藝技術上の立面圖を指して差支へない樣に思ひます。建築の立面圖が平面圖の確定の後に完成せらるゝ順序ある如く「戰術」の運用は「戰略」の變化によつて更らに千變万化の妙味を産出するのであります。

（五）

横道に入り込んだ話は甚だ餘計の樣でありますが決して無駄な事でないと信じます。今日の建築家は果して「計畫」に從事して居るのでせうか「設計」に從事して居るのでせうか、「計畫」も「設計」もしてゐるのだと申して差支へないでせうか。或人は建築家は參謀本部の仕事をするの任務に生れて來てゐるのだと叫びます。乍然事實は果して「計畫」を立てるの任務を遂行して居りませうか。或人は建築家は野戰の司令官に終つてはならぬと敎へます。乍然「設計」に從事しつゝある建築家は畢竟「作戰」に從事しつゝあるのではありますまいか。

建築界に於ては悲しい哉、「計畫」は大底建築を解しない素人の人々の手によつて握られて居ります。如何なる建築を立てるか如何なる設備をするか、幾何の規模、幾何の資金、此等に皆注文主の決定せらるゝ案件であります。然も此等の基本問題は實に「計畫」の骨子をなすものであつて、寧ろ建築家の任務の主要なる部分であらればなりません。「基本計畫」それは「設計」の産れる母親であります。建築家は母親の安否も氣遣ひ生兒の發育をも心配する處の産婆の役目を務むるものであるならば、初めから母体の診察に從事するのが大切な任務ではないでせうか生れ落ちた子供をのみ育て上げる乳母としての任務も隨分と骨の折れる役目には相違ないとしても、出來上る子供が片輪だといふて乳母は其責任を負ふの必要がない樣に「設計」丈けの努力を遂行して「計畫」迄の責任を負はされる筈はない樣です。

若しも建築家が産婆としての役に付いて居つても、身体の弱い母親の介抱は中々大役であり生れる子供はどんな体格どんな容貌か、産婆の責任ではないにしても、まかり間違へば隨分と陰口は聽かなければならぬのであります、併も安産をせしめる迄の努力は自から省みて相當の滿足を感じない譯には行くまいと思はれます。

東京の中央停車場が出來上つた當時、世人は口を連ねて惡評を加へました、多くの建築家も雷同者に加つた樣でありますが果して「設計」を非難したのであつたか「計畫」を非難したのであつたか聞いて見たいのであります。此の場合に「設計」の非難といふよりは「計畫」の痛罵が甚だ多かつたように覺えて居ります。そして建築家が「計畫」の非難迄も忍んで聞かればならぬ破目を慨するの傍、多くの建築家が非難のために非難をしたいふより外に何等の得る處がなかつた樣に思はれます。

建築に關する學校、其處では多くの乳母を教へて居るのでせうか、産婆を養成して居るのでせうか、又は看護婦を訓練して居るのでせうか、又多くの建築科志望の學生、彼等は乳母になるの志望か、産婆になるの希望か、或は看護婦になるの欲望か聞いて見たい樣な氣もします。且妻賢母を養成して居るのならば異議はありません。昔の奥樣は一人で子を産み一人で子を育てたと申します。

これはどうやら話が脱線しました。要するに建築家は一口に「設計計畫」と申しては居りますが、果して何れを主眼として其業を勵んで居るか又學びつゝあるか特に一考を要する問題であると確く信じて居ります。例へば一つの建築の意匠を懸賞に附する場合を考へて見ます「計畫」が立たんで「作戰」が出來ない樣に、「計畫」の骨子が不明瞭であつたならば「設計」に甚だ漠然たるものが出來ませう、又「計畫」が固定して居るならば其「計畫」よりより以上の「設計」は出來ない相談でありませう。或は「計畫」を競技せしむるが重要であるか「設計」を募集するが大切であるかを考へねばなりますまい。若し「計畫」を求めて「設計」を得た場合はどうなりませう。反對に「設計」を募つて「計畫」が現はれた場合はどうなりませう。又多くの建築圖案が立面圖に重きを置くのは「設計」なるが爲めではないでせうか、又應募者が「計畫」に切り込んで質問をするの用意なくして「設計」がうまく出來上りませうか。

こんな風に考へて來て私は更らに大なる疑りが私の頭の中に宿つて來ました事を遺憾とします。そして此の新たな疑りを柔ぐる爲めに更らに十年の歲月を送らねばならぬ樣に思はれます

◆搦手の路◆

同じき六日の日の曙に、大將軍九郎御曹子義經一萬餘騎を二手に分けて、土肥次郎實平に七千餘騎を指し添へて、一の谷の西の木戸口へ指し遣す。我身は三千餘騎にて、一の谷の後鵯越を落さんとて、丹波路より搦手へこそ向はれけれ。兵共是は聞ゆる惡所にてあるなり。同じう死ぬとも、敵に遇ひてこそ死にたけれ、惡所に落ちては死にたからず。あつぱれ此の山の案內者やあると、口々に申しければ、爰に武藏の國の住人、平山の武者所進み出て、季重こそ此の山の案內能く存知仕りて候へ、と申しければ、御曹子、和殿は東國そだちの者の、今日始めて見る西國の山の案內者、大に誠しからずと宜へば、季重重れて申しけるは、是は御諚とも覺え候はぬものかな。吉野泊瀨の花をば見れども、歎人が知り、敵の籠りたる城の後の案內をば、剛の武者が知り候とぞ申しける。是亦倭若無人にぞ聞えし。

「平家物語卷の九」



戰の跡

會員　野人生

『これからの建築家は建築家で終るのは考へものだれ』

と北側の眞中に豪然と座を占めて居たウス髯の男が不意に相談を持ち掛けた。其左隣に默然と控へて居た白髪頭の男はニヤ〳〵と笑つた。其隣に居た小さな男は思はずウス髯を見詰めながら變な顏をした。

ウス髯はチラと東側の眞中に火鉢を引寄せて煙草の吸殼を片付けて居る男々眺めながら、更らにまた何やら言ひ出さうとした時、眞向ふに肅然と襟を正して居た色の白い男が口を切つた

『私はウス髯さんの御説に反對です。建築家は建築家の天職を盡すのが本當ではないでせうか』

七個の火鉢を並べて圓陣を作つて居る一座は十二人共自然と顏を上げた。

ウス髯は相手が出來たので

『併し建築家だつて人間ですから、必ずしも建築に囚はれる必要はないでせう』

白い男は右手に持つて居た火箸を眞直ぐにグッと差し込みながらウス髯をキット視た。

『人間としての天職は何でせう。其職に忠を盡すべきではないでせうか。』

ウス髯も稍眞面目な顏になつた。

『人間として社會の爲めに働いたら善いでせう』

白い男は右の手で膝頭を撫でながら

『建築家が建築家として其職に忠なるのが決極社會に貢獻するのではないでせうか』

ウス髯は什うやら困つた樣な顏をしたが、默つて居れないと見えて

『私は建築家が社會のために働くのに、何にも必ずしも建築を通してやらんでも差支へはないと思ふのです。建築家であつて繪畫に丹能な方もあろうし、建築家であつて彫刻家たる人も出來やうし、又小説を書いたとて差支へはないし、建築家であつて劇作家になつても惡くはない樣に思ふのです』

此時白い男の右に居た男は金口の煙草をひねりながら口を入

れた。

『ウス髯君の言ふ事も、あなたの謂はれる事も結局同じ事になりはしませんか』

白い男は一寸隣の話に耳を傾けて居たが。

『吾々建築家は自分の仕事でさへ中々滿足に出來ないのに、外の方面に手が出せませうか。私は建築家として何處迄も其天職に滿足を感じたいと思ふのです、若し建築家にして其專門を離れるならばそれは甚だ不幸な人だと思ひます。』

十三人の心は全く當面の問題を放つて置けなくなつて來た。

今迄西側の中央に火針をかゝへながら右隣の眼の大きな男と話をして居た小柄な男は突然叫んだ。

『ウス髯さんは怪しからん無茶をいはれますれ、あなたは眞面目な話を茶かして掛つて居るとしか思はれませんぜ』

面喰つたのはウス髯である。思はず右手で後頭部を撫でながら、小柄な男を顧みて笑止な顏をした。東側に居た連中も一寸呼吸を呑んで顏を見合してゐる。ウス髯は

『僕は決して無茶を言ふてゐる積りではないですがれ、白面君の所謂不幸な人であるかもしれませんが、譬へば昔の人の例をとつて見ても、本居宣長の如きは元醫者であつたと聞いて居ますそれが後年國學の大家となつたではありませんか。』

白面君は直ぐに答へた。

『それは特別な天才ではないでせうか』

ウス髯も中々强情である。

『特別な天才かも知れませんが、吾々も亦小なりと雖も天から與へられた才能を持つて居るに相違ないですかられ』

『さう言つたら限りがない』

と小柄な男は小さな聲で呶いたが又急に叫んだ。

『とにかくあなたの御話は無茶苦茶だ、何だか無暗に叱搖き舞はしてさつぱり要領を得ない、眞面目な話の腰を折つてやたらに人の話を引出さうと掛つて居るのですな』

ウス髯は此の二度目の突擊に小々庇古垂れたと見ゐて、ニヤ〳〵笑つて敷島を一本とり出して烟を擧げた、烟に卷く積りかも知れない。

此時迄絶えず微笑を湛へながら吸殼を丁寧に片付けて居た東側の八字髯は九州なまりの上聲で次の樣な意見を述べた

『吾々は建築家だ。建築家だといふけれども、初めつから建築家といふ天職を感じて居る人は何人あるだらうか。十人の中で八人迄は有耶無耶に建築家になつて居りあしないかれ。吾々が高等學校を出て愈大學に入る時分に、はつきり自分の專門を決めて居た人は澤山あつたらうか中にはいや〳〵ながらと申しては差支へが起るかもしれんが、隨分迷つた擧句やつと極めた連中が多かろうぜ。三年の學校教育で建築家といふ刻印を打たれたから建築家となつた丈であつて、衷心建築家としての天職を感じてゐる人は誠に仕合せであるが、中には却つて困つて居る人がありあしないか。のみならず一度社會に首を突込んでから後は必ずしも建築の設計ばかりに從事して居る譯には行かぬ人もあろうし、法律の研究を始めた人もあるだろうし、經濟學の

講義錄を讀む人も出來やうし、又音響の研究だの、能舞臺の研究だのと段々かけ離れた方面へ傾いて行く樣だな』

八字髯の南隣に居た金絲の眼鏡も口を出した

『殊に建築家は經濟の研究と法律の研究は是非一通りやらなくてはいかん樣ですな』

金口の卷煙草を喫んで居る男は右手の肥つた男に相談をしてゐる。

『要するに白面君の說とウス髯君の說とは同じ事を違つた方面から說いて居るのぢあないか』

『つまり挾く觀るか廣く觀るかの相違でせう』

と肥つた男は小聲に答へた。

ウス髯は八字髯の話で大いに元氣を回復して亦喋り出した。

『僕なんかは中學の時分に理科を志望して居た。それを親父と叔父から說得されて今の時勢に理科を學んだら食つて行けなくなるだらう。工科を志望しろ、電氣が有望だといふ樣な話でさうかしらと思つて二部の甲へ入つたのさ、すると同級の連中は當時大低造船だの電氣を志望して居たので自分も電氣にしやうかと大方極めて居たが、いつの間にか建築科に入つてしまつた今になつて考へて見ると自分は仕合せなのだか不仕合なのだか一寸解らない。要するに不幸な人間になつてしまつたんでせう併し境遇の變化に應じて職業換へをやるのも惡くはないと思ふ自分の本當の滿足を得た仕事に出會したられ、桂公なんかは軍人からいつの間にか政治家になつてしまつた。』

白面君は默つて聞いて居たが什うやら話が變手古になつて來たので怪しからんと思つたか。

『桂公の如き軍人でありながら政治に關はつたために非常な害毒を流したのではありますまいか』

と質問を發した。ウス髯は何とか答へなければならなかつた

『桂公が政治界に飛び出したのは其當時にあの時局を綜合するの適才として適所を得た譯でせうぜ、軍人だからといふて政治家になつてはならんと云ふ事はないでせう』

白面君は更らに言葉を繼いだ。

『軍人が政治に關係する樣になつた爲めに軍閥の跋跡が甚しくなつたのである』

『併し日本の今日の一等國としての位置は重に軍人が築いた樣なものでせうぜ、維新の革命でさへ軍人の力に據つて成就したと僕は思ふ』

とウス髯はいつの間にか話を脫線せしめる。白面君は乘り掛つた舟を離す譯には行かなかつた

『革命の成功は軍人の力のみでせうか、譬へば露西亞の革命の如きは什うでせう、デモクラシーの思想が上下に浸透した爲ではないでせうか』

ウス髯君は此時慇ふ答へた。

『それはあなたが露西亞の革命の直相を御存じない。あの革命の成功したのは軍隊が加擔をしたために出來たのですぜ』

白面君は一寸默つて居たが

『佛蘭西革命は軍人によつて成就しましたでせうか』

と方面を轉じた。ウス髯はバスチール牢獄の破壞に滿腔の熱

血を漲らした巴里の市街戦の光景を頭の中に浮べながらこんな事を云ふた。

『改革の波瀾の中からナポレオンの如き軍人が飛び出して舞臺を轉換して居ますれ』

小柄な男は眼の大きな男と話をして居た。

『軍人といふのは穩當でないれ、一種の暴力といふのが適切と思ふ』

『さうれ暴動といふ以上は暴力がよいれ』

と眼の大きな男は顎を撫でながら、相槌を打つた。小柄な男は次に斯ういふた。

『ウス髯君の話は革命の結果ばかりに着眼してゐる。其原因に遡つて考へんでは眞相は觸る譯がない』

小柄な男の左に悠然と構へ込んで微笑を湛へた居た男は「さうれ」と簡單に答へた。

ウス髯は亦ニヤ〳〵と笑つて默つてしまつた。

此時八字髯は腹の中で「畢竟議論といふ奴は着眼點が違つて居る處から起るものだな、ウス髯のは成就といふ事に重きを措いて居るのだし白面君のは其原因から觀察して居るのだ」と研究してゐた。

白面君はやがて口を開いた

『ウス髯君は私の先輩ではありますが、先程の御言葉はちと壓迫の氣味があつた樣に覺えます「あなたは革命の眞相を御存じない」との御言葉は誰やらにかぶれて居る樣に思はれますね』

一座思はず吹き出した。ウス髯は大いに狼狽の氣味でアハヽヽと笑つたが

『成る程近來カブレて來た樣ですれ』

と僞りない所を承認した。

ウス髯の右に居た男は初めから默つて謹聽して居たが此時一膝乘り出して

『併し斯ふいふ議論は面白いですな、異見の出れば出る程御互ひに識り會ふ事になります。』

と穩かに述べた時、白髮頭は頭を撫でながら

『さうれ議論のために議論をする樣に觀へるが結局、御互同士を識り合ふといふ利益は確かにあるれ』

と贊成した、其隣りの小男は最後に

『何だか建築家の會合とは思はれんれ、』

と嘆息した。（了）

◆物を聽くに◆

諸人の物を聽くに、三つありとて、上品の人は、神に聽き、中品の人は、心に聽き、下品の人は、耳にて聽くとかや。既に石に掘るは、萬代を經ても變らず、板に書くは、火にも燒け、雨露にも朽つる。紙に書くは。蟲もつゞり、朽ち易しとなり。（それ〳〵草）



大阪市中央公會堂
—建築工事に就て—

會員　谷口民藏

（一）

予は本建築工事關係者の一人にして、何等かの報告をなすべきの義務ある樣に思はれ居りし處編輯員諸氏の御注文もあり取急ぎ其概況を申述べんとするものなり。今秋茲に工成なるの後因緣淺からざる該建築工事に關する序述を物するに及んで感激無量ならざるを得ず、殊に本誌々上を借用するの光榮は身に餘るを覺ゆる也、

抑も本建築は故岩本榮之助氏が往年渡米實業團に參加せられ彼の地視察中、大いに感ぜらるゝ處あり、澁澤男爵を初め朝野の諸名士に謀り遂に巨資を捐して、一大公會堂を新築し之れを我が大阪市に提供せらるゝ事に決せしは既に世人の熟知せらるゝ所に屬す。

斯くて財團法人の設立と共に大阪公會堂建設事務所は中ノ島に設置せられ、市の有力なる名士並びに長老よりなる役員の組織成り、建築顧問としては工學博士辰野金吾氏を聘し、設計監督としては工學片士岡安氏囑托せらる、實に明治四十五年の春、百花燦爛の頃なりしなり。予が工務主任の大役を命ぜられ、常務理事栗山寛一氏の麾下に犬馬の勞に服したるは、翌年梅花薰の頃なりしと記憶す。

是より先き大正元年五月には本公會堂の基礎計畫案成り、敷地を中之島に相し其設計案を公募するの機熟し、建築學會の指名する十有數名の知名建築家の懸賞競技遂行せられ、特種選拔

法によりて工學士岡田信一郎氏案第一等入選の榮を贏ち得られしかば愈該一等案を採用することに決し、且つ原案に改良改善を加へ遂に實施案の設計を完成し、大正二年初春地鎭祭を擧行することを得たり。

仝年初夏工を起し、爾來苦心經營日を重ね、大正四年秋十月漸く定礎式を擧げ、澁澤男手づから銀鏝を執りて東南隅の隅石を据へられ、今年十月工を竣へる迄、實に五年四ヶ月の長歲月を費したり。予は本工事の當事者として斯くの如き工事の遲延せしに對して頗る赫顏の至なるが、顧みて多少の理由なきに非ず。

既に計畫當時工事豫定期限の決定に際して、比較的急速を要せざるものと認め、且つ岩本氏の提供せる資金は大正四年十月末日に於て丁度壹百萬圓に充實するの計算なるを以て、工費支出は工事の進涉に伴ひ、每年二十萬圓宛とし、茲に五ケ年を期し竣成するの豫定を確立されたるもの也。

斯くて工事は比較的餘悠ある日程を以て開始せられたれども大正三年の盛夏の砌、歐洲大亂勃發し遂に世界的戰亂となるや、英國に注文せし本工事主要鐵材は幸に「スエズ」以東に輸送中なりしも遂に二ケ月の遲延を見たる如き、或は戰亂の波及增大するに從つて各種材料及工手問の暴騰せる如きは寔に工事中の重大なる支障にして、其の影響は痛切に本工事の豫定に四ケ月の延期を見たるものに外ならず。

（二）

凡そ大都市の公會堂が多數市民の會合に集會に盛んに便用利用せられつゝあるは歐米各國の趨勢なりと聞く。大阪市が從來何等此種の「パブリックホール」として市民の滿足を得べき建物なかりしは吾れ人共に遺憾とする處なりき。されば愈本建築の計畫せらるゝや、あらゆる用途の滿足を得せしむる爲めに當事者の苦心は宴に想像以上なりし由なり。かくて悠に三千人の聽衆を容るゝに足らるべき大集室を中心として舞踊演劇等の實演に可能なる舞臺を背後に設け

其右方に舞臺用控室及左方に裏階段を控へ四隅に四個の階段四個の便所四個の控室を附屬せしめ、正面には三個の出入により呑吐する來會者の群集を容るゝに足る大玄關を設け、左方に之が衣帽置場、右方に貴賓用階段を配置し、大會堂は又大食堂にも兼用し得らるゝため、其床を平面として地下室倉庫に椅子を收藏するに便なる艙口を設け、又時に柔劍道の對校仕合にも利用せられ得べき也。

されど演劇奏樂及び演說に際して聽衆の利便なる階段式床勾配は遂に設くるを得ざる事となれり、而して悠に一千人の立食を共にし得べき大會食堂は之を三階に設け（現在五百人分の椅子を備ふ）たれば之れが荷重を支持すべき圓柱十四本の並立を餘義なくせられたるは、此種公會堂としては大なる遺憾とする處にしてしかも各種の要求に應ずべく又止むを得ざるに出でたるなり。

三階には尙百人分の會食を得べき中食堂と正面の大圓窓を有する貴賓用待合室あり。其他配膳室控室等設けあり。地下室に在りては地下室食堂及酒場を設け、料理室、配膳室、便所、倉庫の外緩房汽罐室を配置し。背後に鐵筋コンクリート造高八十尺の煙突あり。

想ふに市民が本館を利用するに際して、數多其用途に應じての不便は尠なからざるべけんも要するに此新館がしかく夥多なる目的を抱容するが爲めに亦止むへからざる處として寬容せらるべきを信ずる也、而して此の一大公館が岩本氏の美擧を永世に記念するのみならず、市民がよく大阪市の公會堂として永久に愛護し、出入集散に際しても從來の如き放膽なる亂暴を敢ってせざることを信じて疑はざる也。

（三）

此種大都市の公有記念建築は永遠に其生命を保たしむるが爲めに堅牢質實なる永久的建築とせざるべからず、且つ外觀は都市の重要なる建築としての威嚴及品位なかるべからず。茲に於て其構造法は耐火耐震的要素を俱有せしむるた

めに鐵骨結構を主要構造とし被覆區劃するに煉瓦鐵筋「コンクリート」を以てす。外部は石材人造石及張瓦を用ひ、內部は漆喰木材及アスファルト等を使用す、又採光、暖房、衛生、音響及裝飾等の完備に細心の注意を拂ひ、將來改造修繕に多大の經費を要せざるのみならず之を最小限度に削減し得るの希望を實現するに努力せられたる也。

殊に顧問並びに設計者の最も苦心せられたるは耐火構造の徹底的方法及び音響と材料との關係に就いてなり。かくて最も弱點と考へられたる屋根の銅板下地に漆膠を用ひ固屋材の破裂に「鐵鋼」を纏ひ「モルタル」を塗捲きたる如き、大集會室天井及周圍の裝飾に細心の研究を盡したる如きは工事實施に當りたる予等の最も苦闘せる處に屬す。

又各種鐵材の徹密なる強弱の計算材料形狀の使用按配並びに實施當時に於ける監視監督の苦心經營は到底之を筆に說明すべからざるを思ふと雖、常に經濟上の商量を加ふの必要上、幾度が市場材料の適否有無を調査するの要あるが爲めに豫想以上の努力を費さしめたり。

斯くて此種大建築は一切を擧げて請負工事とするの不可なるを認め、終に直營制に則りしと雖も、各部工事の差支なき限りは部分工事請負に分擔せしめて以て協應努力せしめたるがために實施上の分類は頗る多種類に上りたり。幸にして各種請負當事者の熱心なる經營は何等の支障を惹起するに到らず、工務當事者として衷心の喜悅滿足を表するに吝かならざる也。

殊に最近に於ける各種材料工手間の暴騰に際して各工事關係者が飽くまで當初の契約を履行するに躊躇する處なく、時日の切迫に遭遇するもよく其完成に絶大の努力を經續したる如きは特筆大書すべき偉大なる事實にして忘るべからざる處に屬す。

(四)

故岩本氏の提供せる資金が大正四年十月末に於て壹百萬圓に充實する豫定なりし事は既述せる如し。依つて當時の豫算は若干の利殖金あるものとして先づ純建築費及び器具裝飾費を合して約八十五萬圓、維持費約十萬圓、經常費約十萬圓、敷地整理費約五萬圓則ち百十萬圓を計上したる也、然るに大正二年起工後二ヶ月を經ずして歐洲戰亂勃發し、一般經濟界に一大動搖を

與ふるに至りしが、大正三年三月には、基礎工事の進渉に伴ひ、石、煉瓦「コンクリート」鐵器等着々契約の締結を了したりし也、就中鐵器材料の如きは約九百噸に達せしも、幹材は一噸八十五圓其他は一噸九十五圓内外に過ぎず加工費足代、錆止等を加算して全部平均一噸百二十九圓餘（別紙ダイヤグラム參照）に過ぎず。石材は大小、加工の難易水磨等を加算して平均一切二圓二錢、大理石は主として、孤立柱、柱形腰羽目等の特別品其大部を占む。しかも當時の價格一平方尺平均一圓六十五錢なりき、又煉瓦の如きは八圓六十錢乃至九圓十錢にて現場へ納入の約束と結びたるが如き當時に於ては誠に工費の最低減度に一割前後の餘裕を加算したる契約金額なるなり。斯くの如き順潮なる經濟關係を以て大正四年の下半期迄持續せしも、同年度末より別表の如く漸次戰時需用品の激增を見るに至つて我建築諸材料は益々熱狂的昂騰を來し遂に停止する處を知らざらんとするの狀態となり既定の豫算は所謂壓迫を感ずるに到れり。

乍然此の波瀾萬丈の時機に於て既契約高を一覽するに全部の四十五「プロセント」に過ぎず して其五割にも達せざる有樣にして殘餘の五十五「プロセント」は更らに狂熱時代の大正五年以降に於て契約施工の止むなき狀態に陷りたるなり。而も當時は既に資金追加の餘地更になく如何なる艱難に處しても、本建築工事は其初志を貫徹せざるべからざる事情あり、故にビタ一文の超過をも許すべからず、若し又之れに反し此難關より多少の剩餘金を分出するに於ては或る半面よりは其吝嗇的經濟策なるの詛あるを怖るゝものなり、加ふるに特種建築なると直營制を採り殆ど一般的に門戶の開放を爲し苟くも社會の一部に篤き信用を有せる人は資本の有無を問はず一般的に依賴せし爲め其請負者は既に七十餘人契約書式を經たるもの壹千餘件に達す、實に一技術家にして斯る繁雜なる經濟事務の掌握は果して天の使命なりや蓋し直營制度に於て止を得ざる事と云ふべき乎

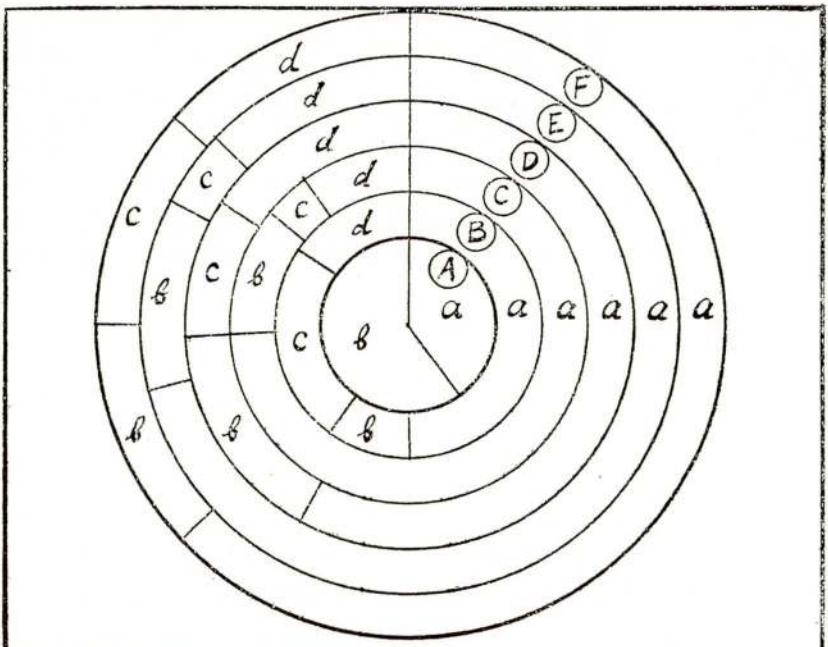
（五）

前述せる如く大正四年十月末に百萬圓に滿ち契約と支拂との間に利殖金二十一萬餘圓に達するに及んで當初の豫算額より超過約十五萬圓なるも市へ寄贈金五萬圓減と利殖十萬圓を以て添

補せり斯くして工費總額百十二萬圓の内には食器、旗、「スクリーン」、衝立、金屏風、舞臺道具時計、花瓶等の如き實に細微の器物迄で具備し尙は若干金を本建築の爲め奮勤せられし篤志家に贈呈し得たるは聊か以て快心とする處なり。終に臨み一言致し度は「豫算ハ超過スルモノ工事ハ遲延スルモノ」と素人側より往々耳にする處なるが場合により手段方法の利巧によりては必ずしも然らず。所謂一ケ年が三百六十五日餘にして最後に大晦日の有る事を忘るべからず、事苟くも都市改善の先覺者たり技術上の責任を自覺せるもの、一度設定せし豫算と竣成期に大錯誤を生ぜしめ而かも恬然として恥ざるは大に訓しむべきものと思ふ、然るに予が關係せし此建築に謂所世俗に漏れぬ豫算の超過、竣成期限の遲延を見たるは恥辱と云ふの外なし左れど今茲には工事の遲延せし理由と豫算超過の原因を尙立証せん爲め一つの「ダイヤグラム」を描き以て証明する處あるべし。即ち歐洲戰亂の餘波が惹て我建築界に及ぼせし影響は所謂不可能力に屬し如何ともすべからず、殊に各材料各工手間の暴騰は其責社會組織の欠陷に依るものと斷言するも差支なき樣なり見よ材料の拂底より來るべき材價の變動は止むを得ざるとするも投機的思想の潮流あり一攫千金を夢想する惡德商略家の蹂躙する處となり遂には堅實なる事業家に不慮の災害を招致せしむるは寧ろ社界組織の欠陷に歸因するものに非ずや。

以下本建築工事中即ち歐洲戰亂中に於ける二三建築材料並に工事工事間賃の標價を適錄表示し讀者の參考に資せんとす。幸に微意の在る所を汲まれんことを祈る

終りに臨んで一言申述べたきは本建築顧問長野博士が敎戒に『人は死して名を殘すと申すことあり、若し建築に生命があるものなれば、其建築が天變地異に遭遇したときが初めて其眞價を發揮する時機である、夫故其局に當るものは造次轉沛建築が多數市民の生命を預るべき建物である事を心に銘して從事しなければならぬ、所謂陰德的の行爲を打込むべきものである』と懇切なる訓示を垂れられた事である。本文を草するに當つて博士の此の言葉を想起しない譯には行かなかつた。特に此處に記して筆を措くものである。（丁）



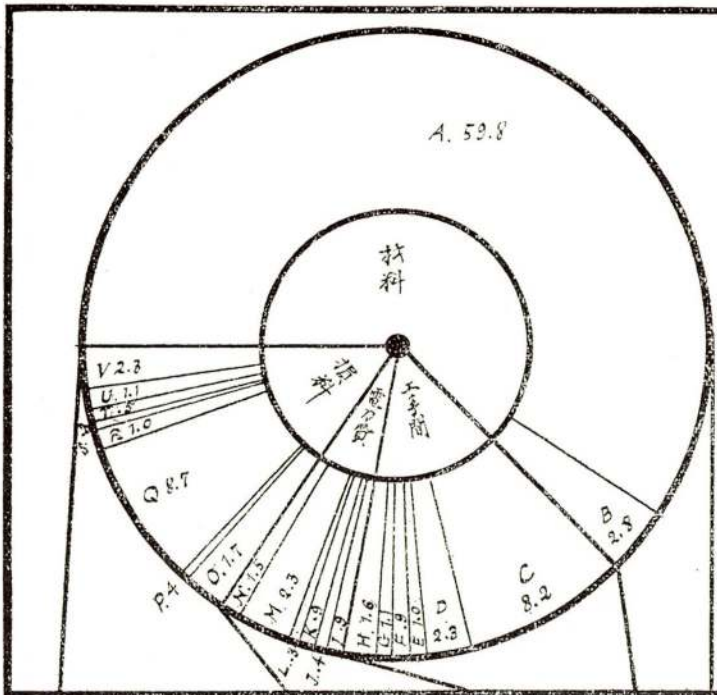
敷地下建物各部面積比較表

Ⓐ	敷地總坪數	一、七五五 坪、〇〇	一〇〇%
a	地中階建坪	六九六 二〇	四〇
b	空地 但擁壁下ニ石炭木物置便所等アリ	一、〇五八 八〇	六〇
Ⓑ	地中階總面積	七四七 一四	一〇〇%
a	各室坪數	三六九 四二	五〇
b	各階段坪數	七五 七三	一〇
c	各廊下坪數	一八四 六二	二四五
d	壁斷面坪數	一一七 三七	一五、五
Ⓒ	壹階總面積	六五三 四三	一〇〇%
a	各室坪數	四七八 三一	七四
b	各階段坪數	七五 四〇	一一、五
c	各廊下坪數	二九 七五	四五
d	壁斷面坪數	六九 九七	一〇

第二表

基礎杭打工事、材料及工手間比較表

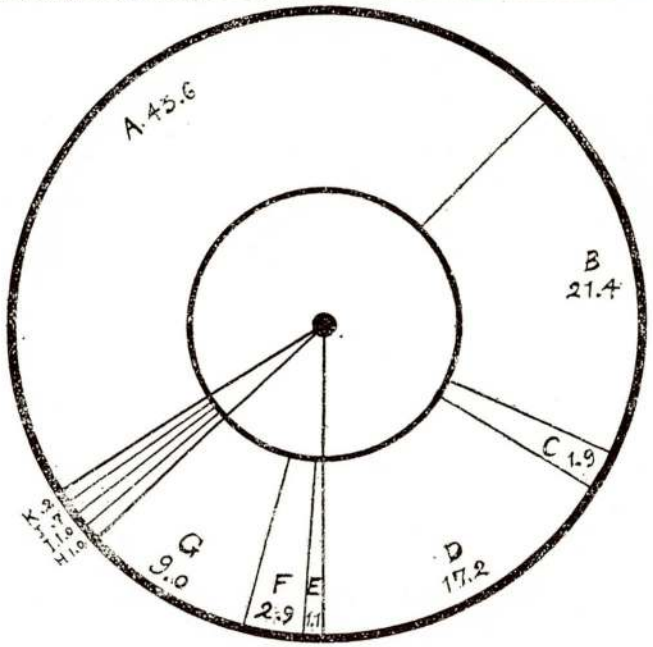
百分比例



	摘要	單價	小計
A	松杭(樅松)三十六呎長本	一四四〇	五二七一八四〇
B	三上 雜九呎 二百四拾五本	一〇〇〇	二四五〇〇〇
	合計 三千九百〇六本	一四四〇	五五二六八四〇
C	杭打手間賃	一八五	七二三〇〇〇
D	杭削仕上手間賃 松杭三千九百〇六本	〇五一	二〇三〇〇〇
E	杭ノ運搬賃	〇二五	九九四〇〇〇
F	杭頭切揃手間賃	〇二二	八二五〇〇〇
G	世話役手間賃	〇二七	一〇四〇〇〇
H	雜用大工手間賃	〇三七	一四三〇〇〇
	小計	三四七	一三五四九〇〇
I	際線工賃 松杭三千九百〇六本	〇二〇	七七四一〇
J	送電準備料	〇〇八五	三三〇〇〇
K	電動機借用料	〇二〇〇	七七二〇〇
L	電動機位置變更工賃	〇〇〇七	二九八七〇
M	ベルト代 使用電力料	〇五一	一九八七〇〇
	小計	〇三三	一二八六三〇
N	松杭樅松三呎預料 松杭三千九百〇六本	一四〇	五四八九六〇〇
O	松杭樅松三呎預料 分銅(四個)預料 全	〇三九	一五〇九〇〇
P	諸道具回漕分預料 全	〇〇八	三一〇〇
Q	機械修繕費 全	一九六	七六〇一〇〇
R	機械油 全	〇二二	八五三〇〇
S	排水用喞筒走弁料 全	〇〇七	二七八一〇
T	諸設備費 全	一〇〇	四〇〇〇〇
U	杭打足代 全	〇二五	九八〇〇〇
V		〇五一	二〇〇〇〇〇
合計		三五八	一三九七五〇
		二二六〇	八八二〇 四二〇

基礎鐵筋混凝土工事（材料及工手間）比較表

百分比例

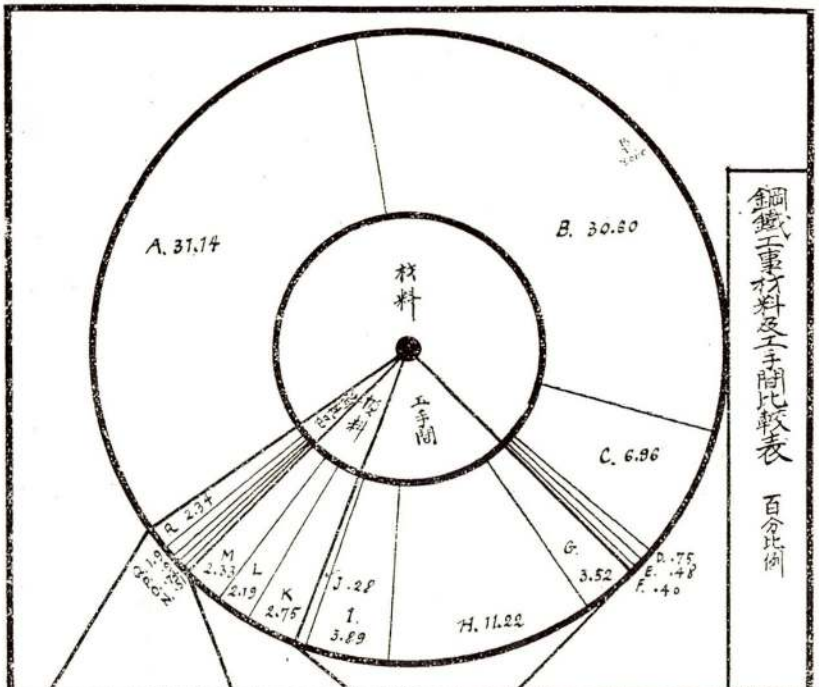


鐵筋混凝土貳百五拾八坪製作費内譯

摘要	單價	小計
附錄		
A セメント（一七五瓩樽）	三四一〇	五五三五一〇〇
B 砂利 二五八 坪	一〇五〇〇	二七〇九〇〇〇
C 川砂（運搬賃共）	九五〇	二四五〇〇〇
D 鐵筋（ワイヤ共）	八三九〇	二一六四四三〇
小計	四一二五〇	一〇六四三五三〇
E 堀板手間賃	七一〇	一八四〇〇〇
F 鐵筋手間賃	一四五〇	三七三一〇〇
G コンクリート打手間賃	四四一〇	一一三八六五〇
小計	六五七〇	一六九九七五〇
H 堀板材木鉄釘等	四七〇	一二一六四〇
I ミキサー並捲揚機賃	三五〇〇	一三四九三〇
J 電力費（機械運転用電動機並ポンプ用）	三四〇	八七〇
K 排水用喞筒損料	一一〇	二五〇〇
小計	一四二〇	三六四八〇
合計	四九三四〇	一二七四一七〇

鋼鐵工事材料及工手間比較表

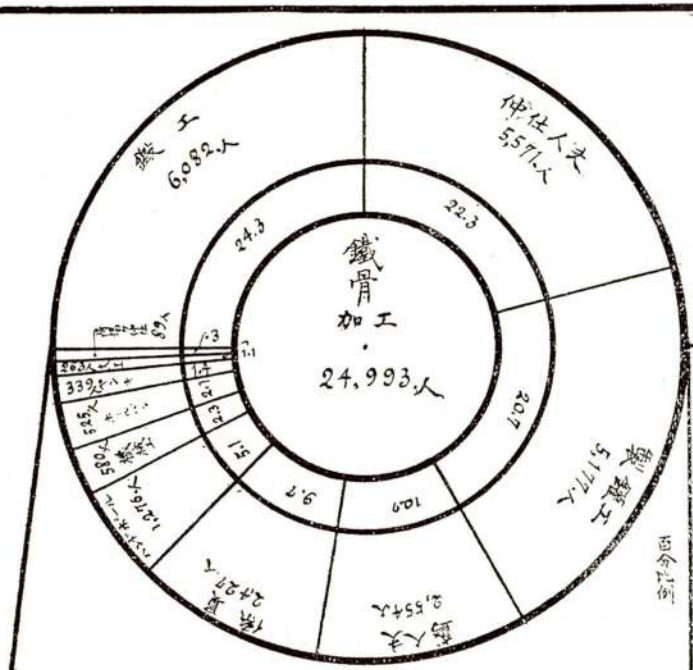
百分比例



鋼鉄材料九〇二五六噸ノ工事費内訳

符號	摘要	數量	單位	價	小計
A	鋼鉄材軸部	四〇九〇一五	噸	八〇六九三	三六八〇四〇
B	仝 床張	三九七	〃	八三七	三三二九
C	仝 小屋組	八八〇八〇	〃	九〇 六一五	三六〇四〇
D	仝 塔屋	七六〇四	〃	九三〇二一	三四〇
E	光明丹塗	三六八〇〇〇	坪	二五	八四六〇〇〇
F	セメント塗	七四二〇〇〇	〃	一五〇	二六八四〇〇
	小計			〇五五	四〇四〇〇
G	係員	二四三七	人	八〇六九三	八六二九〇
H	職工 手間	三九三	〃	一七一〇	四五〇一七〇
I	鳥仲仕人夫	八三四	〃	九五〇	三三〇七八五〇
J	左官師工	三三九	〃	五五〇	四五八二〇〇
	小計			九〇〇	三〇五一〇〇
K	機械据付手間				三三二一五〇
L	機械其他雑費				三五八二二〇
M	下図生図及雑材	一三〇	坪	二七四一二五〇	
	小計				八五六八一二〇
N	無烟炭	六〇〇〇	瓲	一〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇
O	三池粉炭	一四四〇〇	〃	六〇〇〇	八六四〇〇〇
P	コークス	七〇〇〇	噸	一五二三〇	一〇六六一〇
Q	木炭	六〇〇〇〇	貫	二二五	二三五〇〇〇
R	油電力等進式				四五五四七一〇
	小計				二七五九一二〇
	合計				二七、七五八、八一〇

鋼鉄工事九百〇二五二六噸ニ對スル各職工手間比較表



九百〇二五二六噸ニ對スル各職工手間内訳

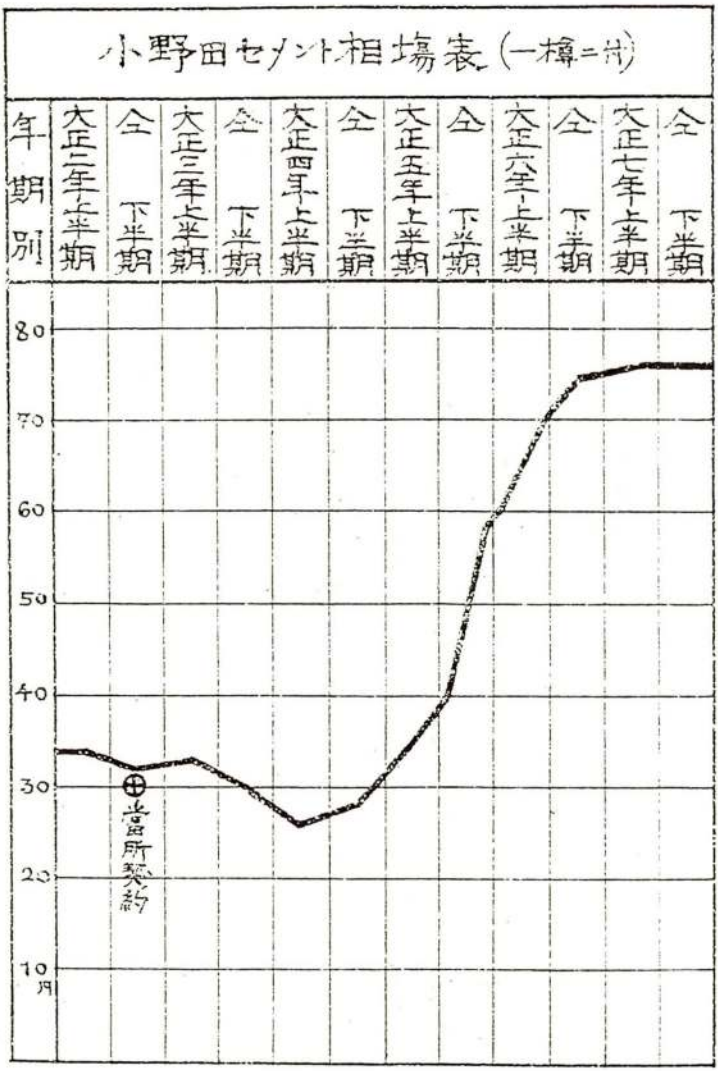
鋼鉄工事壹噸ニ對スル各材料工手間比較表

百分比例

壹噸ニ對スル材料及工手間内訳

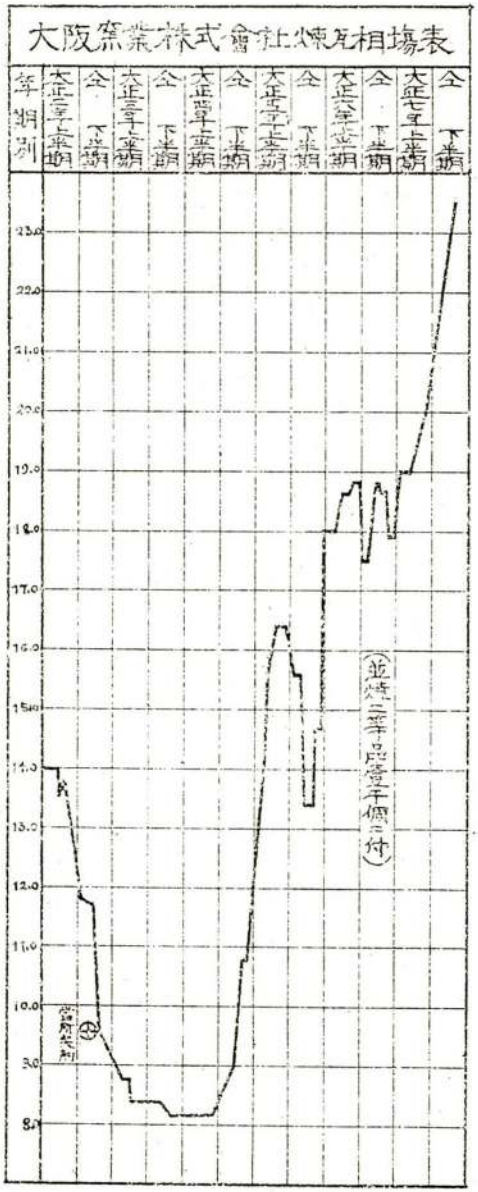
			單價	小計
鋼鉄材軸部		四五〇	噸	八九六九〇	四〇三六〇
鋼鉄材床梁		四四一	〃	九〇六二〇	三九九六三
鋼鉄材小屋組		一〇〇	〃	九三〇二〇	九三〇二
鋼鉄材塔屋		〇一〇	〃	一一五〇〇〇	一一五〇
光明丹塗		四二〇〇	粁	一五〇	六三〇
セメント塗		八〇〇	〃	〇六〇	〇四八
小計	(材料一式)				九一三〇〇
係員	二	七〇〇	人		四六〇〇
職工 手間	一五	四〇〇	人		一四六〇〇
鳶仲仕人夫	九	二〇〇	人	五一〇〇	
塗師工		四〇〇	人	三六〇	
小計 (工手間一式)					二四七〇〇
機械損料					三五九〇
機械其他雜料					二八七〇
下小屋及足場損料					三〇四〇
小計					九五〇〇
假設損料					
無烟炭	六六五〇〇	斤	一〇〇〇〇		
三池粉炭	一九九六〇〇	斤	六〇〇〇		
コークス	〇一〇	噸	一五〇〇〇		
木炭	二〇〇	貫	一二五		
油電力等雜一式					
小計	消耗品				三〇五〇
合計					一三〇五〇〇

小野田セメント相場表（一樽＝付）



第七表

大阪窯業株式會社煉瓦相場表




需用多キ水栽ノ相場表
(東京林野管理局水栽出荷)
年期別
大正二年上期
全 下期
大正三年上期
全 下期
大正四年上期
全 下期
大正五年上期
全 下期
大正六年上期
全 下期
大正七年上期
全 下期
凡例
Ⓐ 檜乱個両枝
Ⓑ 檜乱個両枝
Ⓒ 椴乱個両枝
Ⓓ 椴乱個両枝
Ⓔ 楊乱個両枝
Ⓕ 楊乱個両枝

木曾御料木製材成績表

檜丸太檢寸	丸太尺〆	製材採積尺〆	分止	尺〆一本ニ付手間	尺〆一本ニ付工手元	備考
御料寸檢(A)	一、三一、三	六五、〇	五、〇	八五	八五	枠、額縁、唐戸腰羽目等ノ室内雑作甲材ニ宛ツ
大阪市場寸檢(B)(A)(B)ノ差	一、三八、三 二五七、(一割三分弱)	六五、〇	四七、二	一、二		
檜丸太檢(A)	六七一、〇	三八、〇	四九、〇	一〇、〇	一、五	折上ゲ天井及格縁廻縁地板ノ類ニ宛ツ
(B)	八四八、〇	三八、〇	三九、〇	六、〇	一、〇	
(A)(B)ノ差	一七七、(一割六分弱)				一、二	

以上檜檜ノ兩材共丸太ノ直徑ハ一尺五寸以上二尺三寸以下ノモノトス

木曾檜材尺〆一本ノ價格表（直徑一尺五寸乃至二尺三寸）

製材ハ雜作用ニ供用ス「尺締約一千本ノ平均」

丸太ノ原價 一八、九〇〇

材料代
- 熱田ヨリ大阪中ノ島運賃 七、五六
- 水切及作業場運賃 一、〇四〇
- 購入方旅費 一、一〇
- 計 一九、八四〇

工手間賃
- 木挽賃「十八遍」 三、一一〇
- 器械木取大工「半人」 六、八〇
- 同上手傳人夫「一分四厘」 一、一八〇
- 計 三、九一〇

總計 二三、七五〇

右ハ御料寸檢ノ尺締ヲ標準トシテ五割八分止リ「別表」ナルガ故ニ挽立材尺〆一本ノ單位ハ四十一圓トナル

木曾檜材尺〆價格表

製材ハ折上ゲ天井格縁、廻リ縁、地板用トス「尺〆約六百本ノ平均」

丸太ノ原價 七、八三〇

材料代
- 熱田ヨリ中ノ島運賃 七五六
- 水切 一、〇四〇
- 購入旅費 一一〇
- 計 八、七七〇

木挽賃「二十遍」 三、四三

器械木取大工 六、八〇

同上手傳人夫 一、二八〇

計 三、三一〇

總計 一三、〇八

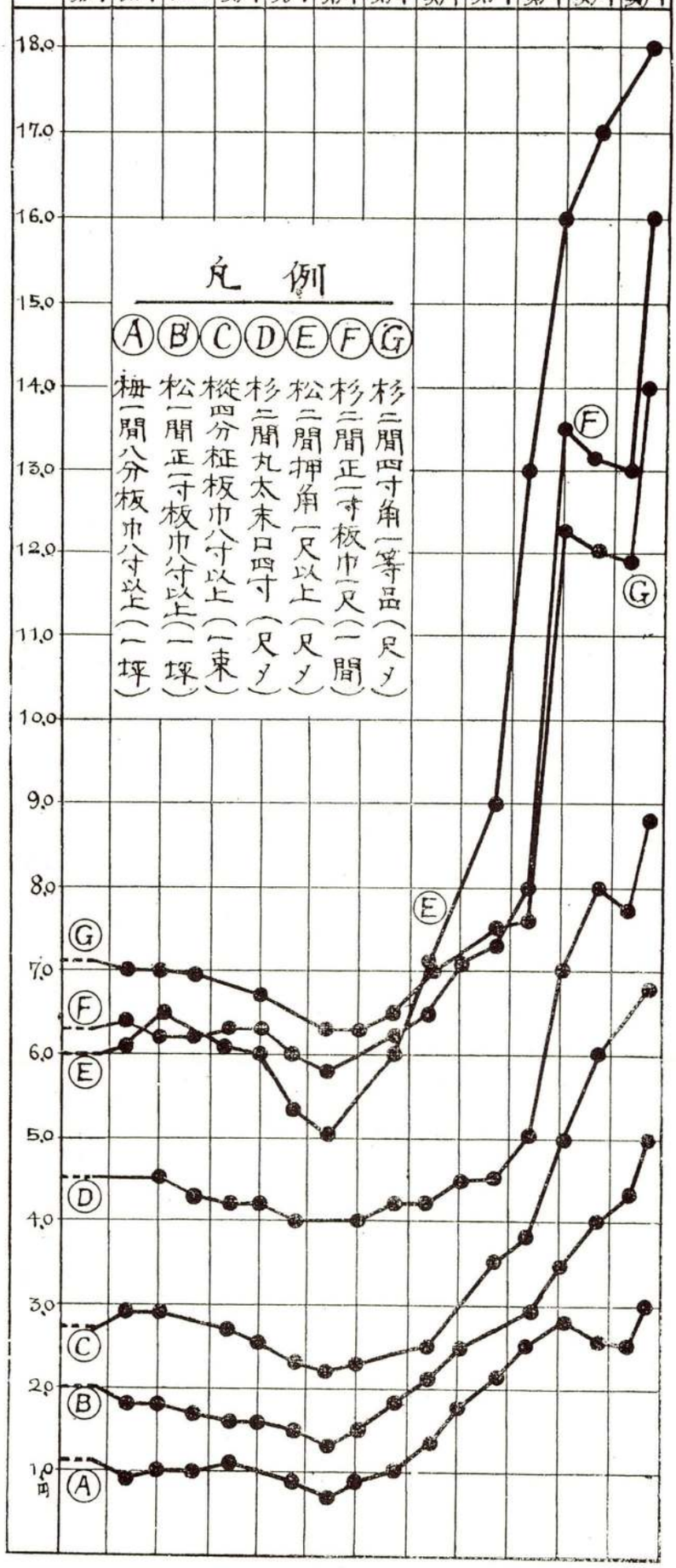
右ハ四割九分止ナルガ故ニ製材尺〆一本ノ單價ハ二十六圓四十錢トナル

如上ノ木材ハ桑名ト熱田白鳥兩貯木場ニ於テ大正五年四月以降大正六年三月迄ニ公賣セラレタルモノナリ

更ニ別表ニ記載セル如ク御料規定ノ寸檢ニ依ル尺〆ハ大阪市場寸檢トノ差ハ二割三分ノ相違アリ故ニ之レヲ換算セバ製材五割八分止リ大阪市場寸檢ニ直セバ四割七分二厘止リ即チ御料製材ノ成績表ノ如シ。

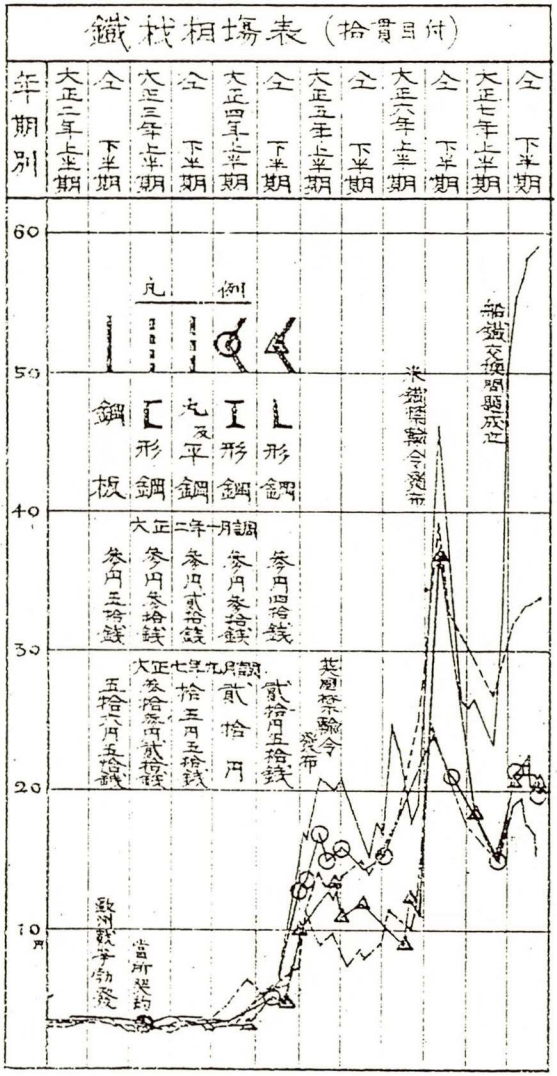
第九表

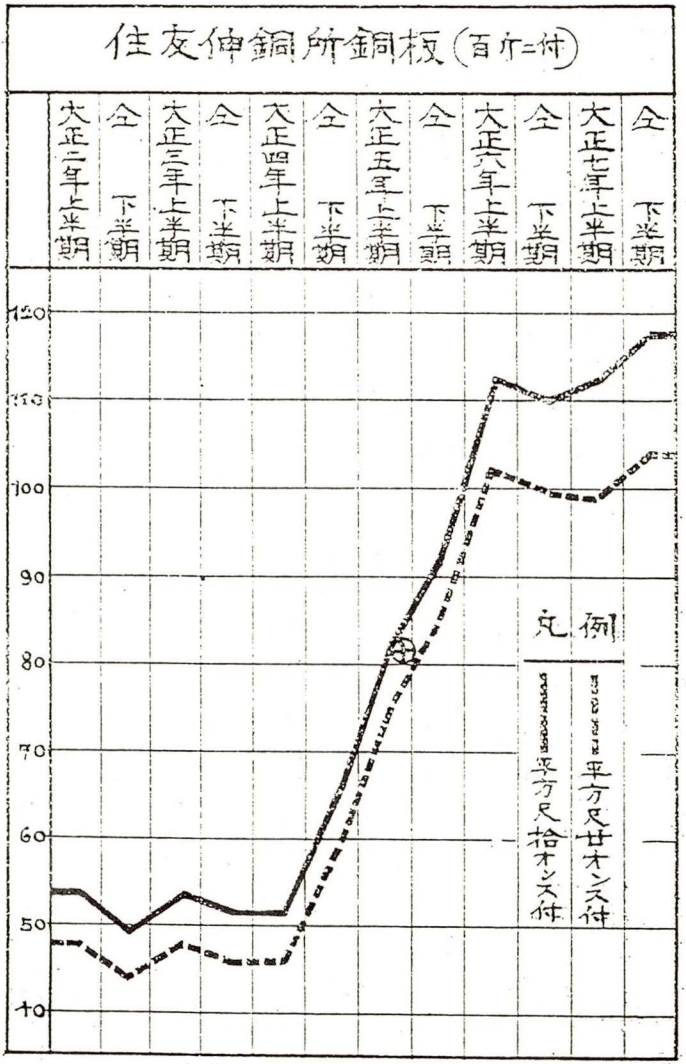
需用多キ木材ノ相場表



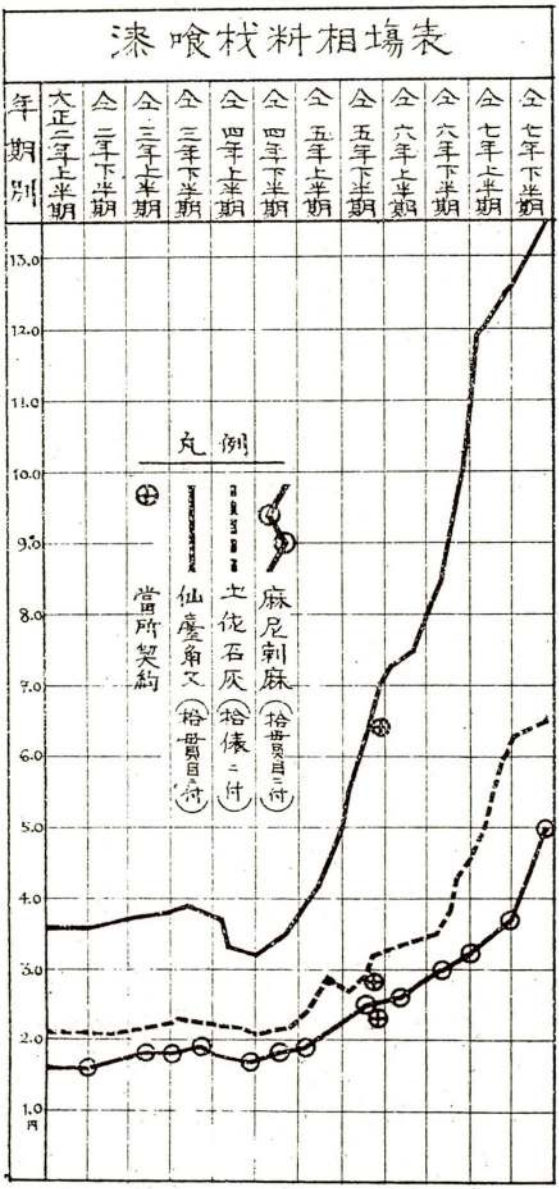
第十表

鐵材相場表（付日貫拾）

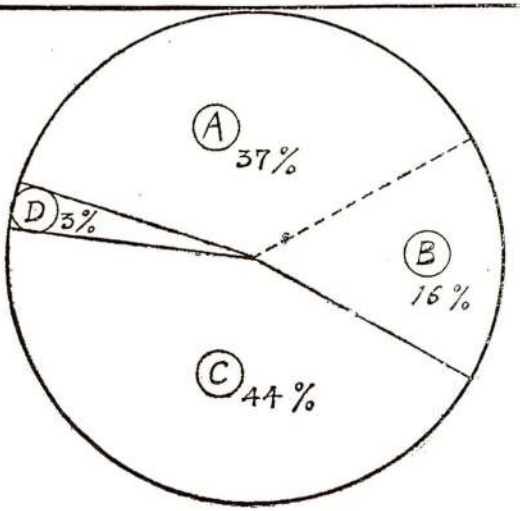



住友伸銅所銅板（百斤＝付）
大正三年上半期
仝 下半期
大正三年上半期
仝 下半期
大正四年上半期
仝 下半期
大正五年上半期
仝 下半期
大正六年上半期
仝 下半期
大正七年上半期
仝 下半期
120
110
100
90
80
70
60
50
40
例
平方尺廿オンス付
平方尺拾オンス付

第十二表


漆喰材料相場表
年期別
大正二年上半期
仝 二年下半期
仝 三年上半期
仝 三年下半期
仝 四年上半期
仝 四年下半期
仝 五年上半期
仝 五年下半期
仝 六年上半期
仝 六年下半期
仝 七年上半期
仝 七年下半期
13.0
12.0
11.0
10.0
9.0
8.0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
円
例丸
麻尼剌麻（拾瓩ニ付）
土佐石灰（拾俵ニ付）
仙臺角又（拾貫目ニ付）
當所契約

電氣各工事經費比較表



電氣工事費調

Ⓐ	電燈布線工事	一一、六四九、二〇〇
Ⓑ	配線工事手間賃	五、〇七五、六〇〇
Ⓒ	電燈器具裝飾工事	一三、八九四、三〇〇
Ⓓ	電球費	一、〇〇〇、〇〇〇

室ノ面積

七六、五八五 平方尺

一平方尺付 〇、六 燭光

燭數

四五、七九六 燭光

一燭光付 〇、七〇〇円

室ノ容積

一四四、一五六〇 立方尺

一立方尺付 〇、〇三三燭光

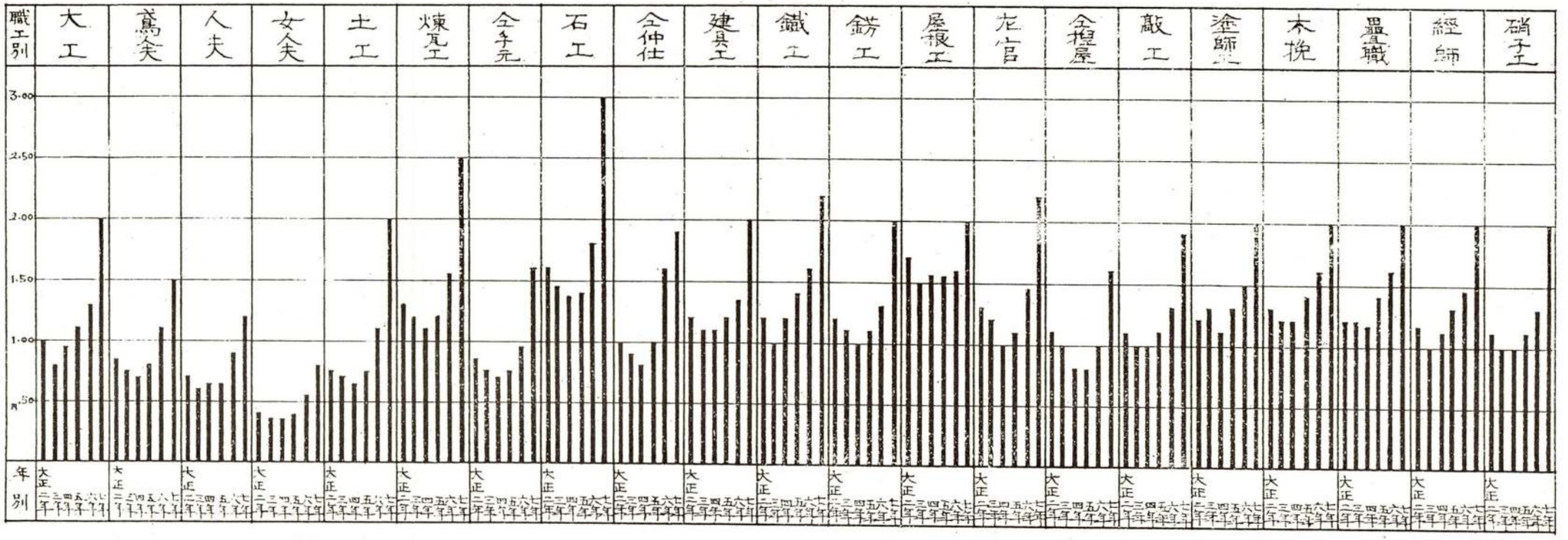
電燈數

一、四七三 燈

一燈一付 二一、四〇〇円

配線一付 一二、一〇〇円

器具 九、三〇〇円

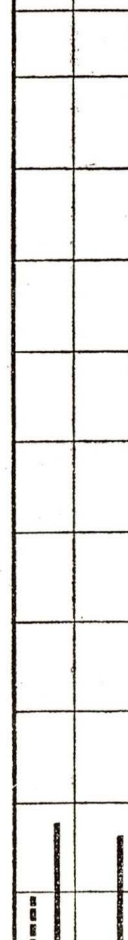

職工別
大工
鳶夫
人夫
女夫
土工
煉瓦工
仝手元
石工
仝仲仕
建具工
鐵工
錺工
屋根工
左官
仝擦屋
敲工
塗師
木挽
畳職
經師
硝子工
3.00
2.50
2.00
1.50
1.00
.50
年別
大正二年
三年
四年
五年
六年
七年

工事費契約ト支拂關係（豐國神社參會堂舊館移轉費其他維持費經常費ヲ除ク）

年度	契約金	支拂金	契約累計	支拂累計
大正二年度	一六一、七三六、一八四	二〇、七三一、五八四		
仝 三年度	一七六、一〇七、二四	九六、〇五三、五六	三三七、八四三、四二四	一一六、七八五、一四四
仝 四年度	七八、七九〇、八〇	九六、六七六、二三	四一六、六三四、二二	二一三、四六一、三六
仝 五年度	一六五、一六一、七九	一三二、四五二、四〇	五八一、七九六、〇一	三四五、九一三、七六
仝 六年度	二八七、五六九、〇三	二九五、六三八、三四	八六九、三六五、〇四	六四一、五五二、一〇
仝 七年度	一一九、二一四、八七	三四七、〇二七、八一	九八八、五七九、九一	九八八、五七九、九一
合計	九八八、五七九、九一	九八八、五七九、九一	九八八、五七九、九一	九八八、五七九、九一

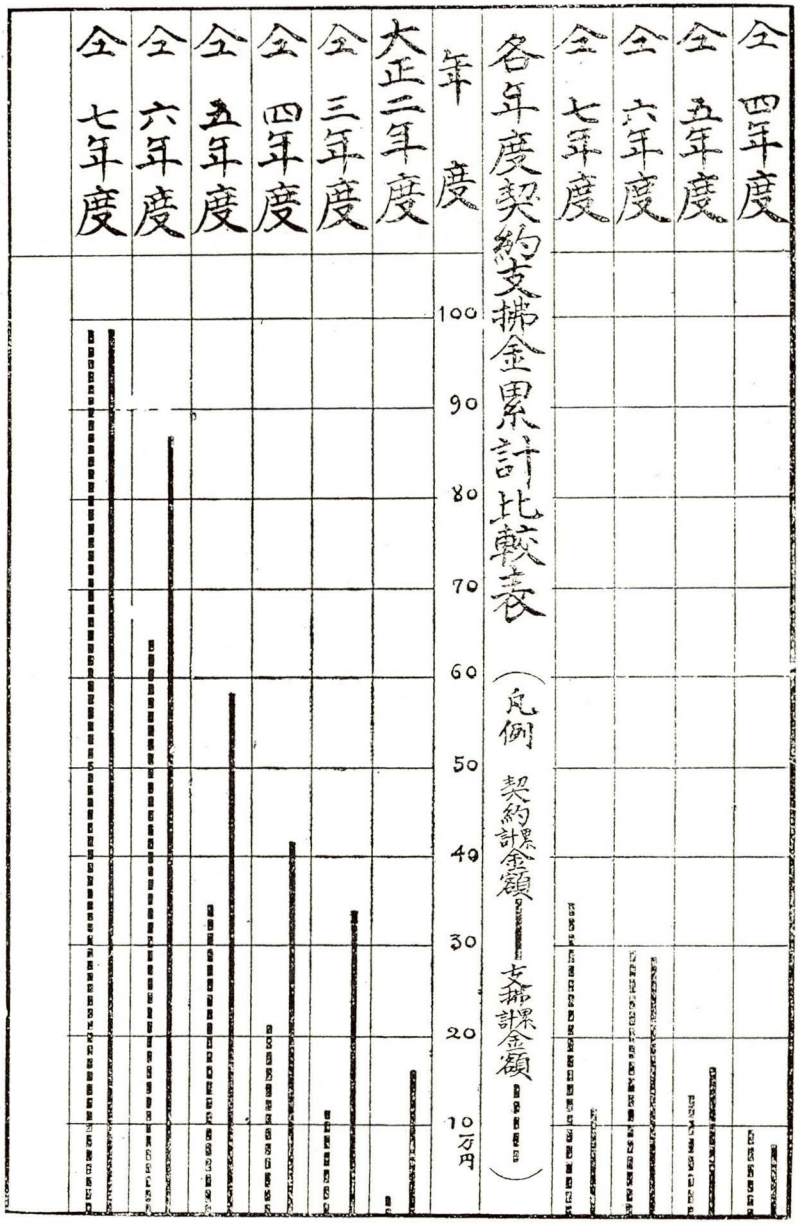
各年度契約支拂金額比較表

（凡例 契約金額 ——— 支拂金額 ———）



各年度契約支拂金累計比較表

（凡例　契約計上金額　支拂計上金額）



建築總工費 350,000.円

工事別	工費	工費内譯 材料及手間ノ關係	百分比例
外廻工事	六、九七〇、五四〇	四、〇三八、二八〇手間	
		二、九三二、二六〇材料	七二〇
雜工事	一九、五七〇、四三〇	六、四七三、八〇〇手間	
		一三、〇九七、六三〇材料	二、〇八九
器具裝飾工事	六、四一四、一五〇	材料	六、九〇
昇降機工事	二四、六二六、〇〇〇	二四、〇一〇、〇〇〇材料	二、五九〇
		五九八、〇〇〇手間	
電氣瓦斯工事	四〇、四〇八、二一〇	三九、二〇一、二一〇材料	四、三五〇
		一、二〇四、〇〇〇手間	
衛生工事	二八、五四九、八三〇	二五、四三五、〇三〇材料	三、〇〇五
		三、一一四、八〇〇手間	
暖房工事	三三、五八七、九一〇	二九、九三〇、二〇〇材料	三、三五〇
		二、六五七、七一〇手間	
塗師工事	一七、三二八、八一〇	一六、〇六四、八〇〇材料	一、八三〇
		一、二六四、〇一〇手間	
硝子工事	二六、五九二、一八〇	二四、四九六、八〇〇材料	一、三三〇
		二、〇九五、三八〇手間	
漆食及敲工事（人造石アスプ アルトカス）	五三、五六八、〇八〇	三二、一二四、三八〇材料	五、六三〇
		九四、五〇〇手間	
石盤工事	八一、七三〇	七三、八一〇材料	〇、八六
		七、九二〇手間	
鍛工事	二八、一五四、一三〇	一、九三四、八一〇材料	三、〇〇三
		二六、二〇〇、六三〇手間	
鐵工事	三三、四八七、三七〇	四四、四九五、七〇〇材料	二四、四七〇
		六七、九九一、六七〇手間	
木材及建具工事	二六、五三二、七〇〇	三九、七五三、三〇〇材料	一三、三三〇
		八六、七七九、四〇〇手間	
石材工事	一二三、六〇二、九一〇	九四、一八六、五〇〇材料	二一、九五〇
		二九、四一六、四一〇手間	
煉瓦工事	四五、八六七、一八〇	三七、一〇一、四〇〇材料	四、八三〇
		八、三〇一、〇〇〇手間	
基礎工事	七三、八八一、九三〇	六三、二九一、〇〇〇材料	七、七〇
		一〇、五九一、〇〇〇手間	
假設工事	二六、〇六一、一三〇	二一、五九四、一〇〇材料	二、七四〇
		四、四六七、〇一〇手間	

材料 比 703.002. 120 (74.)

手間 比 880 99 246· (26.)

建築ト其工費

室内有効容積（壁天井内法）	工事費（圓）	「一立方尺ニ付（圓）
一、四五七、三六二、立方尺	九八九、五七九、九一	〇、六八
建物總容積（壁外面）	「同」	（圓）
二、〇九〇、〇五六、立方尺	九八九、五七九、九一	〇、四七三五
地中階面積（壁外法）		「一平方尺ニ付」（圓）
六九六、二、六尺平方	九八九、五七九、九一	一、四二二、〇〇〇
各階延面積	「同」	（圓）
二、五〇九、四、六尺平方	九八九、五七九、九一	三九四、五〇〇



關西建築協會第一回大會記事

◈本會第一回大會

時惟れ大正七年十二月五日（木曜日 午後一時半より、本會第一回大會は大阪市中の島中央公會堂に於て開催せられぬ。

是より先き本會第六部委員會は宗委員長指揮の下に着々其準備について協議を重ね、理事會亦之れに參加して各般の事項を講究し、特に建築學會に交渉して一名の出演を乞ひ又關、直木兩博士の御快諾を得、招待狀を發送すること四百餘通、一般聽講券を配布すること六千餘枚、市內七ヶ所に通俗講演會の演題及氏名の廣告を掲げ、十二月三日大會に關し準備委員總會を開き各員の協應努力につき詳細なる打合をなしたり當日の天候幸に本會の意に贊し、微風陽雲を呼びて遂に重疊するに至らず、會場正面玄關には國旗を掲揚し關西建築協會第一回大會通俗講演會晩餐會々場と大書せしが零時半頃より參會するもの引きも切らず。來賓諸氏各賛助員會員並びに一般傍聽者の總員開會間際に約二千名に達す。各員の欣喜雀躍、喜悦滿足譬ふるにものなし。

◈通俗講演會

一時半開會　五時閉會

開會の辭　工學士 委員長 宗　兵　藏氏

都市住宅問題　法學博士 大阪市助役 關　一氏

家相論　工學士會員　葛野壯一郎氏

「デモクラシー」と建築　工學博士建築學會副會長　佐野利器氏

大阪市區改正に就いて　工學士會員　片岡安氏

大阪港の將來　工學博士大阪市港灣部長　直木倫太郎氏

閉會の辭　工學士本會理事　野村一郎氏

委員長宗兵藏氏司會席につき、更らに演壇に立ちて開會を宣す。聽衆拍手を以て之を迎ふ、宗氏は徐ろに一場の挨拶をなし本會の主旨を述べ通俗講演會の目的を說く、やがて宗氏の招介によつて法學博士關一君は悠然として演壇に現はれたり拍手暫らく止まず、博士は宴に其該博なる學識を傾けて市長を補翼しせられつゝある現在大阪市高級助役の重職に在るの人也。本會の第一回通俗講演會の擧に多大なる贊助を與へられ、特に馬を陣頭に進められて市民のために熱辯を振はれんとす。殊に當日は頗る御多忙中に係らず、貴重なる時間を割きて出演せらる、本會は感謝措く處を知らざらんとす、想ふに博士が市民のために演壇に立たれたるは今回を以て矯矢なるべし。

◈都市住宅問題

法學博士　關一氏

氏は本會の主旨目的並びに本會が都市問題に熱中しつゝあるの努力を贊し、社會のため此種講演會の屢々行はれんことを希望せられしが英宰相ロイドジョウヂ氏が近く總選擧に際して高唱せる住宅問題は國家的事業なりとの斷案を引用して都市住宅問題の解決は刻下の急務なりと斷じ、近時當大阪市に於ても住宅に關する論議漸く勃興し來りたれども、未だ之を國家的事業なりと觀るの士多からざるを憂へ、住宅問題は決して家主と借家人との關係の解決に過ぎざる如く思惟するの誤れるを指摘し、近世諸都市の勃興及び其急激なる發達の趨勢を說明して、人口の過集、貧民窟の增加、住宅の缺乏が惹いて、都市の重要なる

衛生、風紀、道德に影響する所尠なからざるを述べ、進んで都市住宅の不良なるもの及其使用法の不良なるものは飽くまで改良の實を擧げしめざるべからず、從つて住居法の制定と相待つて積極的施設を斷行し、住宅增加策及土地政策を確立し、更らに進んで歐米諸國の實行しつゝある田園都市の經營、勞働組合の組織の指導を謀るの要ありと希望し、都市住宅問題は結局國家事業として其促進解決を期せざるべからざる所以を結論せられたり。

博士の講演は約五十分に亘り經續せられ、都市住宅問題の大綱につき秩序ある論述はよく聽衆の熱心なる傾聽を促かし、來會者の滿足は滿場拍手の響音に現はれ、さすがの大會堂もゆるがんばかりなりき。

次いで司會者に麾がれて壇上に立てるは工學士葛野壯一郎氏なり。氏は既往數ケ年間大阪府建築課長として手腕を振はれたるの人、近時感ずる處ありて大阪工務所を開設して其所長たり氏が家相學者としての研讃は漸く深く、著書亦尠なからざるは既に世人の識れる處なる也。現に推されて本會第五部委員長の重任を分擔せらる、家相論の題下に其蘊蓄を傾けられんとする宴に其所を得たるものといふべき也。

今や時勢は轉回し來りて新時代の面目は全く一新せられんとするの時、囚はれたる舊家相論の誤れるを指摘し、進んで其弊風を釐正せんとするの誠意はやがて眞面目なる識者の傾聽に徹底すべきや必せり。

◆家相論

工學士　葛野壯一郎氏

氏は開口一番、現在の家相が比較的上流並びに中流の智識階級に多く信ぜられつゝある傾向を認め、しかも此の信仰は決して奥心の欲求に非ずして唯何となく舊風を尚ふに起因せるものなる事を說き、多くの紳士が住宅に關する建築的衛生的經濟的理解のなきを慨し、世の金滿家が其住宅を新築するに當つて何等まとまつた理想なきを指摘し、更らに一方に

於ては現在の技術家が又頗る不徹底なる体度を持するが爲めなりと喝破し、進んで家相の吉凶説く處に一片の眞理なきに非らざるも現代の建築の理想とは甚しき矛盾の存在するがために吾々新時代の建築家の觀る所と根本的に考察の出立點を異にする事を切言すると共に現代建築家は人間生活の幸福安寧を計るために萬般の事項を研究して其業を勵みつゝあるを説けり。

氏は更らに一轉語を下して家相とは建築の種々相にして例へば人相の如しと斷じ、家屋の大少、高低、廣狹、凸凹及外形や其設備裝飾配置の千變萬化なる所以を詳述し、之等の種々相が人間生活に偉大なる支配力ある事を説き此等の觀察並びに吾等建築家の目的は家相家の求むる所と稍一致するを見ると述べたり茲に氏は更らに話頭を一轉して史的觀察に入り現代家相の起原が遠く古代支那思想の産む所なるを言ひ、今日鑑相家の説く處は却つて德川時代の悉縮思想より借り來れるものにして彼等の説く所が多くは淺薄なる俗傳俗説なりと指摘し、現代建築に何等の調和なき時代後れのものなりと喝破し、進んで一例を鬼門にとりて彼等の説く處の頗る滑稽なる所謂を擧げ、今日の建築家は全く異なる見地より出立して科學的衛生的判斷を以て進みつゝあり而も屢々結果に於て同じなるを説き、吾々建築家は決して一概に彼等の説を迷信なりといふものに非ざるも決して彼等の説を悉く是認し得られざるなりとし、最後に氏の家相論の要項五個を擧げ現代の建築は生活上の總ての要求を滿足せざるべからざると共に安寧、幸福、衛生、經濟、便利ならざるべからずと結論せり。

氏の所論は簡單によく現代家相の弊を擧げ、現代建築家の把持する家相觀の頗る適切なる所以を説明するに成功せしを感せずんばあらず、不幸にして時間短少にして尙詳細なる氏の學説を聞くを得ざりしは聽者の等しく遺憾とする所なるべし。

工學博士佐野利器氏は建築界の重鎭たる建築學會の副會長たり、今回本會に於て通俗講演會の擧に際し、多大なる應援を與へられたる建築學會々長會彌達藏氏の依囑を受け特に西下せられたる也、博士は現に東京帝國大學工科大學敎授として重望を負ふの外、我國震災豫防調査會の特別委員として活動せられ、兼ねて內務省の囑托を受け明治神宮造營局の事務を應酬せられつゝあり、今夏亦擧げられて內務省都市計畫調査委員會の有力なる一員たり。短軀重厚の博士が熱辯は聽衆の腹を剖らすんばあらざるべし。

◈デモクラシーと建築

工學博士　佐野利器氏

氏はデモクラシーの思想に基いた建築觀を說くものにしていはゞ、建築家の社會觀なりとされば決して危險なる思想を說くものに非ずと前提し、萬民の意志の平等を得んがために金權兵權に對する人權の主んずべき所謂を說くものにして和衷共同の精神に基かんとするなりと說き、現代の社會組織、經濟組織が產業革命の結果大資本家と勞働者とに二分せられんとするの傾向より中產階級の衰退しつゝあるを指摘し、進んで例を歐米各國の財產調べに執り富の不平均分配が自由なる產業及經濟組織に基因するなりと喝破し、世界の最大富國と稱せらるゝ英國の如きは却つて最大貧乏國なりと耶揄し、金權政治の弊は萬民の世活難を惹起せりと斷じ、多くの勞働者の勞力は無益にも浪費されつゝある現狀は遂にデモクラシーの叫聲を擧げたりと說き、意志の平等を得んが爲めには公權の擴張を必要とする所以に言及し、社會政策を實行するに必要なる公權の確立を要望し、是れあるがためにデモクラシーの思想は金權社會に最も必要なりと述べ、都市生活の向上に就き論ぜんとするの前提とし、現在吾國に行はれつゝある市制の缺点を擧げ、英宰相の最近に於ける論斷を批評し、米國に於ける傾向をも觀察し、都市住宅問題の眞諦に觸れ、進んで都市生活に重

要なる建築觀を說かんとせられしが時間の餘
悠なく直ちに結論に入り、都市計畫事業の目
的を成就する爲めに金權社會の覺醒を要望し
萬民の幸福を增進するためにデモクラシーの
思想を了解せんことを希望して已まざるもの
なりと
氏が講演は簡潔なる熱辯によつて說き去り說
き來りて約四十分聽衆の耳朶を動かし其肺腑を
衝き深刻なる印象を來賓者諸君の賢腦に銘した
るや必せり。
司會者宗君は茲に十分の休憩を宣し暫らく聽
衆の勞を休ましむ時に午後三時を過ぐる四十分
也今や聽集は堂に滿ちたりと雖、頗る靜肅些の
喧騷なくして謹聽す、さすがに特色ある講演會
といふべし、玄關大廣間に在りては係員稍閑散
の色ありしも來會者尙止まず、殊に本日は木曜
日なりしを以て其日の業務を終へて後に馳せ付
くる聽講者三々五々踵を接す。されば一般公衆
出入口の係員の如きは終日其場を去る能はず氣
の毒なりし事共なり。

三時五十分片岡安氏は司會の招介を待ちて壇
上の人となれり、拍手堂に滿つ。氏は本會理事
長として本會の先達なり。現に辰野片岡建築事
務所を經營して關西建築界のために貢獻する處
尠なからず曩に「近代都市の研究」を發表して
識者の注意を換起し次いで大阪市區改正委員會
の設置せらるゝや之れに參加し又政府當局者に
建案して建築法規の實施を促進せしむべき本會
の運動を指導し、遂に內務當局者を動かして都
市計畫調查委員會を設置せしむるに到る、現に
擧げられて其調查委員會の一員たり、其眞摯な
る意見は市民の夙に識る處なるべし。

◈大阪市區改正に就て

工學士　片岡　安氏

氏は大阪市區改正問題について熱心なる所感
を發表せり。蓋し過去に於ける市區改正事業
が今日遂に何等の功果なかるべきの感あるが
爲めに、更らに大阪市に於ける市區改正問題
は最大なる問題として都市行政並びに都市政

策の眞諦に觸れ且つ各般の事項を調査し、社會各方面の智嚢をしぼつて研究するの必要ある所以を述べ、大阪市の現狀は益々膨脹發展を遂くべき趨勢を示しつゝありと詳細なる說明に入り、三十年後の大阪が悠に三百萬の大都市を現出すべき運命に在りと斷じ、進んで交通機關の現狀の亂雜にして行詰りつゝあるを指摘し之れが整理は決して一時的の應急案に待つ能はず都市政策の根本問題より出立して都市の發展に伴ふ交通政策を講せざるべからざる所以を論じ、街路系統の整理改善を講ずるの急要を說き、轉じて都市衛生の關係に言及して今日の歐米諸都市の施設は夫々確的なる效果を擧げつゝある趨勢を擧げ、眞の文明都市の面目を具備せしむる爲めには、工場地區、商業地區、住宅地區等の地區制度を設け、以て現狀の混亂を整理して市區改正事業の完成に努力するの時機なりと

氏の講演は既に本會雜誌に屢々公にせられたる所を更らに簡單に綜合せられたるやの觀あれども、聽衆にとりては論旨該切にしてよく徹底し、大阪市の現狀の亂雜なる事例を適切に擧へらるゝ所多かりき。

最後に司會者野村一郎氏に依りて招介せられたるは工學博士直木倫太郎氏なり。博士は現に大阪市港灣部長として大阪築港の經營に劃策に薀蓄を傾注せられつゝあり。大阪港の諸事業が世運の不景氣に累せられて一度は全く頓座せる如き狀態に陷りしも、近時大いに革新の實を擧げ來りしは主として時運の然らしむる處なりと雖、亦主腦經營者の手腕に依る處多きは言を俟たず、博士が大阪港の將來を論ずるに先ちて必ずや現狀の大勢につき說き起さるゝこと想像に難からず。

◈大阪港の將來

工學博士　直木倫太郎氏

博士は二葉の大阪港圖を用意せられ、所論の進行に從つて一々熱心なる說明を致されしが大阪港の現狀がやがて將來の發展に連關する

所以を力說し、遠く過去に溯りて二十年間の施設を略述し、前半十年の施設時代として大なる努力を決行せるに現在迄の十年は大いに豫想に反して頓座の感ありしが昨秋以來時勢の轉換に伴ひ俄然急激なる發展期に入り、神戸港に於ける貨物輻送の影響が却つて大阪港に及ぼし、次いで築港附近土地利用者の續出と、造船業者の發展と相待つて頗る活氣を呈し來りしは幸といはざるべからず、從つてやがて挾隘を認むるに到るやも知らざるべからず、而して此の大發展に伴ふて築港の完備に向つて努力すべきことを忘るべからず、而して茲に水面積を擴張するの施設は北に正蓮寺川方面の開托と共に尼ヶ崎市と相應じ、之等に工業地帶を建設すべき事目然の趨勢となれる如しと說き、約三百五十萬坪の總水面積と繫船岸の延長を完備せしめて初めて歐米の夫と對比し得べき也と論じ、此の事業を成就するが爲めには市當局者と市の事業家と相俟つて完成の域に進まざるべからずと結論せられたり。

博士の講演時間は約三十分の短少なりしを以て今後の施設並びに將來の經營につき充分なる講演の餘慾なかりしは、聽衆と共に本會の等しく遺憾とする處なり、今後博士の意見が本會雜誌上に發展せらるゝこと期して埃つべきなりと信ず。

かくて盛大なる講演會は理事野村一郎氏の閉會の辭を以て目出度終結し聽衆は拍手を以て本會の成功を祝し一般聽講者の無事散會したるは午後正五時なりき。

◆晩餐會

夕陽西に傾き大阪市の夜景はキヲオラマの如く現出し來るとき、三階正面に設けられたる貴賓室を待合室としたれば、茲に參集せられたる來賓諸氏は白章を胸間に挿しつゝ大なる滿足を以つて今日の盛會を談論せられつゝあり、各賛助員諸氏及會員は亦赤章を附して亦之に加入せしかば待合室に溢れ大食堂の一部をも占領するに至れり。

三階大食堂は新裝の氣色清らかに、正面中央に壇を設け左右に鉢植を飾り大屏風を以て圍ひ大阪ホテルの料理部が心を盡したる卓上の裝飾も賤しからず、五組の大食卓は整然として來客を待つものゝ如し。

當夜出席せられたる來賛氏名左の如し。

板井　徹　今井貫一　石川武之
井上嘉兵衛　岩田成實　波多市松
萩野源之助　羽間市藏　蓮沼伊三郎
畠田繁太郎　濱口庄吉　西庄久和
本多友衛　保田佐久三　鳥居規和
德光畔作　千葉倫之助　大野關藏
大村忠二郎　岡嵐信　大住種五郎
小倉敬二　押本重平　和田榮太郎
渡邊碩造　脇本米司　脇田愛之助
金澤仁作　金光萬錄　笠井英一
河野天瑞　片桐元　柿崎欽吾
梶山延太郎　加納盛吉　河合好吉
吉野至　横河兵輔　吉川吉郎兵衛
吉澤幸次　吉村安兵衛　吉本重光
田中吉二　田邊貞吉　田邊淳吉
種谷喜兵衛　高久耍　瀧谷善一
外池恭助　祖父江捨造　中川十全
中井隼太　中村卯太郎　村井基一
村上庸吉　漆島佐吉　內村兵藏
野崎織之助　楠本長三郎　百濟文輔
庫內寬之亟　山本勝二　毛戸勝元
福原金吾　藤崎寅藏　松本脩
增田鐵藏　安井武雄　前野芳造
松本甚之助　後藤正治　後藤慶二
遠藤三吉　青木元五郎　有馬賴吉
有田邦敬　齋藤大吉　齋藤研一
佐藤秀也　佐々木辰之進　坂本助太郎
佐野利器　木下治一　木村音右衛門
岸田勉　水野與兵衛　宮里熊五郎

宮崎彌三郎　宮本茂尾　三澤糾
芝田善三郎　清水熙　廣瀬德藏
本山彦一　森脇茂　關菊治
關一　杉野民之助　鈴木茂雄
杉田稔　鶴見正四郎　時事新報社員
横山清一　毎日新聞社員　日々新聞社員
中島直光　新日報社員　大阪新報社員
山口房五郎　大槻龍治　大大阪新聞社員
伊藤卯之助　井上國助　橋本料左衛門
原田金次郎　濱恒次郎　德政金吾
東松孝時　竹中藤右衛門　瀧山源三郎
辰巳吉之助　中川辰藏　熊取谷熊次郎
野澤幸三郎　松尾和助　白杉龜藏
錢高善藏　須賀藤五郎　須賀豐次郎
大高庄左衛門　川島甚兵衛　山本辰五郎
多田學　小西策吉　池田勘藏
藤村朗　大林義雄　小倉保治
山脇友三郎　入山吉三郎　仁科員一
脇本米司　保科圭三郎　田中讓
辛島藤尙　齋藤又吉　野口健一
工藤延吉　木村篤三　池田勘次郎
長瀨兵馬　宮本金太郎　高石覺本
伊川久吉

かくて六時を過くる十分接待員の先導にて、各任意の席に着くや、晩餐會は開始せられぬ、談笑盡きず歡聲湧く、三越音樂部の一團は盛んに奏樂し給仕の男女燕の如く交互し盃盤幾度か往來して、デーザートコースに入るや、拍手に送られて理事長片岡安氏壇上に立てり。一場の挨拶を述べ來賓諸氏の多數御幸臨を辱ふしたるは本會員一同の厚く謝する處にして茲に將來永遠に亘りて尙一層の御後援あらんことを熱望して壇を下る拍手湧くが如し。

次いで主記波江悌夫氏は建築學會よりの祝電を讀む。

「キカイノゴハッテンヲシユクシ、ダイ一カイタイカイノセイコウヲイノル」

拍手大に起る。波江氏は更らに本會の經過を述ぶと稱し、創立以來の事情を簡單に說明し、本年茲に一年有半の赤ん坊は一に諸氏の御後援によらずんば其發育を遂げ得られざる旨を陳述して壇を下る。

大阪毎日新聞社長本山彦一氏は拍手に迎へら

れて立ち本會の成功を祝し、本會の過去の努力につき賛詞を述べられ更らに今後の發展經營につき會員の努力一般社會の協力後援に俟つべきなりとせられ又通俗講演會の如き市民のために屢々擧行すべきを希望せらる。理事長の懇願に依つて茲に卓上演説者の指名を初められたり。

第四師團軍醫部長中川十全閣下は本山氏の指名により起立せられ拍手堂に鳴る、閣下は特に本會の招待を得たるを感謝せられ、本會の事業が都市に連關する頗多きと、大阪市民の壯丁が漸次体格不良に傾きつゝあるを説かれ都市衛生の見地よりして益々社會に貢献すべきを希望せらる。

次いで辯護士會長柿崎欽吾氏指名せられ、本會の成功を賀し懇篤なる謝意を述べられ、本會の事業は進歩的にして將來に在り今後益積極的努力を敢行すべき由を希望せらる。

大阪市會議長山口房五郎氏（本會名譽賛成員）は都市改良計畫其他事業が歐洲諸都市の大勢に應じて昨今我國に於て調査の歩を進め來れるは主として本會の如き有力なる團体の努力に待たざるべからざるものとせられ、大阪市公會堂の如きが建築家の手腕に待つもの多きを擧げて益々本會の隆盛ならんことを希望せられたり、滿堂拍手止まず。

最後に起立せるは本會理事池田實氏なり。本會會員を代表して熱烈なる感謝の辭を述べらる閣下諸君の多數なる御幸臨を辱ふするのみならず只今は有益なる又趣味津々たる御高説を拜聽するは錦上更らに花を添ゆるものなるの意を述ぶるや拍手急霰の如し。

第四師團經理部長宮里熊五郎閣下は茲に本會の爲めに萬歳を三稱せんことを希望せられ滿堂起て祝盃を擧げ閣下の發聲三呼の下に歡聲堂を動かんとす。本會の面目極まれりと云ふべし。

かくて晩餐會は宴に目出度成功を告げ、一同席を立ち貴賓室に於て快談歡語絶えず九時を過くるとき三々五々靜肅に散會せられたり。



時報

臨時議院建築局

□議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答

問　馬車置場及供待場モ議院本館ト同ジク平面正面側面脊面斷面等ヲ畫クモノニ候ヤ否ヤ

答　規程第八條第四項ニ依リ配置圖ニ平面ノ輪郭ト位置トヲ示スノ外必要ナシ

問　豫想スベキ將來ノ多少ノ增築トハ概略幾坪程迄ノモノニシテ何階位迄ノモノナルベキカ又ソノ用途ハ如何ナル種類ノモノナルベキカ「所要室數及坪數表」中ニ示シアル書庫及圖書閱覽室ニ對スル增築ト見テ可ナルカ

答　坪數及階數ニ制限ナク事務室議院控室及委員室等ニ充ツルモノニシテ書庫及圖書閱覽室ニ對スルモノニアラス

問　立面圖及詳細圖ニ於テ材料ノ色ニ差異アルヲ明示スル爲ニ淡墨ヲ以テ濃淡ニ塗リ分クルモ差支ナキカ例ヘバ煉瓦ニ赤白兩色ノモノヲ混用スル場合ノ如シ

答　墨ノ濃淡ヲ用ウルハ差支ナシ

問　貴族院一階ニ於ケル下足及携帶品置場ト衆議院一階ニ於ケル傍聽人控室トハ同一用途ノモノナルカ

答　室名ノ示ス通リトス

問　車馬置場、供待所、及、便所、門、塀等ノ立面圖ハ必要ナルカ略シテ差支ナキカ又ハ本館立面圖中ニ入ルベキモノカ別圖トシテ可ナ

ルカ或ハ任意ナルカ

答　規程第八條第四項ニ依リ配置圖ニ平面ノ輪郭ト位置トヲ示スノ外立面圖ヲ要セズ隨テ別圖トスルノ必要ナシ但シ建物立面ノ明瞭ヲ害セザル程度ニ於テ其立面ヲ附加スルハ差支ナシ

問　帝室ヲ關馬車寄ハ屋蓋ヲ必ズ要スルモノナリヤ若シ之ヲ欠ク事ヲ得ルモノトスレバ唯單ニ同所ヲブラツトホウム形ニシテ本館前ニテ馬車ヲ止メ十數段ノ階段ヲ昇リ同ヲ關ニ達スルノ設計ニシテモ差支ナキヤ

答　帝室ヲ關車寄ニハ被覆ヲ必要トスヘシ

問　將來增築ノ豫定ケ所ヲ平面若クハ配置圖中ニ明記スルノ要アリヤ

答　必要ナキモ明記スルハ隨意トス

問　第一次應募圖面二百分ノ一立圖切斷面ニモ影ヲ四十五度ニ施スヘキヤ

答　二百分ノ一立圖切斷面ニハ必要ナシ

問　各窓ヲ墨ニテ染メテ差支無之候哉

答　差支ナシ

問　車馬置場供待所等附屬建物ハ平面正側背面及斷面等皆之レヲ要スヘキヤ若シ然ラバ縮尺等ハ本館ニ準シテ可ナリヤ

答　規程第八條第四項ニ依リ配置圖ニ平面ノ輪郭ト位置トヲ示スノ外必要ナシ

問　帝室用車馬置場及之レニ附隨スル供待所等別ニ之レヲ設クヘキヤ若シ要スルナレバ坪數等如何

答　必要ナシ

問　帝室用正門及兩院正門以外ノ門ニモ歩哨或ハ門衛ノ如キモノヲ置クモノナリヤ

答　各種門ニハ門衛ヲ配置ス

問　建築要敷地(第八條第一項)ニ於ケル附屬第一號圖面朱線區域內正確ナル總坪數ヲ問フ、但シ中央北部ノ三角洲ハ何レニ屬スヤ

答　朱線區域內坪數ハ壹萬八千七拾五坪七合トス三角地ハ建築敷地以外ニシテ將來小公園トスヘキ見込ナリ

問　附屬第二號圖面ニ於ケル最西北部ノ橋アル部分ヲ水源地トナシ得ルヤ其他適當ナル水道

ニ供給貯水ノ水源ヲ問フ（但シ常用流水トス）

答　議院建築敷地ハ附屬第二號圖面ニ示セル地域中ノ最高地ニ屬シ附近ニ嫌疑者ノ所謂常用流水ノ水源トナルベキモノナシ

問　規定間取ノ外部中車馬置場供待所及便所ノ配置ヲ汽罐室並ニ貯炭所ト共ニ地下室トナシ得ルヤ本館外ニ設クベキヤ

答　應募者ノ隨意トス

問　本規定外ニ憲法發布紀念碑並ニ勅下ヲ得テ先帝ノ御聖馬上銅像ヲ建設シ上リ内部ヲ書庫及圖書閲覽室ニ各附設ノ計畫致セルガ差支ナキヤ。

答　書庫及圖書閲覽室ハ規程中ノ所要室數及坪數表ニ依リ本館内ニ配置スルヲ要ス其他ハ應募者ノ隨意トス。

問　本館ノ周圍ニ餘地ヲ存スヘキヤ又正面ノ車馬道路並ニ階段ハ土臺ニテ築クヘキヤ鐵橋ニテ外觀ヲ障害セザル樣スベキヤ

答　本館ノ周圍ニハ相當ノ餘地ヲ存セシムルコトヲ要ス其他ハ應募者ノ隨意トス

問　建物ノ正面ハ東眞正面ナリヤ隨意ナリヤ

答　規程第六條第參項ニ依リ建物ハ東方ヲ正面トスルモ必シモ眞東面ノ謂ニアラズ

◆編輯だより◆

■年末匆々之際、一言申述候。本誌も愈々本號を以て第一輯を完成仕候。顧みて一年有半、流行性寒冒にもかゝらず、脚氣衝心の慘もなく無事成長仕候は、偏に諸賢の御後援に據る處と深く奉感謝候。

■來春は舊倍の御愛顧を賜りたく奉祈候。本誌が前途は益光明に一歩を進むることに有之べく、斯界のため更に努力を致行仕るべく飽くまで御期待に背くまじく候

■本號には第一回大會通俗講演會の講演全部を紹介仕る豫定に有之候處、編輯の都合上關博士の『都市住宅問題』及葛野氏の『家相論』だけ掲載致候段、遺憾此事に御座候。

■本誌へ御投稿御希望の諸賢へは御申越次第、本誌原稿用紙發送仕るべく候、又本誌購讀御希望の諸賢は、本會事務所宛御申越相成度候、尚購讀料金御發送の節は、振替口座大阪三九九五番宛御拂込相成度此段申添候

□勞銀及主要建築材料價格幷指數表

（自大正三年九月至大正七年九月）

建築業協會調査

物價表（大正三年一月ノ平均物價ヲ一〇〇トス）

種目＼年月	六年六月	同 八月	同 十月	同十二月	七年二月	同 四月	同 六月	同 八月
割栗、砂利、砂	一三〇	一三六	一五八	一五八	一六四	一七三	一七九	一九九
セメント瓦	一三六	一四八	一五五	一五五	一五五	一五七	一六四	一六四
煉瓦	一四〇	一四〇	一五五	一五八	一六四二	一六四八	一六四三	一六四八
石材	一三五	一三六	一三八	一三八	一三八	一四五	一五九	一七〇
鐵物	三六三	七三〇	五九三	四九七	五〇三	四九三	五三〇	五九四
銅板	二三〇	二三八	二五二	二三三	二三三	二三三	二三三	二四三
コーベル家根（瓦スレート石綿盤）	一四五	一七三	二六七	二〇三	二〇三	一九三	一八八	一八八
硝子	二三五	二三七	三〇三	二四四	二八四	二九一	二九一	三三八
押角、山挽角（杉及檜槻及栂）	一四七	一五〇	一九五	一九二	二〇八	二一〇	二三六	二四五
板類（杉松エゾ松）	一三八	一五五	一七九	一七〇	一八九	二〇三	二一一	二三三
松挽立小屋材	二〇六	二〇八	二五五	二五五	二六一	二七六	三〇〇	三〇〇
平均	一九〇	二三八	二五四	二三四	二四三	二四五	二六一	二七五

勞銀及主要建築材料價格幷指數表

大正七年九月

名稱	單位	自三年十二月至四年十一月				自四年十二月至五年十一月				自五年十二月至六年十一月				自六年十二月至現在			
		最低		最高		最低		最高		最低		最高		最低		最高	
		價格	指數	價格	指數	價格	指數	價格	指數	價格	指數	價格	指數	價格	指數	價格	指數
大工人	人	円 0.900	100	円 0.900	100	円 1.000	111	円 1.200	133	円 1.000	111	円 1.200	133	円 1.300	144		
左官	同	1.000	100	1.000	100	1.000	100	1.300	130	1.000	100	1.300	130	1.300	130		
石工	同	1.000	100	1.000	100	1.200	120	1.600	160	1.200	120	1.600	160	1.800	180		
煉瓦工	同	1.000	100	1.000	100	1.300	130	1.500	150	1.300	130	1.500	150	1.500	150		
瓦職	同	1.200	100	1.200	100	1.300	108	1.500	125	1.400	117	1.500	125	1.700	142		
鍛冶工	同	1.300	100	1.300	100	1.300	100	1.600	123	1.400	108	1.600	123	2.000	154		
鑄工	同	1.100	100	1.100	100	1.300	118	1.500	136	1.100	100	1.500	136	1.500	136		
塗工	同	1.100	100	1.100	100	1.200	109	1.300	118	1.100	100	1.300	118	1.500	136		
手傳	回	0.700	100	0.700	100	0.750	107	0.900	129	0.750	107	0.900	129	1.000	143		
人夫（男）	同	0.500	100	0.500	110	0.500	110	0.800	160	0.500	110	0.800	160	0.900	180		
人夫（女）	同	0.350	100	0.350	117	0.350	117	0.450	150	0.350	117	0.450	150	0.600	200		
鐵材（丸）	十貫	11.500	100	11.000	400	11.000	400	11.500	500	11.000	400	11.500	500	11.500	500		
同（角）	同	11.500	100	11.000	400	11.000	400	11.500	500	11.000	400	11.500	500	11.500	500		
同（板）	同	11.000	100	9.500	400	11.000	400	11.500	500	11.000	400	11.500	500	11.500	500		
同（丁）	同	11.000	100	13.000	400	11.000	400	11.500	500	11.000	400	11.500	500	11.500	500		

| | | |

勞銀及主要建築材料價格幷指數表

（右側ノ數字ハ價格
左側ノ數字ハ指數）

名稱	單位	大正三年 九月	大正三年 十二月	大正四年 三月	大正四年 六月	大正四年 九月	大正四年 十二月	大正五年 三月	大正五年 六月	大正五年 九月	大正五年 十二月	大正六年 三月	大正六年 六月	大正六年 九月	大正六年 十二月	大正七年 三月	大正七年 六月	大正七年 九月
大工	人	0.70 100	0.70 100	0.88 101	0.90 103	0.94 108	1.07 123	1.04 119	1.06 122	1.14 131	1.26 145	1.25 144	1.25 144	1.25 144	1.25 144	1.25 144	1.25 144	1.80 207
左官	同	1.00 100	1.00 100	1.03 103	1.05 105	1.05 105	1.17 117	1.14 114	1.16 116	1.19 119	1.26 126	1.25 125	1.25 125	1.25 125	1.25 125	1.25 125	1.25 125	1.80 180
石工	同	1.11 100	1.11 100	1.16 104	1.10 99	1.13 102	1.30 117	1.26 113	1.19 107	1.26 113	1.26 113	1.26 113	1.26 113	1.26 113	1.26 113	1.26 113	1.26 113	1.80 162
煉瓦工	同	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.01 101	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.11 111	1.80 162
瓦職	同	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.01 101	1.80 178
鍛冶工	同	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.80 180
錺工	同	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.80 180
塗工	同	1.00 100	1.00 100	1.01 101	1.03 103	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.04 104	1.80 180
建具工	同	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.00 100	1.80 180
木挽	同	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.01 100	1.80 178

| | | |

杉板割二間六寸	一坪	一、四〇〇	一〇〇
四一掼(並)	二丁	〇、一五	一〇〇
木摺小舞	一坪	〇、六五	一〇〇
杉押二間五寸押	一寸	〇〇五	一〇〇
丸鐵	十貫	四、〇〇〇	一〇〇
角鐵	同	三、九〇〇	一〇〇
平鐵	同	五、一〇〇	一〇〇
Lアングル	同	一四、一〇〇	一〇〇
Iジョイスト	同	四、八〇〇	一〇〇
Eチャンネル	同	四、三〇〇	一〇〇
プレート	同	五、一〇〇	一〇〇
亞鉛引平板 三十番	枚	一、一〇〇	一〇〇
亞鉛引浪板 三十番六尺	同	一、八三〇	一〇〇
	一坪	一、五〇	一〇七
	二丁	〇、一五	一〇七
	一坪	〇、六五	一〇七
	一寸	〇〇五	一〇七
	十貫	三、六〇〇	九九
	同	三、五〇〇	九九
	同	四、九〇〇	九九
	同	五、〇六〇	九九
	同	四、八〇〇	九九
	同	五、一〇〇	九九
	枚	一、〇〇〇	九九
	同	一、八〇〇	九九
	一坪	一、五〇	一〇一
	二丁	〇、一五	一〇一
	一坪	〇、六五	一〇一
	一寸	〇〇五	一〇一
	十貫	三、四〇〇	九九
	同	三、三〇〇	九九
	同	四、八〇〇	九九
	同	五、〇〇〇	九九
	同	四、八〇〇	九九
	同	五、〇〇〇	九九
	枚	一、〇〇〇	九九
	同	一、八〇〇	九九
	一坪	一、五〇	一〇三
	二丁	〇、一五	一〇三
	一坪	〇、六五	一〇三
	一寸	〇〇五	一〇三
	十貫	三、二〇〇	九四
	同	三、一〇〇	九四
	同	四、七〇〇	九四
	同	四、九〇〇	九四
	同	四、七〇〇	九四
	同	四、九〇〇	九四
	枚	九五〇	九四
	同	一、七〇〇	九四
	一坪	一、五〇	一〇五
	二丁	〇、一五	一〇五
	一坪	〇、六五	一〇五
	一寸	〇〇五	一〇五
	十貫	三、〇〇〇	九三
	同	二、九〇〇	九三
	同	四、六〇〇	九三
	同	四、八〇〇	九三
	同	四、六〇〇	九三
	同	四、八〇〇	九三
	枚	九〇〇	九三
	同	一、六〇〇	九三
	一坪	一、五〇	一〇七
	二丁	〇、一五	一〇七
	一坪	〇、六五	一〇七
	一寸	〇〇五	一〇七
	十貫	二、八〇〇	九二
	同	二、七〇〇	九二
	同	四、五〇〇	九二
	同	四、七〇〇	九二
	同	四、五〇〇	九二
	同	四、七〇〇	九二
	枚	八五〇	九二
	同	一、五〇〇	九二
	一坪	一、五〇	一〇九
	二丁	〇、一五	一〇九
	一坪	〇、六五	一〇九
	一寸	〇〇五	一〇九
	十貫	二、七〇〇	九一
	同	二、六〇〇	九一
	同	四、四〇〇	九一
	同	四、六〇〇	九一
	同	四、四〇〇	九一
	同	四、六〇〇	九一
	枚	八〇〇	九一
	同	一、四〇〇	九一
	一坪	一、五〇	一一一
	二丁	〇、一五	一一一
	一坪	〇、六五	一一一
	一寸	〇〇五	一一一
	十貫	二、六〇〇	八九
	同	二、五〇〇	八九
	同	四、二〇〇	八九
	同	四、四〇〇	八九
	同	四、二〇〇	八九
	同	四、四〇〇	八九
	枚	七五〇	八九
	同	一、三〇〇	八九
	一坪	一、五〇	一一三
	二丁	〇、一五	一一三
	一坪	〇、六五	一一三
	一寸	〇〇五	一一三
	十貫	二、五〇〇	八五
	同	二、四〇〇	八五
	同	四、〇〇〇	八五
	同	四、二〇〇	八五
	同	四、〇〇〇	八五
	同	四、二〇〇	八五
	枚	七〇〇	八五
	同	一、二〇〇	八五
	一坪	一、五〇	一一五
	二丁	〇、一五	一一五
	一坪	〇、六五	一一五
	一寸	〇〇五	一一五
	十貫	二、四〇〇	八二
	同	二、三〇〇	八二
	同	三、八〇〇	八二
	同	四、〇〇〇	八二
	同	三、八〇〇	八二
	同	四、〇〇〇	八二
	枚	六五〇	八二
	同	一、一〇〇	八二
	一坪	一、五〇	一一七
	二丁	〇、一五	一一七
	一坪	〇、六五	一一七
	一寸	〇〇五	一一七
	十貫	二、三〇〇	七九
	同	二、二〇〇	七九
	同	三、六〇〇	七九
	同	三、八〇〇	七九
	同	三、六〇〇	七九
	同	三、八〇〇	七九
	枚	六〇〇	七九
	同	一、〇〇〇	七九
	一坪	一、五〇	一一九
	二丁	〇、一五	一一九
	一坪	〇、六五	一一九
	一寸	〇〇五	一一九
	十貫	二、二〇〇	七六
	同	二、一〇〇	七六
	同	三、五〇〇	七六
	同	三、七〇〇	七六
	同	三、五〇〇	七六
	同	三、七〇〇	七六
	枚	五五〇	七六
	同	九五〇	七六
	一坪	一、五〇	一二一
	二丁	〇、一五	一二一
	一坪	〇、六五	一二一
	一寸	〇〇五	一二一
	十貫	二、一〇〇	七四
	同	二、〇〇〇	七四
	同	三、四〇〇	七四
	同	三、六〇〇	七四
	同	三、四〇〇	七四
	同	三、六〇〇	七四
	枚	五〇〇	七四
	同	九〇〇	七四
	一坪	一、五〇	一二三
	二丁	〇、一五	一二三
	一坪	〇、六五	一二三
	一寸	〇〇五	一二三
	十貫	二、〇〇〇	七二
	同	一、九〇〇	七二
	同	三、三〇〇	七二
	同	三、五〇〇	七二
	同	三、三〇〇	七二
	同	三、五〇〇	七二
	枚	四五〇	七二
	同	八五〇	七二
	一坪	一、五〇	一二五
	二丁	〇、一五	一二五
	一坪	〇、六五	一二五
	一寸	〇〇五	一二五
	十貫	一、九〇〇	六九
	同	一、八〇〇	六九
	同	三、一〇〇	六九
	同	三、三〇〇	六九
	同	三、一〇〇	六九
	同	三、三〇〇	六九
	枚	四〇〇	六九
	同	八〇〇	六九
	一坪	一、五〇	一二七
	二丁	〇、一五	一二七
	一坪	〇、六五	一二七
	一寸	〇〇五	一二七
	十貫	一、八〇〇	六六
	同	一、七〇〇	六六
	同	二、九〇〇	六六
	同	三、一〇〇	六六
	同	二、九〇〇	六六
	同	三、一〇〇	六六
	枚	三五〇	六六
	同	七五〇	六六
	一坪	一、五〇	一二九
	二丁	〇、一五	一二九
	一坪	〇、六五	一二九
	一寸	〇〇五	一二九
	十貫	一、七〇〇	六四
	同	一、六〇〇	六四
	同	二、七〇〇	六四
	同	二、九〇〇	六四
	同	二、七〇〇	六四
	同	二、九〇〇	六四
	枚	三〇〇	六四
	同	六五〇	六四
	一坪	一、五〇	一三一
	二丁	〇、一五	一三一
	一坪	〇、六五	一三一
	一寸	〇〇五	一三一
	十貫	一、六〇〇	六一
	同	一、五〇〇	六一
	同	二、五〇〇	六一
	同	二、七〇〇	六一
	同	二、五〇〇	六一
	同	二、七〇〇	六一
	枚	二五〇	六一
	同	五五〇	六一
	一坪	一、五〇	一三三
	二丁	〇、一五	一三三
	一坪	〇、六五	一三三
	一寸	〇〇五	一三三
	十貫	一、五〇〇	五九
	同	一、四〇〇	五九
	同	二、四〇〇	五九
	同	二、六〇〇	五九
	同	二、四〇〇	五九
	同	二、六〇〇	五九
	枚	二〇〇	五九
	同	四五〇	五九
	一坪	一、五〇	一三五
	二丁	〇、一五	一三五
	一坪	〇、六五	一三五
	一寸	〇〇五	一三五
	十貫	一、四〇〇	五六
	同	一、三〇〇	五六
	同	二、三〇〇	五六
	同	二、五〇〇	五六
	同	二、三〇〇	五六
	同	二、五〇〇	五六
	枚	一五〇	五六
	同	三五〇	五六

| | | |

川砂	立坪	同
石材（花崗石）	切面坪	同
同二尺（間知石）	面坪	同
同（板石）	坪	同
セメント	樽	同
生石灰	俵	同
石灰	同	同
煉瓦（並焼一等品）	千個ニ付	同
同（同二等品）	同	同
同（焼過一等品）	同	同
同（同二等品）	同	同



會報

會誌

一、本會雜誌第一輯第十三號は十一月下旬之を刊行し、直ちに各會員各賛助員宛發送したり。

一、尚各府縣知名有力者、各種學會、協會、各新聞社並びに建築に關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

一、本會雜誌第一輯は本號を以て最後とし、來年正月號を以て第二輯第一號となすことゝせり。

一、依つて本誌表紙圖案を懸賞募集に附し本月二十五日を〆切期日となせしが本號〆切迄に既に十數通の應募圖案到着せり。

交換雜誌

建築雜誌　十一月號（建築學會）
建築世界　十一月號（建築世界社）
住宅　十二月號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌第十一號（鐵道協會）
工業之友　第百廿九號　第百四十號（工手學校）
內外建築時報十一月號（內外建築土木時報社）
工業之大日本第十二號（工業之日本社）

寄贈圖書雜誌及新聞紙

世界の議事堂
通俗衛生
木材新聞
ペイント商報
造船鐵工時報
工業評論
オートモビル（第四號）
民家圖集
早瀨塗料商報
電氣學會一覽
鐵道協會會員氏名錄

新入會員

一、左の諸氏は終身賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により此回入會せられたり。

山本辰五郎　山本鑑之進
有山福重郎　池田勘藏
小西兼吉

一、左の諸氏は特別賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議に基き此回入會を承諾せり。

安井武雄　村上文卿
池田宮彦　大野助二

一、左の諸氏は今回普通賛助員たらんことを申込まれたるにより、理事會の決

議に基き入會を承諾せり。

野々山政吉　村上　徹一
中村　重壽　石津　三吉
須川　徹一　間猪　三郎
友澤　淺繼　清水德次郎
酒井紋之助　佐野　譯三
倉崎太三郎　小林鎌太郎
森川喜代之助　福永　茂明
坂東儀三郎　小牧　莊三

會合

大會準備委員總會

日時　大正七年十二月三日午後四時半七時

會場　中央公會堂地下食堂

出席　接待係

片岡、野村、木子、渡邊、內藤、置鹽、村井、能村、矢島、松井、牛村、大林、谷、新海　設樂、

會場　係

松本、石田、小笠原、淺井、吉井田中(勸)田中(豐)山本、小川、熊澤、古賀(特)境(普)

會計　係

池田、吉木、浦、須川、中四、清水、井上、大倉、木村、三木、今林、小寺、岡部(書)

庶務　係

瀨戶、波江、佐藤(彰)佐藤(四)伊藤、高橋、小谷(書)大塚(普)

記事

一、第一回大會に關する各般の準備事項並びに寄附金に關する經過報告をなし本夜は當日の設備連絡につき協議すべき旨を說明せり。

一、六時食堂に於て晩餐を共にし、七時協議會を開始す。

一、各係員係長を定め詳細なる打合研究をなし分擔を定め夫々協議する處あり

一、八時係長會議に移り、全部の連絡統一に關し意見を交換し分擔を定め漸く準備の完成を爲すこと得たり。

本會第一回大會通俗講演會

日時　大正七年十二月五日午後一時半一五時

會場　大阪中央公會堂大集會場

係員役割

接待　係

片岡、宗、野村、木子、村井、渡邊、竹腰、新海、設樂、松井、矢島、能村、大林、本野、谷、加護谷、

講演　係

葛野、內藤、置鹽、

會場　係

松本、山本、谷本、吉井、熊澤、淺井、村井、木村(得)宮嗣、小川田中(勸)山口、田中(豐)小笠原、石田、山崎、古賀(特)境(普)

會計　係

池田、吉木、今林、小笠原、須川田中(綱)池村、小林、小寺、井上三木、浦、木村(梅)中西、清水、大倉、岡部(書)石津(普)

庶務　係

瀨戶、波江、佐藤(四)伊藤、森山佐藤(彰)高橋、糸崎、小谷(書)大塚(普)

記事　(大會記事參照)

本會第一回大會晩餐會

日時　大正七年十二月五日午後六時～九時

會場　大阪中央公會堂大食堂

記事（大會記事參照）

出席會員

石田　信夫　池田　賀
井上準一郎　井尻　眞雄
今林彦太郎　糸崎　周一
花田孝二郎　橋本　勉
土居原龜之助　大倉　直三
小川安一郎　置鹽　章
大林賢四郎　小寺　彌一
小笠原　鈿　鷲尾　九郎
渡邊　圭吾　渡邊　節
金子　巴　河合貞一郎
加護谷祐太郎　葛野壯一郎
吉井　長七　吉木　久吉
谷　民藏　谷本多喜次
高橋　榮治　竹腰　健造
田代　守次　辰野　政二
田中　綱　田中豐太郎
田中　勳　宗　兵藏
園部　文雄　永瀨　狂三
內藤　太郎　內藤　益二
中西　甚作　村井　三吾
浦　英之助　牛村　喜勇
野村　一郎　能村　知二
熊澤榮太郎　久保田小三郎
山本鑑之進　山口　博
山崎　英二　矢嶋　一雄
柳下　實　山口　茂樹
松井貴太郎　松保忠二郎
增田　清　松本　禹象
藤井　厚二　荒木　賢次
淺井　新一　佐藤　四郎
佐藤　彰美　木村得三郎
木村梅次郎　木子　七郎
宮本　金七　宮飼　克二
三木　來三　設樂　貞雄
清水　榮二　島本　四郎
菱田　厚介　平井　三郎
森山　伊望　森　正藏
瀨戶　文吾　須川廉太郎
小林　悉　波江　悌夫
新海　正綱　片岡　安
原田　俊雄　伊藤　正文
本野　精吾　永田善次郎
谷口　厲兒

特別賛助員

古賀　鄕實　村井季四郎

普通賛助員

伊藤幸太郎　石川　寬三
泉谷　千秋　池田熊太郎
西岡　道臣　岡部　顯則
吉岡興平次　高橋　直善
永野　房吉　中川　仙吉
內浦　寅吉　野々山政吉
大塚　錦三　川床　秀吉
久保田繁旡　黑瀨建築工務所
八木　盛次　小谷　信藏
足立彌一郎　青田　忠時
齋藤　又吉　佐野　謹三
境　正一　佐伯與之吉
木原　駒作　湯淺　乙吉
島田　眞馨　清水　隼人
樋口辰太郎　安部　萬助

有志歡迎會

日時　大正七年十二月六日午後六時—十時

會場　北濱四丁目　つるや

出席會員

宗、野村、瀨戶、松本、池田、波江、松井、田中（豐）矢島、葛野、吉木、設樂、石田、置鹽、竹腰、

田中(豐)渡邊、園部、高橋、大林
村井

歡迎來賓

橫河民輔氏　後藤慶二氏
田邊淳吉氏　藤村朗氏
安井武雄氏
佐野利器、眞水英夫兩氏の前夜歸京せられたるは遺憾なりき

記事

一、宗氏一同を代表して挨拶をなす。此回本會第一回大會に際して罷々來會せられしを謝し茲に有志の歡迎會を開くことゝせりと歡迎の辭を述べ、橫河氏來賓を代表して答辭あり。

一、それより各自姓名職務を名乘りて夫々初對面の挨拶に移へ、酒數行、獻酬數回、高話清談漸く湧き來りて交歡頗る隔意なし。

一、八時橫河氏田邊氏歸途を急がるゝより夫々辭去せられしを以て隨意散會せしが殘員十有三名盃盤を徹して時事問題につき議論を上下し痛快を極む、十時袖を連れて歸途に就きぬ。

理事會

日時　大正七年十二月十四日午後五時
　　九時

會場　大阪俱樂部

出席　片岡、池田、波江

記事

一、第一回大會に關する諸般の報告を徵し、其善後策並びに將來の事項につき協議せり。

イ、今後本會の執る方針如何の件

ロ、會計整理を遂げ次回例會へ報告の件

ハ、會誌の將來及其經營法如何の件

ニ、本會第三部委員會の報酬に關するの件

第拾八回例會

日時　大正七年十二月十六日午後四時
　　半　七時

會場　中央電氣俱樂部

出席　池田、瀨戸、宗、能村、伊藤、今林、波江、木子、淺井、浦、須川、高橋、谷本、村野、小谷
（書記）

記事

一、本日は定日(十七日)に支障起りたるを以て愈擧一日を繰り上げたるため會員に頗る差支多く、來會者小數なりしは遺憾なりき

一、池田氏座長となり決議事項は之を省略し、協議會を開き今後本會の執るべき方針につき意見の交換をなし、約十ケ條に亘る項目につき議論を上下し、七時隨意散會せり

一、例會結了後、雜談に耽りたる左の十名は更らに晩餐會を開き氣焰萬丈の高談放語を續け、牛飮馬食の愉快を共にしたり。

瀨戸、池田、波江、村野、谷本、高橋、淺井、木子、浦、須川、

役員及職員

理事長	片岡安	
理事	池田寛一（主計）	
	野村吾郎（編輯）	
	瀬戸文胖（編輯）	
	日高悌夫（主記）	
	波江松太郎	
編輯補	伊藤正象	
	佐藤四郎	
	本田登	
書記	岡部顯則	
	小谷信藏	

會員	一二六
名譽贊助員	一七
特別贊助員	十
會員（地方）	二八
終身贊助員	三五
普通贊助員	二三二

本誌及廣告料定價表

本誌		
冊數	定價	郵稅
一冊	金參拾錢	貳錢
十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	
一頁	拾五圓	
特別頁	貳拾圓	
裏表紙	表貳拾五圓	

大正七年十二月二十日印刷
大正七年十二月廿五日發行（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人 伊藤幸太郎

兼印刷人 大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所 大阪活版所

大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所 關西建築協會

電話本局二二四一番
振替口座大阪三九九七五

關西建築協會雜誌第一輯 自第一號至第十四號 主要總目錄

◆口繪……2
◆主張……6
◆論說……6
◆寄稿……8
◆話說……8
◆名流の住宅觀……9
◆譯文……10
◆研究……10
◆趣味……11
◆叢錄……11
◆通信……31
◆報告……13
◆時報……14
◆會報……15
◆編輯だより……16
◆附錄……16

關西建築協會雜誌第一輯 自第一號至第十四號 總目錄

◈口繪

□新裝されつゝある中之島一帶の遠望(三色版)□新裝せる歐米の二大都市廳舍倫敦市紐育市□都市建築の今昔(一)大阪朝日新聞社□都市建築の今昔(二)住友銀行大阪市內船場支店□低級なる都市建築の(一)大阪市電梅田車庫及四橋交叉點の市電用建物……(一ノ一)

□新しき三越大阪支店(三色版)大正五年度出火場分布圖□世界最高の建築紐育市ウールウォース館□都市建築の今昔(三)藤田組本店□都市建築の今昔(四)大阪府立物產陳列所□低級なる都市建築の(二)大阪築港潮湯及大阪築港博覽會建物□十月一日東京市內に於ける颶風被害の慘狀□淀川北岸大洪水の實況……(一ノ二)

□獨軍に脅迫されつゝあるヴエニス市(三色版)□大阪市及接續町村の學校負擔區別傳染病發生比較表□罹災前の東京國技館(內部及外部)□國技館燒跡の慘狀□都市建築の今昔(五)新裝成りたる住友銀行東京支店□都市建築の今昔(六)東京銀行集會所の新館□獨飛行機の夜襲に脅かされつゝある倫敦□聯合軍飛行機の投下爆彈が小亞細亞ベールー港の鐵道驛に命中して盛に延燒しつゝある光景□神戶郵便局の火災……(一ノ三)

□米國議事堂附屬圖書館內部(三色版)北亞米利加合衆國々會議事堂□テームス河畔の英國々會議事堂□英國々會議事堂內セント、ステフエンス、ホール及圖書閱覽室□獨逸帝國々會議事堂□墺國々會議事堂□ダニーブ河畔の洪牙利國々會議事堂□都市建築の今昔(七)山下汽船株式會社新館□都市建築の今昔(八)日本生命保險株式會社京都支店新館……(一ノ四)

□兵庫縣農工銀行配景圖(三色版)□白耳義國々會議事堂□露國々會議事堂□西班牙國々會議事堂□獨逸帝國々會議場□洪牙利國々會議場□北米合衆國々會議場□佛蘭西國本貯藏銀行新館□都市建築の今昔(十)株式會社近江銀行新館……(一ノ五)
□大阪堂島川北岸の偉觀(三色版)□紐育高等法院平面圖(三頁大)□紐育高等法院配景圖□世界最高建築ウール、ウォース館(夜景、工事中、平面圖、內部)□都市建築の今昔(十一)株式會社丁酉銀行東京本店新館□都市建築の今昔(十二)株式會社三井銀行大阪新町支店新館□三越呉服店新館と舊館の燒跡……(一ノ六)
□東京市丸の內の模範道路(三色版)□新築の臺北廳舍□臺北市の今昔(一)府中街五丁目(左)府後街三丁目(右)□臺北市の今昔(二)西方より見たる府前街四丁目□臺北市の今昔(四)西方より見たる文武街一丁目□臺北市の今昔(五)南方より見たる文武街一丁目□臺北市の今昔(六)北より見たる(右)府前街(左)府中街□臺北市の今昔(七)南方より見たる(右)府中街(左)府前街□臺北市の今昔(八)府後街三丁目より二丁目□臺北市の今昔(九)府後街二丁目より三丁目□臺北市の今昔(十)府中街五丁目□假定大阪市改正街路圖(八頁大)……(一ノ七)
□大阪市堺筋の高層建築(二色版)□紐育の市街觀(一)ホドソン河の對岸より見たるマンハッタン區の偉觀□紐育の市街□(二)マンハッタン區よりブルウクリンを見たる鳥瞰圖(二頁大)□紐育の建築(一)紐育市廳舍□紐育の建築(二)シンガー館□紐育の建築(三)シチイ、インベスチング館□紐育の建築(四)エクキテーブル生命保險會社建物□紐育の建築(五)フラット、アイヨン館□紐育の建築(六)アダムス館□紐育の建築(七)(一ノ八)

バンカース、トラスト建物口紐育の建築(八)リバアチー塔口紐育の建築(九)紐育株式取引所口紐育の建築(十)合同株式取引所口都市建築の今昔十三朝鮮銀行大阪支店新館
口大阪市娯樂地區隨一なる道頓堀(三色版)口倫敦の名所(一)二十世紀の倫敦塔と塔橋
口倫敦の名所(二)ウエストミンスター禮拜堂口倫敦の名所(三)セントポール寺院口倫敦の名所(四)ウエストミンスター寺院口倫敦の名所(五)ビクトリアエンバックメント及現在の倫敦橋口倫敦の名所(六)王立手形交換所(右)と英蘭銀行(左)及ストランド通とアルトウキツチ通口倫敦の名所(七)ルボルンバーの古代建物及レジエント街の雜沓
□倫敦の名所(八)倫敦地下鐵道及倫敦地下電氣鐵道口都市建築の今昔十四愛國生命保険會社と高麗橋通一丁目の建物……
口大阪難波橋北畔より船場一圓を見る(三色版)口巴里の誇(一)巴里市ノートル、ダーム寺□巴里の誇(二)パンテオン口巴里の誇(三)エトアールの凱旋門口巴里の誇(四)巴里市グラン、オペラ口巴里の誇(五)エッフエル塔口巴里の誇(六)トロカデ博物館口巴里の誇(七)セーヌの流及歡樂の町口巴里の誇(八)サンヂエルマン大通及コシコード廣場口巴里の誇(九)ヴエルサイユ宮殿内の戰爭の大廣間及ルーブル博物館内のリユウベンス畵房口巴里の誇(十)ルーヴル博物館の前庭及グラン、バレーの外觀口巴里の誇(十一)巴里ノートル、ダーム寺の怪像口都市建築の今昔十六三井物産會社大阪支店……
口大阪市の表玄關たる梅田停車場(三色版)口伯林見物(一)戰勝記念塔口伯林見物(二)スプレー河畔の獨逸皇宮口伯林見物(三)伯林中央寺院口伯林見物(四)フレドリッヒ皇帝博物館口伯林見物(五)獨逸皇室劇場口伯林見物(六)伯林遊就館口伯林見物(七)ブランデンブルグ門口伯林見物(八)チーアカルデンの凱旋道路及國立繪畵館口伯林見物

(九)ウンテルデンリンデン街の一及二口伯林見物(十)ローン記念像及ピンマルク記念像口伯林見物(十一)伯林動物園及伯林大學口都市建築の今昔(十七)株式會社三井銀行神戸支店新館……(一ノ十二)
口大阪市南部の娯樂地區(三色版)口墺都と洪都(一)聖ステフエン寺院口墺都と洪都(二)維納市廳とリングストラッセ口墺都と洪都(三)墺國々會議事堂口墺都と洪都(四)維納宮殿口墺都と洪都(五)維納帝室劇場口墺都と洪都(六)維納大學口墺都と洪都(七)ブタペストの法衙口墺都と洪都(八)維納市繁街の一及二口墺都と洪都(九)ションブラン離宮及ドルンバツヘル遊園地口墺都と洪都(十)洪牙利の王城及ブタペスト市内の遊園地口墺都と洪都(十一)ブタペスト市とドナウ河及市の繁街口都市建築の今昔(十八)日本郵船株式會社神戸支店新館……(一ノ十三)
口大阪市中部の娯樂地區(三色版)口平和の都(一)ワシントン記念柱口平和の都(二)ワシントン記念柱より遠望せる東方鳥瞰圖口平和の都(三)ワシントン記念柱より遠望せる北方鳥瞰圖口平和の都(四)合衆國々會議事堂口平和の都(五)米國大統領就任式當日の壯觀口平和の都(六)國會圖書館口平和の都(七)ペンシルベニア大通口平和の都(八)白堊館の北面玄關及白堊館の東表玄關口平和の都(九)合衆國大藏省と國務省陸海軍省口平和の都(十)華府の軍人俱樂部と合衆國政府印刷局口平和の都(十一)ユニオン大停車場及ユニオン停車場の大待合室口都市建築の今昔(十九)古河商事株式會社大阪支店新館……(一ノ十四)
口大阪市中央公會堂開館當日の群集口本會第一回大會通俗講演口(一)(二)口本會第一回大會晩餐會の光景(一)(二)口大阪市中央公會堂正面、側面、背面、貴賓室、中食堂地下食堂……

◈主張

△發刊の辭……（一ノ一）
△災害防備之急要……（一ノ二）
△保健法實施の急務……（一ノ三）
△都市改良機運熟成……（一ノ四）
△社會政策と住居改良……（一ノ五）
△市區改正と都市建築……（一ノ六）
△都市建築改造の機運……（一ノ七）
△大阪市街系統改正……（一ノ八）
△救濟事業調査會の設置……（一ノ九）
△社會政策的都市經營……（一ノ十）
△都市内外の住居欠乏……（一ノ十一）
△都市建築と物價暴騰……（一ノ十二）
△家屋政策確立の急要……（一ノ十三）
△小住宅問題の勃興……（一ノ十四）

◈論說

△都市大火の危險……片岡安（一ノ一）
△議院建築調査會に就いて……淮敬生（一ノ一）
△住宅建築の改造……本野精吾（一ノ二）

△火災保險率協定案と倉庫建築……（一ノ二）
△建築の經濟觀……片岡安（一ノ二）
△議院建築問題……片岡安（一ノ二、四）
△住宅問題……（一ノ三）
△圖防上より觀たる都市の防備……片岡安（一ノ三）
△衛生時論……（一ノ三、四）
△我邦の住宅改良第一策……片岡安（一ノ四、五、六）
△國民保健に關する輿論……（一ノ五）
△學校建築と火災……NT生（一ノ五）
△建築博覽會の開催に就て……淮敬生（一ノ六）
△佛寺建築の將來……波江悌夫（一ノ六、八、九、十）
△我國都市改良計畫の將來……片岡安（一ノ七、八）
△都市計畫と市民的訓練……葛野壯一郎（一ノ八）
△結核病と住宅改良問題……片岡安（一ノ九）
△懸賞規定と審査員の態度……矮燕生（一ノ九）
△都市計畫より見たる遷都……片岡安（一ノ十、十一、十二）
△懸賞規定と思想の推移……矮燕生（一ノ十二）
△都市計畫と建築界の任務……野村一郎（一ノ十三）
△明治神宮外苑記念建造物懸賞當選圖案に就て……大藏生（一ノ十三）
△建築批評家の出藏を望む……秋水生（一ノ十四）

◆寄稿

△英國に於ける住居及都市計畫法令……大阪高商敎授…伊藤眞雄（一ノ五、六、七）
△大阪市の尿屎問題……大阪市技師…野田泰男（一ノ六、七）
△最近の大阪港……大阪市役所…港灣部（一ノ八、九、十）（十一）
△技術家とは何ぞや……大阪市港灣部長…直木倫太郎（一ノ八、九）
△覺めたる聲……大阪市港灣部長…直木倫太郎（一ノ十、十二）
△物價騰貴と都市社會政策……都市協會幹事…藤原俊雄（一ノ十二）
△運河に就て……東京高商敎授…石川文吾（一ノ十三、十三）
△紐育市雜觀……早稻田大學敎授…內藤多仲（一ノ十五）
△都市住宅問題……大阪市助役…關一（一ノ十四）

◆話說

△我校の生徒養生に就て……藤本好雄（一ノ三）
△在米所感……森山伊望（一ノ三）
△公共築造物の管理及改善……葛野壯一郎（一ノ四）
△座習の利害……葛野壯一郎（一ノ五）
△官公署に於ける建築課の獨立……池田實（一ノ五）
△紐育のウールウォーズビルヂングと高等法院……中榮徹郎（一ノ六）
△婦人と衣食住……葛野壯一郎（一ノ六）
△都市と日光……牛村喜勇（一ノ七）

△日本の都市……日高　胖（一ノ八）
△家相論……葛野壯一郎（一ノ十四）

◈名流の住宅觀

□佐多愛彦氏□本山彦一氏□平賀敏氏□小倉正恒氏□麻生二郎氏……（一ノ三）
□在來の住宅を改良して……西園寺新子氏
□間取りの注文……手塚かね子氏（一ノ十）
□衛生上より見たる住宅建築……吉岡彌生氏
□椽外の硝子障子は故博士の創案……鳩山春子氏
□お台所中心の家庭……入澤常子氏（一ノ十一）
□西洋風にしかけた住宅の失敗……左近まつ子氏
□應接間だけを洋風に……楠瀨幸彦氏
□人手主義を廢して……小山　温氏（一ノ十二）
□經濟衛生實用の見地から……內田嘉吉氏
□建てるまでと建ててから……中村歌右衛門氏
□夫婦で住宅の新工夫……櫻田節彌子氏（一ノ十三）
□事務所と私宅とを同じ家にして……有澤さく子氏
□良いと感じたこと……松岡都奈子氏
□肝要な室々の構造……井上秀子氏（一ノ十四）
□洋館に住んでよいと思ふことは……木村永子氏

◈譯　文

△東京市街の建築的賓濱……武田五一（一ノ三）
△建築の強さ……（一ノ四）
△紐育市の交通問題……伊藤正文（一ノ五、六、七）
△地帶式都市計畫條例……伊藤正文（一ノ十二）
△改良住宅……今林彥太郎（一ノ七）
△低廉なる職工住宅建築……牛村喜勇（一ノ八）
△亞米利加の花……伊藤正文（一ノ八）
△亞米利加の田園住宅……谷本多喜治（一ノ八、九、十）
△米國に於ける職工住宅經營法……葛野壯一郎（一ノ九、十、十二）
△セントルイス市に於ける地帶式都市計畫條例……伊藤正文（一ノ十二）
△建築の職業と其技術に就て……日高胖（一ノ十一）

◈研　究

△大阪市の細民住宅に就て……KU生（一ノ四、五、六）
△建築敷地に就て……設樂貞雄（一ノ五）
△臺北市の市區改正に就て……野村一郎（一ノ七）
△本邦森林と建築用材に就て……谷民藏（一ノ七、八、九、十、十一、十二、十三）
△赤阪大理石に就て……TT生（一ノ八）
△內譯見積書の添削に就て……瀨戸文吾（一ノ十三）

△演劇と建築……波江悌夫（一ノ十二、十三）
△計畫と設計……波江悌夫（一ノ十四）

◈趣味

△神殿建築と高天原……波江悌夫（一ノ一、二）
△建築史ローマンス……須藤眞金
○空中の庭園……（一ノ一）
○バルテノンの哀話……（一ノ二）
○"KA"の獨白……（一ノ三）
○ポンペイの最後の日……（一ノ五）
○戀の柱頭……（一ノ九）
○老建築師の思ひ出……（一ノ十一）
○スコットの記念像……（一ノ十二）
△東大寺建築史……須藤眞金（一ノ六、七、九、十）
△建築と趣味……香櫨書生（一ノ九、十二）
△東都古建築觀……伊藤清造（一ノ十二、十三、十四）

◈叢錄

△家相問答……葛野壯一郎（一ノ一、二）
△コンクリート……大蘆生（一ノ一）
△淀川の洪水と河村瑞軒……（一ノ一）

水の行衛……野人生（一ノ二）
△石と日本人……大蔵生（一ノ二）
△議院建築問答……TN生（一ノ三）
△貧しき家より……うき生（一ノ三）
△暗の光……野人生（一ノ三）
△議院建築回想録……（一ノ四）
△會員の聲……夏雲生（一ノ四）
△戰爭と建築……大蔵生（一ノ四）
△大阪を立退いて……まがね（一ノ四）
△曉の鐘……野人生（一ノ四）
△他山の石……（一ノ五）
△建築と心……正文生（一ノ五）
△北木島紀行……野人生（一ノ五、六）
△落花片々……（一ノ六）
△亞米利加の建築……大蔵生（一ノ六）
△川の都……野人生（一ノ六）
△青葉の山……（一ノ七）
△淀の流……澱水生（一ノ十〇）
△建堂閑話……蜀望生（一ノ十一、十二）
△戰の跡……野人生（一ノ十四）

◆通信

△天下ノ秋……甲南生（一ノ一）
△東都の友へ……甲南生（一ノ三）
△東京通信……江都生（一ノ七）
△帝都通信……丘周生（一ノ九）
△東京通信……江都生（一ノ十二）
△關西建築協會第一回大會記事……（一ノ十四）

◆報告

△蘆分倉庫の爆發事件調査報告書……第四部委員會（一ノ一）
△天滿青物市場災害調査報告書……第四部委員會（一ノ二）
△風と水……（一ノ二）
△三國「セルロイド」會社工場災害調査報告書……第四部委員會（一ノ三）
△國技館災害視察報告……葛野壯一郎（一ノ三）
△國技館災害視察所感……木子七郎（一ノ三）
△神戸郵便局の火災に就て……波江悌夫（一ノ三）
△安田倉庫の經驗せる火災に就て……波江悌夫（一ノ四）
△雪と建築……木子七郎（一ノ五）

△三越呉服店の火災に就て……第四部委員會（一ノ六）
△神戸市榮町に於ける火災に就て……第四部委員會（一ノ十）
△大阪工業試驗所の火災に就て……第四部委員會（一ノ十一）
△神戸市に於ける燒打事件に就て……H I 生（一ノ十二）
△大阪中央公會堂建築工事に就て……谷 民藏（一ノ十四）

◈時報

□都市建築法令調査會設立に關する建議案……（一ノ四）
□東京市區改正條例の改正……（一ノ七）
□建築業協會の消息……（一ノ八）
□第五回結核豫防聯合會□都市計畫調査委員會□聖德記念繪畫館及葬場殿趾記念建造物設計圖案募集規定□故會員西村愷禰君と高知縣廳舍配景圖……（一ノ九）
□米國に於けるプレーグラウントの狀況（大阪市の調査に依る）□グアテマラ市の大地震□大阪市改正の範圍□大阪府の總入口□大阪市內空氣試驗□阪神國道擴築計畫□尼崎市上水道□堺市鹽泉問題協定□保健調査會の調査方針……（一ノ十）
□故名譽賛助員安永義章氏……（一ノ十一）
□議院建築意匠設計懸賞募集規程□議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答（臨時議院建築局）□聖德記念繪畫館設計圖案當選者……（一ノ十二）
□議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答（議院建築局）□建築業協會と建築材料及工手間調査……（一ノ十三）

□議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答（議院建築局）□建築業協會と建築材料及工手間調査……（一ノ十四）

◆會報

□本會の創立□第一回例會□特別委員會□第二回例會□第三回例會□特別理事會□第四回例會□臨時役員會□臨時例會……（一ノ一）
□臨時役員會（附編輯會）□第五回例會□特別理事會□第六回例會□臨時役員會（編輯會）□第七回例會……（一ノ二）
□特別理事會□秋季大會□臨時役員會□第八回例會……（一ノ三）
□會計大正六年度收支決算書□特別理事會□特別理事會（七、一、一五）□第九回例會……（一ノ四）
□特別理事會□第十回例會□臨時役員會……（一ノ五）
□春季大會□理事會……（一ノ六）
□特別理事會□第十一回例會……（一ノ七）
□特別理事會□第十二回例會……（一ノ八）
□特別理事會□第十三回例會……（一ノ九）
□理事會兼各部委員長會□第十四回例會□理事會兼各部委員長會（七、七、二六）……（一ノ十）
□理事會□臨時理事會（七、八、一四）□臨時理事會（七、八、二一）□納涼親睦會……（一ノ十一）
□新委員指名追加□理事會ー附五日會□特別理事會ー第一部委員會□第十五回例會□……（一ノ十二）
特別理事會ー附第六部委員會□日高、光安兩氏送別會□特別理事會□第十六回例會……（一ノ十三）
□理事會□第六部委員會□特別理事會□第十七例會……（一ノ十三）

□大會準備委員會□第一回大會□有志歡迎會□理事會□第十八回例會……（一ノ十四）

編輯だより

□編輯だより……（一ノ三ー十四）

附錄

□危險物品取締規則……大阪府令……（一ノ二）
□都市計畫（チルソンリユイス述）……（一ノ三、四、五）
□ベヂチヤ市建築條例……（一ノ六）
□羅馬市建築條例……（一ノ七）
□維納市建築條例（上）……（一ノ八）
□墺匈國首府維納市建築條例（下）……（一ノ九）
□巴里建築條例……（一ノ十）
□議院建築意匠設計懸賞募集規程……（一ノ十一）
□巴里市衛生警察令……（一ノ十二）
□巴里市衛生規則……（一ノ十三）
□關西建築協會雜誌第一輯自第一號至第十四號主要總目次……（一ノ十四）

廣告目次

ハ、原安商會　一七
ニ、日本石綿盤株式會社　二七
日本コル株式會社　二五
ヘ、米國貿易會社　二一
ト、東松工作所　(前)二
オ、大阪窯業株式會社　裏表紙表
大阪煖房商會　二〇
大野式特許品營業所　一四
ヨ、横河橋梁製作所　二五
タ、高田商會　一八
田中タイリング商會　二六
レ、土木建築内外材料合資會社　一六
ム、村井工業所　二八
ノ、野澤幸三郎　二六
マ、松尾和助商店　裏表紙裏
ケ、建築事務所案内　四
建築請負業者案内　六
コ、コルク工業合資會社　二二
エ、榮進社　一一
ア、秋山小林商店　(前)一
淺野スレート株式會社　二四
メ、明正社　一九
ミ、みよし組大阪支店　二三
モ、木材商案内　一〇
セ、石材商案内　一〇
ス、須賀商會　一五
巢鴨製作所　一二